大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

17

２０１３年１０月

大 阪 府 教 育 委 員 会

はじめに

大阪府教育委員会文化財保護課の分室として文化財調査事務所が設置されて17年目を迎えました。本事務所は、総合的な文化財調査機能を持つ拠点施設として開設されるとともに、埋蔵文化財の調査と保護、整理・収蔵を担う埋蔵文化財センターとしての機能を果たしてきました。

この間の経済状況の変化は著しく、本調査事務所が開設された平成9年をピークに全国の埋蔵文化財の発掘調査費用も大きく減少に転じています。当調査事務所においても大規模な開発事業は減少傾向にありますが、道路拡幅や歩道設置、既存建物の耐震補強・エレベーター設置などの小規模事業が相対的に増加しています。そのため埋蔵文化財に対する綿密な対応が求められているところです。

一方、府民の文化財に対する関心は高まり、世界遺産をはじめとした文化遺産の活用と公開がより一層強く求められる時代となっています。調査事務所では、必要な調査を適切に実施し、調査成果を迅速に公開できるよう、調査実施前の協議調整から、発掘調査の実施、遺物や資料の整理作業、報告書の刊行といった一連の業務を組織的に行っています。また、博物館などの公開施設をはじめ、多様な府民のニーズに応えられるよう、整理した資料を活用できる状態で保管し、そのデータを整理しています。今年度末には、新しく和泉池上収蔵庫が完成する予定で、公開活用を前提にした、より効率的な資料収蔵を実施する計画です。

今後とも文化財が国民の財産であるという原点に基づき、文化財保護行政の遂行に努めたいと思いますので、皆様のご支援とご協力を切にお願いするものです。

平成25年10月

大阪府教育委員会事務局

文化財保護課長　荒井大作

例　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第 17 冊である。

2．本書には、本府教育委員会が実施した平成 24 年度の発掘調査及び普及公開活動等の記録を記載している。

3．埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は表３・４・5 の調査番号に一致する。
遺跡名（平成 24 年度調査番号）
（1）所在地
（2）調査の原因となった事業
（3）調査担当者

4．各項の執筆分担は、次のとおりである。

・「平成 24 年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第二グループ
・「主要発掘調査の概要報告」	調査管理・第一・第二グループ
・「資料紹介」	調査管理・第二グループ
・「府立大阪博物場旧蔵資料」	調査管理グループ
・「事業報告」	調査管理グループ
・「平成 24 年度検討会および資料」	調査管理グループ
・「平成 24 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
・「平成 24 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
・「平成 24 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グリープ

5．本書の編集は、調査管理グループが行った。

6．本書は 500 部作成し、一部あたりの単価は 244 円である。

目　次

はじめに
例　　言
平成 24 年度における埋蔵文化財調査の概況 ……1
【主要発掘調査の概要報告】……6
　久宝寺遺跡　（１２００１・１２０３８）……7
　百済寺遺跡　（１２００２）……8
　一津屋町遺跡　（１２００６）……9
　芹生谷遺跡　（１２００７）……10
　天満蔵屋敷跡　（１２００９）……11
　太井遺跡　（１２０１３・１２０２８）……12
　田園遺跡隣接地　（１２０１７）……13
　豊中遺跡　（１２０１８）……14
　土師ヶ町遺跡　（１２０１９）……15
　大県遺跡　（１２０２４）……16
　池上曽根遺跡　（１２０２９・１２０３５）……17
　川北遺跡　（１２０３０）……18
　北鳥池遺跡　（１２０３４）……19
　安威城跡　（１２０３９）……20
　高井田横穴群・平尾山古墳群　（１２０４０）……21
　百済寺遺跡　（１２０５２）……22
　加治・神前・畠中遺跡　（１２０５７）……23
　禁野本町遺跡　（１２０６０）……24
　金龍寺旧境内跡　（１２０８１）……25
　千提寺市阪遺跡・千提寺クルス山遺跡　（１２０８２）……26
　成合地獄谷遺跡　（１２０８３）……28
　萩之庄南遺跡　（１２０８４）……29
　長池窯跡群　（１２０８５）……30
【資料紹介】……31
　大阪府土師の里遺跡出土縄文時代半輪状土製品 ……31
　弥生以後の池上曽根 ― 古墳時代集落とその出土遺物について ― ……33
【府立大阪博物場旧蔵資料】……44
　大阪の至宝 ― 世界のコインとメダル ― ……44
　ガウランドの壺 ― 大阪を愛したお傭い外国人 ― ……47
【事業報告】……49
　文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業 ……49
平成 24 年度検討会および資料 ……53
平成 24 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧……54
平成 24 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧 ……55
　実物資料・複製資料長期貸出 ……55
　実物資料・複製資料短期貸出 ……57
　資料撮影・写真・図面等貸出・掲載 ……58
　資料閲覧……61
平成 24 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図……64
調査事務所平面図……65

挿図目次

図 1　主要調査位置図…… 6
図 2　調査地区位置図…… 7
図 3　A地区第 6 層上面全景及び土器出土状況…… 7
図 4　南区全景（東から）…… 8
図 5　瓦細片を敷いた遺構…… 8
図 6　北区全景（東から）…… 8
図 7　谷埋土遺物出土状況…… 8
図 8　一津屋町遺跡確認調査の位置…… 9
図 9　旧地形図（1961）と調査区の位置…… 9
図 10　8 区の調査…… 9
図 11　調査地位置図…… 10
図 12　発見された竪穴住居と金山古墳…… 10
図 13　天満蔵屋敷跡位置図…… 11
図 14　土層断面模式図…… 11
図 15　弘前藩蔵屋敷の位置…… 11
図 16　調査地位置図…… 12
図 17　2 トレンチ遺構検出状況（東から）…… 12
図 18　1 区遺構検出状況（南から）…… 12
図 19　副葬品出土状況（西から）…… 12
図 20　調査区位置図…… 13
図 21　B区調査状況…… 13
図 22　現代盛土出土須恵器…… 13
図 23　調査区位置図…… 14
図 24　和泉支援学校の位置図…… 14
図 25　学校建設以前の地図（1961 年）…… 14
図 26　調査区位置図…… 15
図 27　西トレンチ全景…… 15
図 28　東トレンチ全景…… 15
図 29　大県遺跡調査区位置図…… 16
図 30　B工区北全景（南から）…… 16
図 31　B工区井戸 62 遺物出土状況…… 16
図 32　位置図…… 17
図 33　トレンチ配置図…… 17
図 34　1 トレンチ西端土層図…… 17
図 35　川北遺跡位置図…… 18
図 36　土層断面模式図…… 18
図 37　調査区位置図…… 19
図 38　調査完了状況…… 19
図 39　土層断面（西壁）…… 19
図 40　調査位置図…… 20
図 41　竈検出状況…… 20
図 42　調査区南壁断面（地震断層、北から）…… 20
図 43　右から 18・19 号横穴…… 21
図 44　右から 15・16・17 号横穴…… 21
図 45　1 号墳々丘裾検出状況…… 21
図 46　1 号墳推定規模…… 21
図 47　調査区位置図…… 22
図 48　調査区全景（西から）…… 22
図 49　柱穴検出状況…… 22
図 50　試掘位置図…… 23
図 51　南西区全景（東から）…… 23
図 52　南西区土層断面模式図…… 23
図 53　出土遺物…… 23
図 54　調査地位置図…… 24
図 55　東区全景（東から）…… 24
図 56　西区全景（北から）…… 24
図 57　不定形落込み遺物出土状況…… 24
図 58　調査地位置図…… 25
図 59　調査区の位置と金龍寺旧境内跡拡大範囲…… 25
図 60　4 － 1 区全景（北西から）…… 25
図 61　4 区出土須恵器…… 25
図 62　調査対象地…… 26
図 63　千提寺市阪遺跡周辺（北東から）…… 26
図 64　2-1 区全景（西から）…… 26
図 65　千提寺クルス山遺跡周辺（北西から）…… 26
図 66　6 区調査前のキリシタン墓碑発見地石碑及びキリシタン墓碑…… 27
図 67　市阪山頂（67 区）石仏散乱状況…… 27
図 68　調査区の位置と遺跡の範囲…… 27
図 69　調査対象地…… 28
図 70　地獄谷右岸調査地周辺（北西から）…… 28
図 71　成合地獄谷遺跡範囲…… 28
図 72　萩之庄南遺跡調査地位置図…… 29
図 73　調査区西側 510 溝検出状況（西から）…… 29
図 74　調査区平面図…… 29
図 75　調査地位置図…… 30
図 76　調査区全景…… 30
図 77　炭窯 2…… 30
図 78　出土地点…… 31
図 79　半輪状土製品実測図（S：1/2）…… 31
図 80　半輪状土製品写真…… 31
図 81　土師の里遺跡 79-17 区出土縄文土器…… 32
図 82　土師の里遺跡 79-17 区出土石器・石製品…… 32
図 83　特別企画展チラシ…… 33
図 84　調査区の位置と周辺の遺跡…… 34
図 85　調査区平面図（S=1/500）…… 35
図 86　第 3 地区全景…… 35
図 87　土器溜り遺構遺物出土状況…… 35
図 88　住居跡形（方形）落込み遺物出土状況…… 35
図 89　SE5 遺物出土状況…… 35
図 90　土器溜り遺構遺物出土状況及び出土土器（1）…… 36
図 91　土器溜り遺構出土土器（2）…… 37
図 92　住居跡形（方形）落込み出土遺物…… 38
図 93　SE2・5 遺物出土状況及び各遺構出土土器…… 39
図 94　香港 1 円銀貨…… 45
図 95　ルイ 16 世の銅貨…… 45
図 96　正装のマリア・テレジア…… 45
図 97　喪服のマリア・テレジア…… 45
図 98　メキシコ対仏戦争のメダル…… 46
図 99　文久遣欧使節のメダル…… 46
図 100　ガウランドの壺…… 47
図 101　ガウランドの壺実測図（1/6）…… 47
図 102　箱書…… 48
図 103　箱書拡大（抜粋）…… 48
図 104　中学生の職場体験学習…… 49
図 105　現地公開風景（上：芹生谷遺跡 下：太井遺跡）…… 49
図 106　大県遺跡展示会風景…… 49
図 107　高石市郷土資料館での展示…… 50
図 108　出かける博物館での講演会の様子…… 50
図 109　弥生プラザ 和泉寺跡の展示…… 50
図 110　弥生プラザ 田井中遺跡の展示…… 50
図 111　検討会の様子…… 53
図 112　北部収蔵庫外観…… 53
図 113　文化財調査事務所収納状況…… 53
図 114　泉佐野収蔵庫収納状況…… 53
図 115　民俗資料収納状況…… 54
図 116　大阪博物場資料（美術工芸品等）収納状況…… 54
図 117　図面等収納状況…… 54
図 118　図書収納状況…… 54
図 119　平成 24 年度刊行物集合…… 54
図 120　文化財調査事務所平面図…… 65

平成 24 年度における埋蔵文化財調査の概況

調査件数及び面積

平成 24 年度の調査件数は、発掘調査 17 件、試掘調査 23 件、確認調査 14 件、立会調査 31 件の計 85 件で、調査面積の合計は 10,531㎡であった。平成 23 年度の件数は計 80 件であったので、多少数が増えたように思われるが、その原因は試掘調査の増が中心で、調査期間が長期となる発掘調査の件数は大幅に減少した。最近数年の内では最も少ない発掘件数となっている。

また調査面積も、今年度は昨年度に比べて大幅に減少した。平成 18 年度以降は毎年徐々に減少している傾向にはあるものの、今年度は激減したといえる。これは公共事業の見直しとともに東日本大震災の復興予算の影響で、住宅関連事業の発掘調査がほとんど休止したことが大きな要因と考えられる。

さらに原因別調査種別表（表 1）をみると調査件数では、道路関係の事業が圧倒的に多い。ついで住宅事業となるが、長年継続した下水事業が一段落したことと、先に述べた震災の影響で住宅事業に関する調査が確認・試掘・立会調査にとどまったことで例年に比べて偏った状況であるといえる。なお、地域別調査面積（表 2）では南河内地域が最も多く、ついで三島地域、中河内・北河内・泉州地域はほぼ同じような調査面積で並んでいる。

主な調査成果

平成 24 年度の主要な発掘調査成果について、時代ごとに概観する。

旧石器時代

新たな調査成果はなかった。

縄文時代

柏原市**大県遺跡**（12024）では、流路中から縄文土器やサヌカイト片を多量に出土した。遺構は確認できなかったが、縄文時代中期から後期にかけての良好な資料を得たといえる。

弥生時代

八尾市**久宝寺遺跡**（12001・12038）では、弥生時代中期以降の生産（水田）域を検出し、水田域がさらに北側及び西側に広がることを確認した。

柏原市**大県遺跡**（12024）では、弥生時代中期の円形の竪穴住居跡や溝等の遺構を確認した。

和泉市**池上曽根遺跡**（12029・12035）は、弥生時代中期の環濠集落として著名な遺跡である。確認調査を実施したのは、史跡指定地の南東端から南方へ約 100m の地点である。調査は大小 7 ヶ所のトレンチを設定して実施したが、弥生時代の遺構・遺物を確認できなかった。土層の堆積も流水によるもので、湧水も激しく、非常に不安定な地域といえる。

藤井寺市**川北遺跡**（12030）は、遺構は確認できなかったが、河川堆積層から弥生土器、土師器、須恵器などを出土したことで、従来の川北遺跡の範囲を西側に拡大することとなった。

東大阪市**北鳥池遺跡**（12034）は、今回の調査では、弥生時代相当層まで調査を実施したが、付近一帯は洪水堆積層であり、遺構は確認できず、遺物も弥生時代相当層からの出土はなかった。

高槻市**萩之庄南遺跡**（12084）では、昨年度検出した弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落域の北側縁辺部を確認した。

表 1　原因別調査面積・件数一覧

＊面積は㎡である

年度／原因	15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度		22 年度		23 年度		24 年度	
	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数
住　宅	12,522	19	13,817	17	15,453	7	14,730	15	11,169	10	488	8	1,799	9	6,454	14	6,227	12	124	9
農　林	12,441	7	10,308	6	9,068	9	1,970	4	1,564	5	672	3	587	4	1,754	4	1,254	3	1,741	3
道　路	11,008	21	11,423	18	12,712	33	7,468	22	11,422	24	10,468	17	5,629	21	4,968	27	5,255	20	6,404	25
下　水	13,017	6	13,150	7	8,174	9	2,181	5	180	3	7,787	5	6,417	8	1,011	16	1,650	9	16	1
河　川	1,598	4	5,204	5	9,063	2	3,883	2	204	2	10	2	0	1	36	4	0	1	48	1
学　校	1,054	7	144	9	809	7	24	8	12	1	140	1	361	5	0	1	318	2	78	3
その他	745	6	246	10	2,793	12	1,269	12	2,788	15	298	9	3,189	16	563	30	888	33	2,120	43
合　計	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85

表 2　地域別調査面積・件数一覧

＊面積は㎡である

年度／地域	15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度		22 年度		23 年度		24 年度	
	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数
大阪市	258	5	238	6	245	2	120	4	0	0	96	2	30	2	85	4	3,209	10	98	3
泉　南	8,971	8	4,782	11	1,417	13	4,794	8	4,069	8	438	5	2,100	6	1,534	6	449	6	81	8
泉　北	3,897	9	7,861	16	7,357	13	465	7	6,519	8	6,857	10	3,822	7	4,444	9	1,552	7	1,166	6
南河内	14,250	14	8,388	12	16,433	15	4,942	10	6,534	9	9,660	11	7,945	10	2,620	12	1,691	9	3,985	14
中河内	3,319	13	887	9	50	11	1,225	16	2,104	11	322	3	190	14	1,212	28	2,224	13	1,091	21
北河内	15,733	10	18,064	9	20,923	15	13,252	10	4,940	10	1,995	9	3,619	13	3,616	21	2,086	12	1,391	9
三　島	5,957	11	14,060	8	11,287	8	6,677	12	2,969	10	495	5	89	6	1,205	11	2,336	20	2,673	22
豊　能	0	0	12	1	360	2	50	1	204	4	0	0	187	6	70	5	2,045	3	46	2
合　計	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85

古墳時代

八尾市**久宝寺遺跡**（12001・12038）では、弥生時代中期以降古墳時代中期に至るまで、連綿と水田域が広がっている。古墳時代の水田関連の遺構としては、溝、畦畔を検出した。畦畔の盛土中より古墳時代前期の甕形土器が横位の状態で出土した。

河南町**芹生谷遺跡**（12007）では、古墳時代後期の竪穴住居跡４棟と掘立柱建物跡３棟を検出した。竪穴住居跡は、方形プランで四隅に柱穴をもち、北壁の中央にカマドの痕跡が見られる。二棟ずつ重なって検出した。ほぼ同じ場所に建替えたと考えられる。これらの竪穴住居跡は、遺跡の東に隣接する石塚古墳群や南部に位置する金山古墳と時期を同じくすることから、その関連性が今後な課題である。

柏原市**大県遺跡**（12024）では、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての遺物や移動式カマド、ふいごの羽口、獣骨などを出土する溝、古墳時代中期ごろの素掘りの井戸、掘立柱建物跡の遺構を検出した。また､周辺が赤く焼けた鍛冶炉を２基検出するなど、古墳時代から奈良時代頃の鍛冶関連遺構や遺物が多く見つかっている。

茨木市**安威城跡**（12039）では、古墳時代後期の屋外カマドの痕跡を確認した。同様の遺構は、過去の調査区においても複数例あり、当遺跡を特徴づける遺構として注目される。

柏原市**高井田横穴群･平尾山古墳群**（12040）では、高井田横穴群第Ⅰ支群が 15 ～ 19・21・22 号横穴について清掃、写真撮影、図化を行った上で、土嚢による保存処置を施した。また、平尾山古墳群の第５支群１号墳については確認調査を実施した結果、墳丘規模は東西 36m の方墳であることが判明した。

古代

八尾市**久宝寺遺跡**（12001・12038）では、奈良時代の遺構面で土坑３基､溝９条を検出したことで、奈良時代の生活面がさらに広がることを確認した。

枚方市**百済寺遺跡**（12002・12052）では、奈良時代後半から平安時代前半にかけての遺構・遺物が確認された。出土した瓦片には、瓦どうしが融着したものや焼け歪んだ失敗品が多数含まれており、周辺に百済寺に瓦を供給した窯の存在が考えられる。

柏原市**大県遺跡**（12024）では、古墳時代以降奈良時代の鍛冶関連遺構や鉄滓などの遺物を確認した。

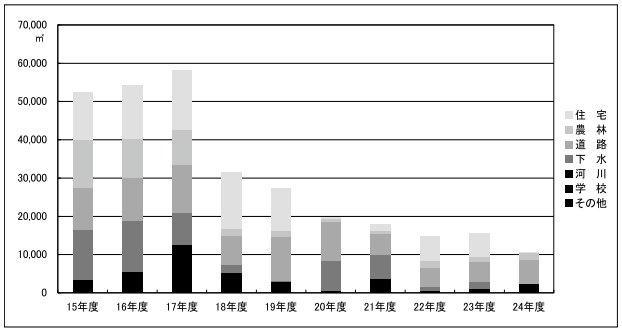
貝塚市**加治・神前・畠中遺跡**（12057）では、試掘調査を実施したところ、奈良時代の遺物包含層及び遺構を確認したので遺跡の範囲を拡大した。

枚方市**禁野本町遺跡**（12060）では、交野台地の縁辺部で奈良時代後半から平安時代前期にかけての大型建物を含む掘立柱建物群を検出した｡百済寺跡、百済寺遺跡とともに同時期の隣接した遺跡の有機的な関連を明らかにすることが、今後の課題である。

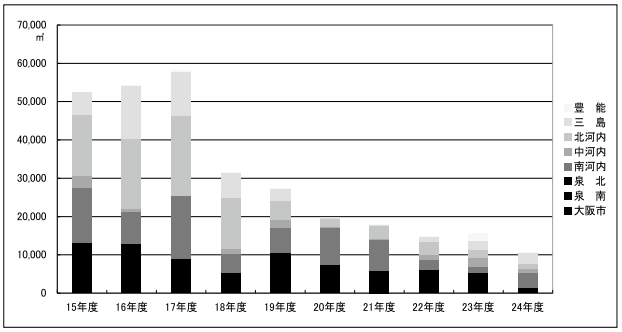
中世

河内長野市**太井遺跡**（12013・12028）では、昨年度約 150 基の土坑や石列を検出した調査区の西側を実施した。調査の結果、同じような土坑を多数発見し、墓域が西側に広がることを確認した。特に一つの土坑墓からは小刀、瓦器椀、小皿がまとまって出土した。当遺跡では副葬品がまとまって出土したのは、この土坑が初めてである。また、墓域から

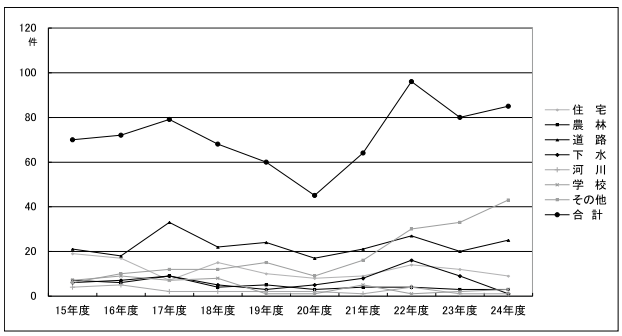
グラフ１　原因別調査面積の推移



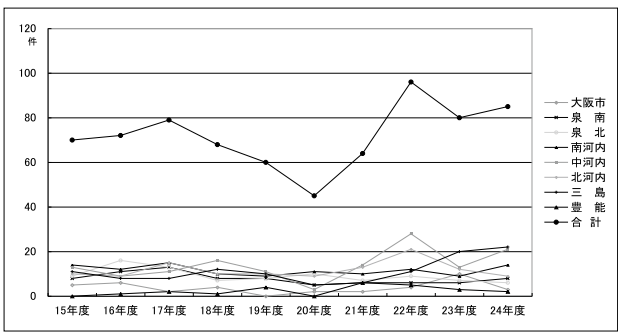
グラフ２　地域別調査面積の推移



グラフ３　原因別調査件数の推移



グラフ４　地域別調査件数の推移



西に少し離れたところで、建物跡、土坑、溝などの集落関連の遺構を確認した。さらに石見川を挟んで、対岸でも柱穴や土坑など集落関連の遺構を確認した。3年間にわたる太井遺跡の調査は、南河内の山間部における中世村落の実態を明らかにした。

河内長野市**長池窯跡群**(12085)では、新たに2基の炭窯を確認した。1つの炭窯から床面に置いた状態で瓦器椀が出土したことから、時期の推定が可能となり、今後の炭窯編年研究の定点になり得ると考えられる。

試掘調査

大阪市**天満蔵屋敷跡**（12009）は新規発見の遺跡として周知され、藤井寺市**川北遺跡**（12030）では、遺物包含層が確認されたことで、西側に大きく拡大した。貝塚市**加治・神前・畠中遺跡**（12057）では、奈良時代の遺物包含層や遺構を確認したことから北東方向に拡大した。高槻市**金龍寺旧境内跡**（12081）では、弥生時代から古代の遺物包含層、土坑や溝などの遺構を検出したことから北西側に拡大した。茨木市**千提寺市阪遺跡**及び**千提寺クルス山遺跡**（12082）では、古代末から中世にかけての遺物包含層や土坑、溝などの遺構と共に丘陵部で中世から近世の墓地群を検出した。同地周辺ではキリシタン墓碑等が発見された地として知られ、キリシタンとの関連が示唆される。ともに新規発見の遺跡である。高槻市**成合地獄谷遺跡**(12083)で古墳時代から中世の遺物包含層、土坑などの遺構を検出したことから、新規発見の遺跡として周知された。新規発見の遺跡が4件、遺跡の拡大が3件あった。例年に比べて新規発見の遺跡や周知の遺跡の拡大が多いのは、近畿自動車道名古屋神戸線建設にかかる埋蔵文化財調査が本格化したことをあらわしている。

発掘調査現場の公開と遺物整理事業

発掘調査現場の公開は、芹生谷遺跡、太井遺跡の2遺跡で実施した。大県遺跡は現地公開はできなかったが、近隣の公民館で出土品や写真パネルの展示会を実施した。発掘現場は可能な限り公開するように努めているが、不可能なものについては文化財保護課のＨＰ上で紹介している。

また、過年度発掘調査分の遺物整理事業を実施し、『招提中町遺跡Ⅳ・九頭神遺跡Ⅱ』、『寺田遺跡Ⅲ』、『瓜破北遺跡』、『林遺跡・国府遺跡』『和泉寺跡・府中遺跡Ⅱ』の5冊の報告書と『太井遺跡発掘調査概要・Ⅱ』を刊行した。（橋本高明）

表3　平成24年度調査箇所一覧（1）

＊太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
12001	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	発掘	平成24年4月1日（昨年度から継続）	平成24年6月29日	180㎡	宮崎	公園課	久宝寺緑地北地区遊水池整備工事
12002	百済寺遺跡	枚方市宮之阪3丁目	発掘	平成24年4月2日	平成24年7月2日	1,000㎡	山田	大阪府立病院機構	大阪府立精神医療センター病院施設建替え工事
12003	明和池遺跡	摂津市千里丘7丁目	立会	平成24年4月10日	平成24年4月10日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う旧転車台基礎撤去工事
12004	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成24年4月27日	平成24年4月27日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う電気施設新設工事
12005	明和池遺跡	摂津市千里丘7丁目	立会	平成24年4月27日	平成24年4月27日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う電気施設新設工事
12006	一津屋町遺跡	松原市一津屋3丁目	確認	平成24年5月7日	平成24年5月11日	40㎡	辻本	住宅経営室住宅整備課	府営松原一津屋住宅建替え工事
12007	芹生谷遺跡	河南町芹生谷	発掘	平成24年9月3日	平成24年12月18日	2,100㎡	西川	交通道路室道路整備課	一般国道309号河南赤阪バイパス整備工事
12008	桜塚古墳群	豊中市南桜塚3丁目	確認	平成24年6月11日	平成24年7月9日	12㎡	杉本	府警本部施設課	大阪府豊中警察署建替え工事
12009	遺跡外（天満蔵屋敷跡）	大阪市北区西天満1丁目	試掘	平成24年6月14日	平成24年6月16日	16㎡	杉本	府警本部施設課	大阪府天満警察署建替え工事
12010	遺跡外	大阪市福島区吉野3丁目	試掘	平成24年6月12日	平成24年6月25日	72㎡	杉本	府警本部施設課	大阪府福島警察署建替え工事
12011	遺跡外	寝屋川市寝屋新町	試掘	平成24年6月11日	平成24年6月15日	25㎡	三好阿部	住宅経営室住宅整備課	府営寝屋川寝屋住宅EV棟増築工事
12012	狭山藩陣屋跡	大阪狭山市東池尻2丁目	立会	平成24年5月24日	平成24年6月25日	－	小林	交通道路室道路整備課	一般府道河内長野美原線交通安事業
12013	太井遺跡	河内長野市太井	発掘	平成24年6月4日	平成24年7月17日	132㎡	竹原	農政室整備課	府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
12014	吹田操車場遺跡隣接地	吹田市芝田町	立会	平成24年6月13日	平成24年6月13日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	旧岸辺駅舎解体工事
12015	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成24年6月13日	平成24年6月13日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備工事に伴う既設水路撤去工事
12016	庄内遺跡	豊中市庄内幸町5丁目	確認	平成24年6月21日	平成24年7月4日	34㎡	大楽	交通道路室道路整備課	都市計画道路三国塚口線整備事業
12017	田園遺跡隣接地	堺市中区田園	試掘	平成24年6月25日	平成24年6月26日	318㎡	西川	水道企業団南部水道	立坑築造工事（堺市田園）

表 4　平成 24 年度調査箇所一覧（2）

＊太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺　跡　名	所　　在　　地	種別	調 査 開 始	調 査 終 了	調査面積	担当者	事 業 課	事　　業　　名
12018	**豊中遺跡**	**和泉市池上町 2 丁目**	**発掘**	**平成 24 年 7 月 17 日**	**平成 24 年 8 月 24 日**	**30 ㎡**	**辻本**	**教育委員会 施設財務課**	**和泉支援学校下水管放流路切替工事**
12019	**土師ヶ町遺跡**	**藤井寺市御船町 1 丁目**	**発掘**	**平成 24 年 7 月 14 日**	**平成 24 年 7 月 19 日**	**40 ㎡**	**小林**	**藤井寺工科高校**	**同窓会館建設工事**
12020	遺跡外 （第 2 阪和国道）	岬町孝子地内	試掘	平成 24 年 7 月 9 日	平成 24 年 7 月 10 日	7 ㎡	阪田 岡本	近畿地方整備局 浪速国道事務所	一般国道 26 号和歌山岬道路建設工事
12021	遺跡外	門真市三ツ島	試掘	平成 24 年 7 月 9 日	平成 24 年 7 月 19 日	20 ㎡	大楽	住宅経営室 住宅整備課	府営門真三ツ島住宅 EV 設置工事
12022	遺跡外	高槻市登町	試掘	平成 24 年 7 月 19 日	平成 24 年 8 月 10 日	20 ㎡	大楽	住宅経営室 住宅整備課	府営高槻下田部住宅 EV 設置工事
12023	小阪合遺跡	八尾市南小阪合 1 丁目	確認	平成 24 年 7 月 24 日	平成 24 年 7 月 24 日	16 ㎡	大楽	下水道室 事業課	寝屋川流域下水道枚岡河内南幹線整備工事
12024	**大県遺跡**	**柏原市平野 1 丁目**	**発掘**	**平成 24 年 8 月 6 日**	**平成 25 年 3 月 29 日**	**500 ㎡**	**杉本**	**交通道路室 道路整備課**	**一般国道 170 号交通安全施設等整備事業**
12025	北鳥池遺跡	東大阪市若草町	立会	平成 24 年 8 月 24 日	平成 24 年 8 月 25 日	―	大楽	水道企業団 東部水道	上小阪枚岡系統連絡管東大阪市 2 工区整備工事
12026	遺跡外 （第 2 阪和国道）	岬町孝子地内	試掘	平成 24 年 7 月 9 日	平成 24 年 7 月 10 日	1 ㎡	岡本	近畿地方整備局 浪速国道事務所	一般国道 26 号和歌山岬道路建設工事
12027	遺跡外	茨木市栗生岩阪	立会	平成 24 年 8 月 7 日	平成 24 年 8 月 7 日	―	大楽	茨木土木 （彩都工区）	岩阪橋梁下部工事
12028	**太井遺跡（その 2）**	**河内長野市太井**	**発掘**	**平成 24 年 8 月 2 日**	**平成 25 年 1 月 23 日**	**1,599 ㎡**	**竹原**	**農政室 整備課**	**府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」**
12029	**池上曽根遺跡**	**和泉市池上町 4 丁目**	**確認**	**平成 24 年 8 月 20 日**	**平成 24 年 8 月 20 日**	**6 ㎡**	**辻本 西川**	**文化財保護課**	**和泉池上収蔵庫建設工事**
12030	**遺跡外 （川北遺跡）**	**藤井寺市川北 1 丁目**	**試掘**	**平成 24 年 8 月 22 日**	**平成 24 年 8 月 22 日**	**17 ㎡**	**山田**	**水道企業団 東部水道**	**藤井寺立坑築造工事**
12031	戸雁山古墳	羽曳野市尺度	確認	平成 24 年 9 月 3 日	平成 24 年 9 月 3 日	10 ㎡	小林	環境農林水産 総合研究所	本棟建替え工事
12032	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成 24 年 8 月 28 日	平成 24 年 8 月 28 日	―	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う電気関連施設建設工事
12033	明和池遺跡	摂津市千里丘 7 丁目	立会	平成 24 年 8 月 28 日	平成 24 年 8 月 28 日	―	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う電気関連施設建設工事
12034	**北鳥池遺跡**	**東大阪市若草町**	**発掘**	**平成 24 年 10 月 22 日**	**平成 25 年 1 月 11 日**	**37 ㎡**	**大楽**	**水道企業団 東部水道**	**送水管敷設工事**
12035	**池上曽根遺跡 （その2）**	**和泉市池上町 4 丁目**	**確認**	**平成 24 年 9 月 13 日**	**平成 24 年 9 月 13 日**	**79 ㎡**	**橋本・辻本・西口**	**文化財保護課**	**和泉池上収蔵庫建設工事**
12036	中垣内遺跡	大東市寺川 1 丁目	確認	平成 24 年 9 月 10 日	平成 24 年 9 月 10 日	8 ㎡	大楽 阿部	住宅経営室 施設保全課	府営大東寺川住宅耐震改修工事
12037	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成 24 年 9 月 6 日	平成 24 年 11 月 15 日	―	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う水路等撤去工事
12038	**久宝寺遺跡**	**東大阪市大蓮南 3 丁目**	**発掘**	**平成 24 年 11 月 1 日**	**平成 25 年度継続調査**	**150 ㎡**	**宮崎**	**公園課**	**久宝寺緑地北地区遊水池周辺整備工事**
12039	**安威城跡**	**茨木市安威 2 丁目**	**発掘**	**平成 24 年 10 月 1 日**	**平成 24 年 12 月 17 日**	**147 ㎡**	**三好**	**交通道路室 道路整備課**	**主要地方道茨木亀岡線道路改良工事（安威工区）**
12040	**高井田横穴群 平尾山古墳群**	**柏原市大字高井田 809 － 1**	**確認**	**平成 24 年 10 月 4 日**	**平成 24 年 11 月 15 日**	**21 ㎡**	**山田**	**こども室 家庭支援課**	**修徳学院寮舎等改築工事**
12041	上白原遺跡隣接地	岸和田市稲葉町	試掘	平成 24 年 10 月 11 日	平成 24 年 10 月 11 日	60 ㎡	辻本	交通道路室 道路整備課	一般府道春木岸和田線整備事業
12042	遺跡外 （第 2 阪和国道）	岬町孝子地内	試掘	平成 24 年 10 月 15 日	平成 24 年 10 月 15 日	1 ㎡	岡本	近畿地方整備局 浪速国道事務所	一般国道 26 号和歌山岬道路建設工事
12043	遺跡外	吹田市南吹田 2 丁目	試掘	平成 24 年 10 月 25 日	平成 24 年 11 月 20 日	20 ㎡	岡本	大阪外環状鉄道（株）	おおさか東線鉄道整備事業
12044	田井中遺跡	八尾空港 1 丁目	立会	平成 24 年 10 月 24 日	平成 24 年 11 月 8 日	―	岡本	近畿中部防衛局	八尾駐屯地施設整備（格納庫建替え）に伴う道路切替工事
12045	久宝寺遺跡	八尾市久宝寺 2 丁目	確認	平成 24 年 10 月 26 日	平成 24 年 10 月 29 日	11 ㎡	阿部	住宅経営室 施設保全課	府営久宝寺住宅耐震改修工事
12046	木の本遺跡隣接地	八尾市木の本 1 ～ 2 丁目	試掘	平成 24 年 10 月 26 日	平成 24 年 10 月 26 日	24 ㎡	松岡	水道企業団 東部水道	排水管敷設工事（北木の本連絡管 八尾市）
12047	遺跡外	茨木市忍頂寺	試掘	平成 24 年 10 月 29 日	平成 24 年 10 月 29 日	10 ㎡	宮野	交通道路室 道路環境課	主要地方道茨木摂津線整備工事
12048	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成 24 年 11 月 8 日	平成 24 年 11 月 8 日	―	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う建物等撤去工事
12049	成法寺遺跡	八尾市南本町 1 丁目	立会	平成 24 年 11 月 5 日	平成 25 年 2 月 7 日	―	宮野	八尾土木事務所	大阪港八尾線電線共同溝整備工事に伴う引込管工事
12050	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成 24 年 11 月 9 日	平成 24 年 11 月 9 日	―	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う集水桝等設置工事
12051	大県遺跡	八尾市平野 1 丁目	確認	平成 24 年 11 月 7 日	平成 24 年 11 月 7 日	7 ㎡	杉本 岩瀬	交通道路室 道路整備課	一般国道 170 号交通安全施設等整備事業

表５　平成 24 年度調査箇所一覧（3）

＊太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺　跡　名	所　　在　　地	種別	調　査　開　始	調　査　終　了	調査面積	担当者	事業課	事　　業　　名
12052	**百済寺遺跡**	**枚方市宮之阪 3 丁目**	**発掘**	**平成 24 年 12 月 3 日**	**平成 24 年 12 月 10 日**	**10 ㎡**	**山田**	**大阪府立病院機構**	**大阪府立精神医療センター病院施設建替え工事**
12053	寺川浜遺跡	大東市野崎 4 丁目	確認	平成 24 年 11 月 28 日	平成 24 年 12 月 7 日	10 ㎡	宮崎	水道企業団東部水道	分岐量水器改良工事（寺川分岐）
12054	遺跡外（第 2 阪和国道）	岬町孝子地内	試掘	平成 24 年 11 月 29 日	平成 24 年 11 月 29 日	1 ㎡	岡本	近畿地方整備局浪速国道事務所	一般国道 26 号和歌山岬道路建設工事
12055	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成 24 年 12 月 7 日	平成 24 年 12 月 7 日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う土壌汚染処理工事
12056	古室遺跡	藤井寺市古室 2 丁目～羽曳野市誉田 5 丁目	確認	平成 24 年 12 月 18 日	平成 25 年 1 月 28 日	11 ㎡	小林	水道企業団南部水道	非常用連絡管布設工事（柏原支管・藤井寺市）
12057	**遺跡外（加治・神前・畠中遺跡）**	**貝塚市畠中 1 丁目**	**試掘**	**平成 24 年 12 月 25 日**	**平成 24 年 12 月 25 日**	**8 ㎡**	**辻本**	**施設財務課**	**貝塚高校校舎建替え工事**
12058	吉井遺跡	岸和田市吉井町 1 丁目	立会	平成 24 年 12 月 25 日	平成 24 年 12 月 25 日	－	奥	住宅経営室施設保全課	府営岸和田春木住宅 EV 設置に伴うガス管移設工事
12059	遺跡外（高井田遺跡隣接地）	東大阪市高井田～東大阪市高井田中 3 丁目	試掘	平成 24 年 11 月 1 日	平成 24 年 11 月 7 日	57 ㎡	松岡	水道企業団東部水道	配水管布設替え工事（布施北分岐）
12060	**禁野本町遺跡**	**枚方市禁野本町 2 丁目**	**発掘**	**平成 25 年 1 月 7 日**	**平成 25 年 3 月 27 日**	**288 ㎡**	**山田**	**交通道路室道路整備課**	**都市計画道路枚方藤阪線整備工事**
12061	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	発掘	平成 25 年 2 月 1 日	平成 25 年度継続調査	40 ㎡	宮崎	公園課	久宝寺緑地北地区遊水池周辺整備工事（その 2）
12062	久宝寺遺跡	八尾市北亀井町	立会	平成 25 年 1 月 7 日	平成 25 年 1 月 27 日	－	宮野	水道企業団東部水道	八尾本管分岐既設弁室補修工事
12063	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成 25 年 1 月 7 日	平成 25 年 1 月 7 日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う電柱基礎撤去工事
12064	高井田横穴群平尾山古墳群	柏原市大字高井田 809 － 1	立会	平成 25 年 1 月 7 日	平成 25 年 1 月 9 日	－	松岡・山本・三好	こども室家庭支援課	修徳学院寮舎等改築工事
12065	遺跡外	堺市北区新金岡町	立会	平成 25 年 1 月 15 日	平成 25 年 1 月 15 日	－	辻本	住宅経営室施設保全課	金岡東第 6 住宅 EV 設置に伴うガス管移設工事
12066	河合寺遺跡	河内長野市末広町	立会	平成 25 年 1 月 11 日	平成 25 年 1 月 11 日	－	小林	公園課	府営長野公園園路整備工事
12067	美園遺跡	八尾市美園町	立会	平成 25 年 1 月 15 日	平成 25 年 1 月 17 日	－	宮野	水道企業団東部水道	送水管路休止管管内充填工事
12068	遺跡外	大東市寺川 1 丁目	試掘	平成 25 年 1 月 17 日	平成 25 年 1 月 17 日	30 ㎡	大楽	府警本部施設課	交通機動隊大東分駐所大水道放流切替工事
12069	立部遺跡	松原市立部 5 丁目	立会	平成 24 年 11 月 6 日	平成 24 年 11 月 6 日	－	小林	住宅経営室施設保全課	府営松原立部住宅耐震工事
12070	千手寺山遺跡	東大阪市石切町 2 丁目	立会	平成 25 年 1 月 18 日	平成 25 年 1 月 18 日	－	山本	府警本部施設課	石切駅前交番建替え工事
12071	東弓削遺跡矢作遺跡	八尾市南本町～八尾木	立会	平成 25 年 1 月 28 日	平成 25 年 2 月 7 日	－	宮野	水道企業団東部水道	送水管路休止管管内充填工事
12072	和泉寺跡府中遺跡	和泉市府中町 4 丁目	発掘	平成 25 年 2 月 1 日	平成 25 年度継続調査	733 ㎡	辻本竹原	交通道路室道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線建設工事
12073	太田遺跡	八尾市太田 4 丁目	確認	平成 25 年 1 月 28 日	平成 25 年 1 月 30 日	48 ㎡	三好	近畿地方整備局大和川河川事務所	大和川八尾地区護岸等詳細設計
12074	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成 25 年 2 月 4 日	平成 25 年 2 月 4 日	－	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う排水管設置工事等
12075	天美北 6 丁目北遺跡	松原市天美北 6 丁目	立会	平成 25 年 2 月 27 日	平成 25 年 2 月 27 日	－	岡本	富田林土木事務所	近鉄南大阪線立体交差化工事
12076	遺跡外（第 2 阪和国道）	岬町孝子地内	試掘	平成 24 年 11 月 29 日	平成 24 年 11 月 29 日	3 ㎡	岡本	近畿地方整備局浪速国道事務所	一般国道 26 号和歌山岬道路建設工事
12077	郡川遺跡郡川東塚古墳	八尾市郡川 3 丁目	立会	平成 25 年 3 月 1 日	平成 25 年 3 月 1 日	－	大楽	交通道路室道路整備課	主要地方道大阪八尾線外交通安全施設改善工事
12078	北岡遺跡	藤井寺市北岡 2 丁目	立会	平成 25 年 2 月 27 日	平成 25 年 2 月 27 日	－	小林	交通道路室道路整備課	主要地方道堺大和高田線交通安全施設設置工事
12079	大坂城跡	大阪市中央区大手前 3 丁目	試掘	平成 25 年 3 月 11 日	平成 25 年 3 月 11 日	10 ㎡	岡本	公共建築室一般建築課	府庁新分館解体撤去工事
12080	鎌田遺跡	四條畷市蔀屋	立会	平成 25 年 3 月 21 日	平成 25 年 3 月 21 日	－	大楽	水道企業団東部水道	あんしん給水栓改造工事
12081	**遺跡外（金龍寺旧境内跡）**	**高槻市成合**	**試掘**	**平成 24 年 4 月 1 日**	**平成 24 年 4 月 18 日**	**488 ㎡**	**岡本**	**西日本高速道路（株）**	**新名神高速道路（高槻～箕面）建設工事**
12082	**遺跡外（千提寺市阪遺跡他）**	**茨木市千提寺・佐保**	**試掘**	**平成 24 年 5 月 1 日**	**平成 24 年 11 月 30 日**	**700 ㎡**	**岡本**	**西日本高速道路（株）**	**新名神高速道路（高槻～箕面）建設工事**
12083	**遺跡外（成合地獄谷遺跡）**	**高槻市成合**	**試掘**	**平成 25 年 1 月 7 日**	**平成 25 年 2 月 28 日**	**600 ㎡**	**岡本**	**西日本高速道路（株）**	**新名神高速道路（高槻～箕面）建設工事**
12084	**萩之庄南遺跡**	**高槻市萩之庄 2 丁目**	**発掘**	**平成 25 年 1 月 4 日**	**平成 25 年 3 月 19 日**	**688 ㎡**	**岡本**	**交通道路室道路整備課**	**高槻東道路工事用進入路工事**
12085	**長池窯跡群**	**河内長野市小山田**	**発掘**	**平成 24 年 5 月 29 日**	**平成 25 年 6 月 28 日**	**36 ㎡**	**小林**	**交通道路室道路整備課**	**一般府道大野天野線道路整備工事**

成合地獄谷遺跡
金龍寺旧境内跡
千提寺市阪遺跡
千提寺クルス山遺跡
萩之庄南遺跡
安威城跡
禁野本町遺跡
百済寺遺跡
天満蔵屋敷跡
北鳥池遺跡
《大阪湾》
久宝寺遺跡
川北遺跡
大県遺跡
一津屋町遺跡
高井田横穴群
土師ヶ町遺跡
平尾山古墳群
池上曽根遺跡
田園遺跡隣接地
豊中遺跡
芹生谷遺跡
長池窯跡群
加治・神前・畠中遺跡
太井遺跡
0
10km

図１　主要調査位置図

久宝寺遺跡（１２００１・１２０３８）

（１）八尾市西久宝寺・東大阪市大蓮３丁目
（２）久宝寺緑地北地区遊水池整備工事
（３）宮崎泰史・阿部幸一

はじめに

久宝寺遺跡は、八尾市南久宝寺１丁目を中心に広がる縄文時代晩期から近世にかけての大規模な複合遺跡である。今回の調査地は、遺跡範囲の北部地域に位置する。

調査は平成 23 年度から久宝寺緑地内において、雨水排水管布設工事に伴って実施し、工事に合わせて調査地点をＡ地区（12001）、Ｂ地区（12038）と呼称している（図 2）。Ａ地区は平成 23 年～平成 24 年度、Ｂ地区は平成 24 年度に調査を実施し、次年度以降に継続している。

調査の経緯

Ａ地区は工事によって破壊される深度（北端 T.P.+3.5m、南端 T.P.+2.9m）、Ｂ地区は（北端 T.P.+3.635m、南端 T.P.+4.53m）まで調査を行った。ただし、Ｂ地区は古墳時代の面（T.P.+4.5m）までで、以下の調査は次年度に行うことになっている。

調査の概要

Ａ地区　第１層は旧耕作土、第２層は近世、第３層は近世～中世、第４層は中世～古代、第５層上位は奈良時代、下位は古墳時代前期～中期、第６層は古墳時代前期、第７～８層は古墳時代初頭～弥生時代後期、第９層～ 12 層は弥生時代中期の遺構面（奈良時代より上層については前年度に報告済）である。第６層上面では、溝１条、畦畔８条を検出している。畦畔の盛土中から古墳時代前期の甕形土器が横位の状態で出土した（図 3）。第 6b 層上面では溝１条、小溝３条、第８層上面では足跡、流路、畦畔、第 9b 層上面で畦畔１条、落込み、第 12 層上面では畦畔、足跡を検出している。

Ｂ地区　第１～６層までＡ地区に同じである。第７層以下の遺構面は次年度に継続して実施することになる。第３層上面で溝７条、第４層上面では土坑１基、溝 20 条、第４層下面では土坑１基を検出している。土坑は径 1.35×0.7m 以上の隅丸方形で、深さ 58cm をはかり、埋土中から白磁椀が出土した。第５層上面では土坑３基、溝９条、第６層上面では畦畔３条、流路、堤を検出している。平成 24 年度は、これより下層については調査できなかった。

図２　調査地区位置図

まとめ

今回の調査は延長のわりに、幅が１ｍ前後と極めて狭く、しかも鋼矢板に囲まれ掘削深度が深いことから遺構の性格を十分に把握することができなかった。それでも奈良時代の生活面、古墳～弥生時代中期の生産域が北側及び西側にさらに広がっていることが明らかとなった。

なお、Ｂ地区の下層の調査は次年度に継続実施することから、今回の報告からは省くこととし、次年度調査に併せて報告する。

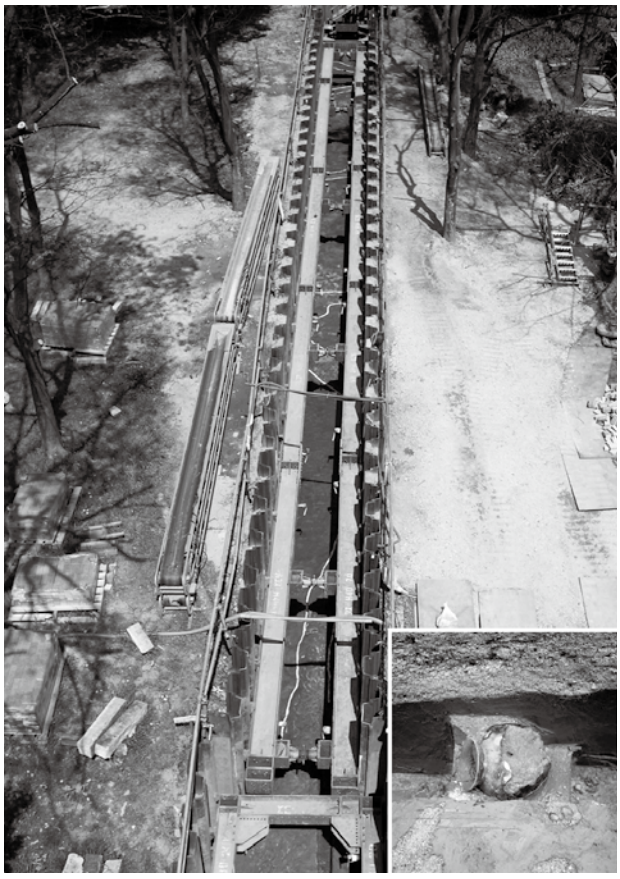


図３　Ａ地区第６層上面全景及び土器出土状況

百済寺（くだらじ）遺跡（１２００２）

（１）枚方市宮之阪３丁目
（２）大阪府立精神医療センター病院施設建替え工事
（３）山田隆一

はじめに

調査地は、精神医療センター内の児童思春期棟建設部分（22 頁図 47）である。調査地の北側には奈良～平安時代の百済王氏の氏寺である特別史跡「百済寺跡」が存在し、さらに北側にはその一族の居住域と推定される禁野本町遺跡がある。現地は百済寺跡との間に小規模な谷地形を挟んだ丘陵部で、今回の調査まで遺跡の実態は不明確であった。

調査成果

病棟中央部は、旧病棟の基礎によって遺構は残存せず、その南（南区）と北（北区）で確認できた。

図４は南区の遺構である。左側に柱穴が密集しており、方形掘方の掘立柱建物１棟が含まれる。また中央右寄りにも掘立柱建物１棟が残存した。中央上半は南北方向に掘られた溝２条である。百済寺跡と禁野本町遺跡で想定されている方形区画と同じ方向性を示す。なお写真の中央奥では、瓦の細片を敷いた遺構を確認した。図５は瓦細片を敷いた遺構であるが、性格は不明である。瓦には百済寺の創建瓦を含み、瓦どうしが融着したり、焼け歪んだ瓦が含まれる。百済寺の瓦窯は未確認であり重要である。

図６は北区の遺構である。古代から中世に使われた丘陵に上る谷地形を利用した道が見つかった。埋土下層からは奈良時代の瓦や須恵器（図７下）が出土し、中層以上に瓦器（図７上）が含まれる。

まとめ

今回の調査によって、奈良時代後半～平安時代前半の遺構・遺物が確認された。北側に存在する百済寺跡や禁野本町遺跡と同じ時期の遺跡であり、百済寺の創建瓦を含む多数の瓦片の出土、百済寺跡から禁野本町遺跡で想定される方形区画と同じ方向の溝の検出、掘立柱建物の確認された事などから、三者は密接に関わると考えられる。なお瓦片には、瓦どうしが融着したり焼け歪んだ失敗品が多数含まれており重要である。本遺跡周辺に百済寺に瓦を供給した瓦窯が存在した可能性が考えられる。

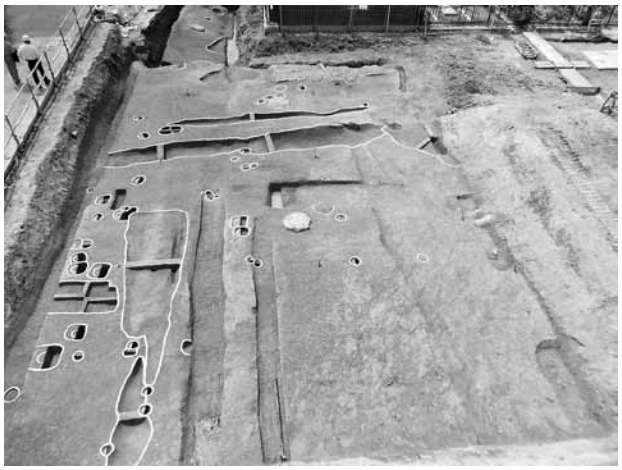


図４　南区全景（東から）

図６　北区全景（東から）

図５　瓦細片を敷いた遺構

図７　谷埋土遺物出土状況

一津屋町（ひとつやちょう）遺跡（１２００６）

（１）松原市一津屋３丁目
（２）府営松原一津屋住宅建替え工事
（３）辻本　武

調査に至る経過

松原市一津屋３丁目に所在する府営松原一津屋住宅は 1970 年代初めに建設された団地で、今回耐震性に問題から建替えが計画された。当該地は一津屋町遺跡に該当するので、事前に遺構・遺物の残存状況を調べるための確認調査を実施した。

調査区の設定

当初 10 ヶ所の調査を予定したが、埋設管の存在が新たに判明した場所や住民生活の支障となる場所等を除外したため、最終的に７ヶ所となった。この経緯により、調査区番号に欠番が生じた。

調査の結果

１区　住宅敷地の北西端の調査区である。G.L. －1.4 mまでは住宅建設に伴う盛土で、その下が住宅建設直前時の旧表土・床土・黄褐色粘土 (地山) 層である。地山面のレベルは G.L. － 1.7 mであった。遺構・遺物は検出されなかった。

２･３･６･７区　住宅敷地の中央部の調査区である。予期せぬガス管・水道管・高圧電線管等の埋設管が露出した。これを避けてさらに深く、最大G.L. － 2.1 mまで掘削したが旧表土には届かず、すべて住宅建設に伴う盛土であった。

８区　住宅敷地の南東端の調査区である。G.L. －1.0 mまでは住宅建設に伴う盛土で、その下が住宅建設直前時の旧表土、床土層となる。さらにその下は明黄褐色粘質土・黄白色粘質土・明黄褐色粘土となるが、遺物は含まず、地山であると思われる。地山面のレベルは G.L. － 1.2 mである。

９区　住宅敷地の南西端の調査区である。G.L. －2.1 mで旧表土が現われ、その下は灰色粘質土、黄灰色粘質土、明黄灰色粘土 (地山) となる。地山面のレベルは G.L. － 2.5 mである。遺構・遺物は検出されなかった。ここで検出された旧表土は沼状堆積物の可能性がある。

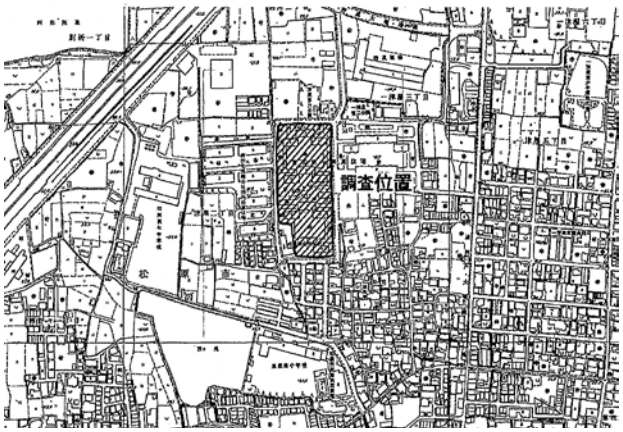


図８　一津屋町遺跡確認調査の位置

まとめ

府営住宅敷地の北西端の１区と南東端の８区では、それぞれ G.L. － 1.4 m、1.0 mの比較的浅いレベルで旧表土が現われた。これが元々あった耕作地のレベルを示すものであろう。

住宅敷地中央にあたる２・３・６・７区では G.L. －2.0 m以上でも旧表土が現われず、敷地南西端の９区では G.L. － 2.1 mで沼状堆積物の旧表土となった。以上により、当該地は住宅建設直前に土取り等で削平され、沼状になっていたものと推定される。

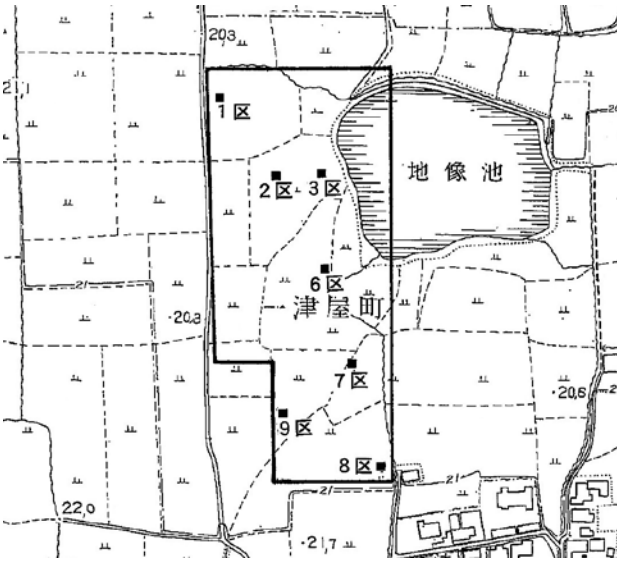


図９　旧地形図（1961）と調査区の位置

図 10　８区の調査

芹生谷遺跡（１２００７）

（１）南河内郡河南町大字芹生谷
（２）一般国道 309 号（河南赤阪バイパス）整備工事
（３）西川寿勝

はじめに

金剛山の北側に広がる河南台地は水越川流域の侵食が激しく、現在は二つの基幹水路を通して水田が潤されている。

水田開発がいつ始まるのかは諸説ある。成立年代は不明だが、『住吉大社神代記』は仁徳天皇時代に開削された「紺口の溝」が、この地を潤したと記載され、古い伝承を残す。近年の調査では上流部の「水分・水越」推定地で、飛鳥時代までさかのぼる大溝の痕跡が確認されつつある。

そこからやや下ったところに芹生谷遺跡があり、そのたもとに金山古墳が築かれている。金山古墳は墳長約 86 m、南丘直径 55 m・高さ 9.4 m、北丘直径 39 m・高さ 6.8 mを測るわが国最大の双円墳である。

南丘は不明だが、北丘の横穴式石室内には、凝灰岩製の家形石棺が２基置かれており、古くから家形石棺の基準資料とされてきた。

金山古墳の石室は盗掘にあい、1946 年の発掘調査では残された馬具や土器類などから６世紀末の時期が与えられ、1993 年のくびれ部の発掘調査でも同時期（陶邑編年ＴＫ 209）とされる須恵器子持ち器台、壺が出土した。金山古墳の家形石棺奥棺は奈良県藤の木古墳石棺と同型式とされ、土器を含め６世紀後半から末の造営と追葬が推定される。

調査成果

今回、芹生谷遺跡を南北に縦断する道路建設に先立って 2100㎡の調査を行った。調査地は後世のひな壇造成で大きく削平を受けていたが、古墳時代後期の土器が広範囲に散乱し、一時的に集落が営まれたようだ。発見された遺構は竪穴住居 (竪穴建物) ４棟と掘立柱建物３棟などで、いずれも６世紀後半（ＴＫ 43 段階）である。

竪穴住居は四隅に主柱穴があり、北壁中央にカマドの痕跡を残す。住居はほぼ重なるように建て替えられ、須恵器蓋杯・土師器甕などが発見された。

掘立柱建物は１間 × ３間以上のもの、３間 × ４間のもの、１間以上 × ３間のものがあり、いずれも軸線は竪穴住居と同じで東に約 30 度振れる。

畿内中心部では５世紀頃には竪穴住居から掘立柱建物への住居形態の移行があり、周辺の６世紀後半の集落では掘立柱建物が基本である。今回発見された竪穴住居はいずれも一辺 5.4 mと大型でありながら建て替えが認められ、出土土器はほぼ一時期に限られる。

そうすると、集落はある季節だけこの場所で過ごすための簡易な住居で、それは農閑期に民衆を動員して古墳造営をするキャンプ地だった可能性もある。ただし、大型古墳の周辺で古墳造営のキャンプ地が見つかる例はほとんどなく、その造営組織なども明快でない中、結論とすることはできない。

また、今回調査区の東で河南教育委員会が４基の古墳を調査し、石塚古墳群と命名した。この古墳群も６世紀後半の金山古墳造営前後に形成されたことが判明し、地元に根付いた有力者の墳墓と推定された。その基盤となった集落についても芹生谷遺跡を候補にできる。ただし、この案についても、発見された土器を見る限り存続期間は短く、竪穴住居を含む伝統的集落が有力者を発展させていったと推断できるわけではない。

図 11　調査地位置図

図 12　発見された竪穴住居と金山古墳

天満蔵屋敷跡（１２００９）

（１）大阪市北区天満１丁目
（２）大阪府天満警察署建替え工事
（３）杉本清美・岩瀬　透・阿部幸一

はじめに

本調査は、大阪市北区天満１丁目 12 － 12 に所在する、大阪府天満警察署の建替え工事に先立つ試掘調査である。調査区は､署内で調査可能な地点(裏側駐車場部分）にトレンチ（5m×5m）を設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械及び人力で掘削を行った。

調査成果

調査は湧水及び崩落が著しいことから、G.L–2.0 mまでしか掘削ができなかった。

①層は旧庁舎解体時の瓦礫を含む整地土である。現地盤から深さは約 1.3m を測る。①層の下層は川砂様の②・③淡黄灰色砂が厚く堆積していた。厚さは約 0.3 ～ 0.5m を測る。現地盤から深さ約 1.8 m で④暗灰色砂混じり粘質シルト層を確認した。上層砂層の崩落が著しく精査できなかったが、調査地西側で近接して実施された調査（『旧佐賀藩大坂蔵屋敷船入遺構発掘調査報告書』1991 (財) 大阪市文化財協会) の結果などから、近世蔵屋敷期に対応する層の可能性が高い。

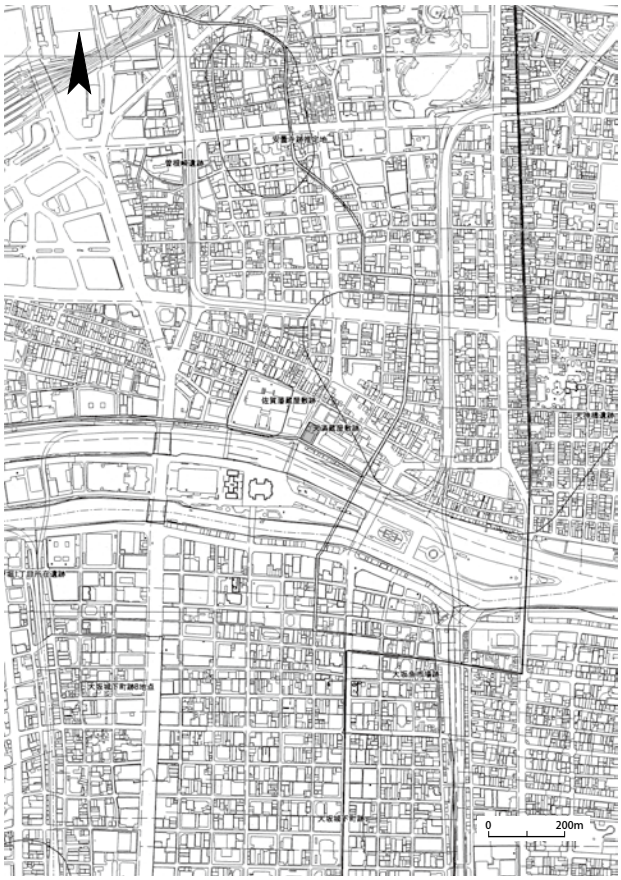


図 13　天満蔵屋敷跡位置図

調査地周辺では、これまでに西側の高等裁判所の増築工事に伴う発掘調査や、東側に位置する天満橋遺跡内で発掘調査が実施されており、④層と同様の土層が確認されている。また、屋敷分布図（図説『大阪府の歴史』「蔵屋敷分布図」河出書房新社）や絵図『新板大坂之図』などでは、現在の天満警察署周辺が弘前（陸奥）藩の屋敷地であったと記されていることから、近世蔵屋敷期の遺構が広がる可能性がうかがえる。

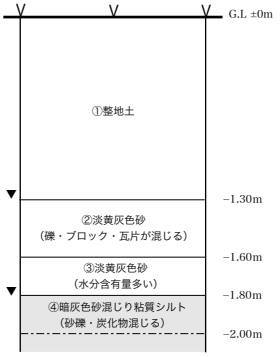


図 14　土層断面模式図

まとめ

当地については、トレンチ内で遺構・遺物を確認することはできなかったが、④暗灰色砂混じり粘質シルト層は、検出高や層性などから、隣接する佐賀藩蔵屋敷跡とされる裁判所での調査で確認されている徳川氏大坂城期の整地層に相当すると考えられる。調査地周辺での近世蔵屋敷期の遺構の広がりから、調査地においても遺構が残っている可能性が非常に高い。

この結果を受けて、府警本部より文化財保護法に基づく遺跡発見届けを提出してもらうと共に、大阪市教育委員会と協議を重ねた結果、天満警察署敷地内を、新規発見遺跡「天満蔵屋敷跡」として周知するに至った。

図 15　弘前藩蔵屋敷跡の位置

太井（おおい）遺跡（１２０１３・１２０２８）

（１）河内長野市太井
（２）府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
（３）竹原伸次・島津知子（河内長野市教育委員会）

はじめに

太井遺跡は、和泉山脈を水源とする石見川によって形成された川上谷と呼ばれる谷の中ほどにある遺跡である。石見川に沿うように国道 310 号が通っているが、この道は大沢峠道と呼ばれ、古くから大阪と奈良を結ぶ幹線道路であり、道沿いには平安時代・中世の遺跡が点在している。

農村基盤整備事業に伴い、平成 18 年に確認・試掘調査を実施し、平成 22 年から本発掘調査を実施している。これまでの調査で、中世の屋敷跡や墓、縄文時代中期から後期の土器が出土している。

調査成果

今回の調査は、２回に分けて実施した。６月から平成 18 年の試掘調査で柱穴を発見した周辺に６か所のトレンチを設定し発掘調査を実施した（４から６トレンチは拡張し 10 区として発掘調査)。鎌倉時代後期の建物跡、土坑、溝などを発見し、調査区周辺が集落跡であることを確認した。遺構面直上や遺構の中には焼けた土や炭が混じっており、集落が火災にあったことが確認できた。河内長野市教育委員会でも、この近辺の調査を実施しており、同じように焼土層を確認している。

９月からは、８か所の調査区を設定し、発掘調査を実施した（３、４区は欠番)。１区は、平成 23 年度の調査で中世の土坑墓が 100 基以上発見された調査区の西側にあたる。調査の結果、同じように土坑墓を多数発見し、墓域が西側に広がっていることを確認した。また、土坑の中に、直径約 30㎝、深さ 40㎝の焼土が確認された。この中に骨等は見つかっていないが、火葬骨を焼土や灰ともども何かの容器に詰めて埋葬していたと思われる。

遺物は、鎌倉時代後期から室町時代後半のものが多く、瓦器椀、瓦質小皿、土師質小皿、土師質羽釜、青磁、刀子、銭、鉄製品小片などが出土した。特に一つの土坑墓からは、刀子一本と瓦椀、瓦質小皿が５点まとまって出土した。副葬品がこのようにまとまった形で発見されたのは太井遺跡では初めてのことである。

石見川の北側の調査では５区より鎌倉時代後期の柱穴や土坑を発見し、１から３トレンチ、９、10 区と川を挟んだ対岸側にも集落域があったことが確認できた。

図 16　調査地位置図

図 18　１区遺構検出状況（南から）

図 17　２トレンチ遺構検出状況（東から）

図 19　副葬品出土状況（西から）

田園（たぞの）遺跡隣接地（１２０１７）

（１）堺市中区田園
（２）立坑築造工事（堺市田園）
（３）西川寿勝

はじめに

陶邑窯跡群陶器山地区は５世紀から９世紀にいたる窯業生産地で、丘陵斜面には須恵器窯が、丘陵上面には陶器遺跡・陶器南遺跡・田園遺跡・辻之遺跡など、陶工の工房・集落と考えられる遺跡がある。概して、５世紀後半・６世紀後半・８世紀初頭の窯や遺構が多い。また、陶器遺跡西方には６世紀後半に造営されたカマド塚を含む陶器千塚古墳群がある。丘陵の谷部には陶器川が流れ、川に沿って生産した須恵器が大阪湾岸に運ばれ、各地に供給されたと考えられる。今回調査区は陶器川南岸の低地部に位置する。

工事予定地は上記のように周辺に多くの遺跡が存在することから、事前に試掘調査を実施することにした。

調査成果

調査地は田園遺跡北西の谷の最下部、泉北高速鉄道・泉北一号線北行き車線の高架下周辺にあたる。開発予定地にトレンチを４か所設定し、２か所は高架下（A区･B区）、２か所は側道北行き車線内（C区・D区）とした。

調査の結果、高架下のA区・B区は深さ約１mの現代盛り土を除去すると、その下に旧水田耕土と床土があり、さらにその下には1.5 m以上の暗青灰粘土と砂礫の互層堆積がみられた。

水田床土下の堆積物は河川による堆積と考えるより、谷の湿地・沼地にたまるような有機物を多く含むゆるやかで微細な堆積物だった。そこに遺物は含まれず、形成時期は不明である。

側道内のC区・D区は路面下約２mまで客土があり､ガス管などの埋設物によるかく乱が激しかった。その一部には旧水田耕土と暗青灰粘土の堆積層がみられた。遺構・遺物はなかった。

まとめ

以上より、調査地内に遺構・遺物の広がりは確認できず､遺跡の拡大や本調査の措置はとらなかった。

ただし、１区の現代盛り土に少量の須恵器が含まれていた。また、高架下の表土にも須恵器が散布していた。これらは泉北１号線建設時に付近の丘陵を削ってこの地を造成したため、遺物が混入したものと判断した。ちなみに発見された須恵器は５世紀後半の杯蓋・甕などの破片である。

図 20　調査区位置図

図 21　B区調査状況

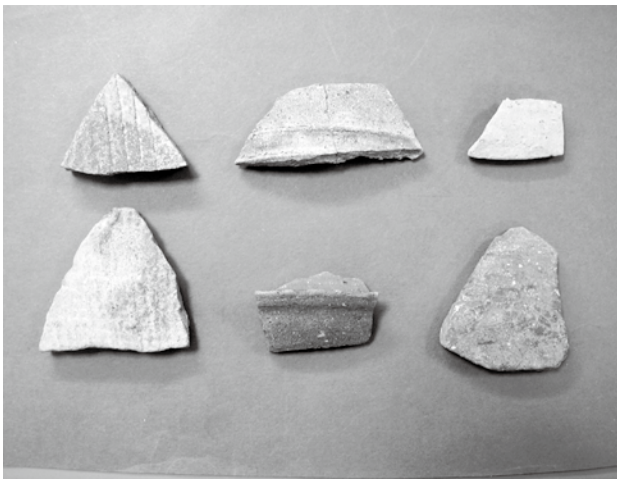


図 22　現代盛土出土須恵器

豊中（とよなか）遺跡（１２０１８）

（1）和泉市池上町２丁目
（2）府立和泉支援学校下水管放流路切替工事
（3）辻本　武

はじめに

豊中遺跡は、泉大津市豊中町、東豊中町、北豊中町および和泉市池上町、肥子町にまたがる広い範囲の遺跡である。

当遺跡は 1960 年代に須恵器・土師器が採集されることによって発見され、1970 年代以降に新阪和国道 (国道 26 号) 建設や区画整理事業等々に伴い発掘調査が実施された。その結果、当遺跡は古墳時代の竪穴式住居や中世の井戸などの遺構とともに各時代の遺物が多数検出され、遺跡の内容が詳しく判明するようになった。

調査に至る経過

大阪府教育委員会では和泉市池上町２丁目に所在し、豊中遺跡の範囲内にある和泉支援学校で、下水道放流切替工事を計画した。

当校は元来「今池」を埋め立てて 1978 年に開校した学校である。遺構はこの池の滞水部分であった場所では既に削平されているが、一方で周囲を巡る堤防部分では残存している可能性があるとして発掘調査を実施することとした。

発掘調査は下水道の人孔の設置が予定された 23 ヶ所のうち、旧池の堤防部分に相当する位置にある 7 ヶ所の人孔について実施し、残りの人孔や埋設管は工事の際に立会調査したものである。

調査の成果

発掘調査は下水道工事に合わせて G.L. － 1.5 m ～ 2.5 mの深さまで掘削することとした。標高にすると T.P. ＋ 12.3 m～ 13.7 mのレベルまでの掘削である。

調査の結果、学校建設以前にあった今池の堤防の盛土が検出されたが、堤防の下面に至ったのは一ヵ所の調査区だけで、T.P. ＋ 12.4 mのレベルで地山と考えられる明灰黄色砂質シルトが観察された。いわゆる遺構は検出されなかった。

遺物としては、今池の堤防盛土層のなかから、瓦器・土師器・須恵器の細片が出土した。すべて磨滅状態で、図化できるものはなかった。中世以降の堤防盛土工事の際に混入されたものと思われる。

まとめ

今回の調査では、今池の堤防が地下の遺構を削平して築造されたもので、その際に堤防盛土中に中世の遺物が若干混入されたことが明らかになった。

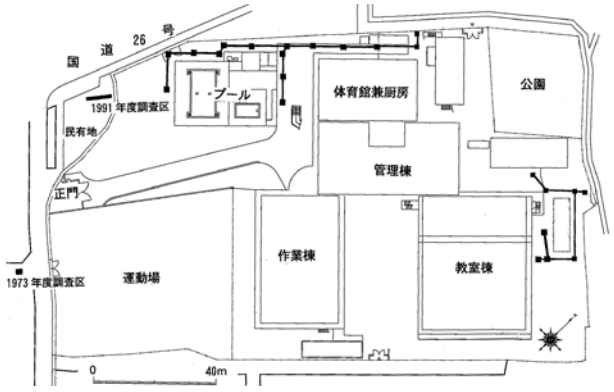


図 23　調査区位置図

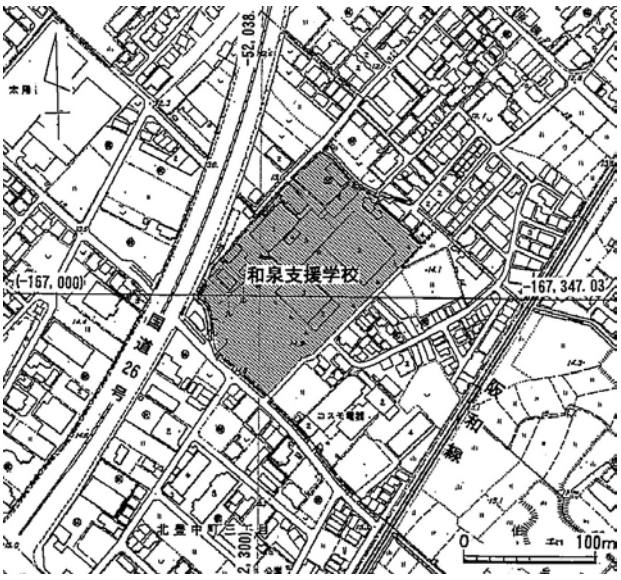


図 24　和泉支援学校の位置図

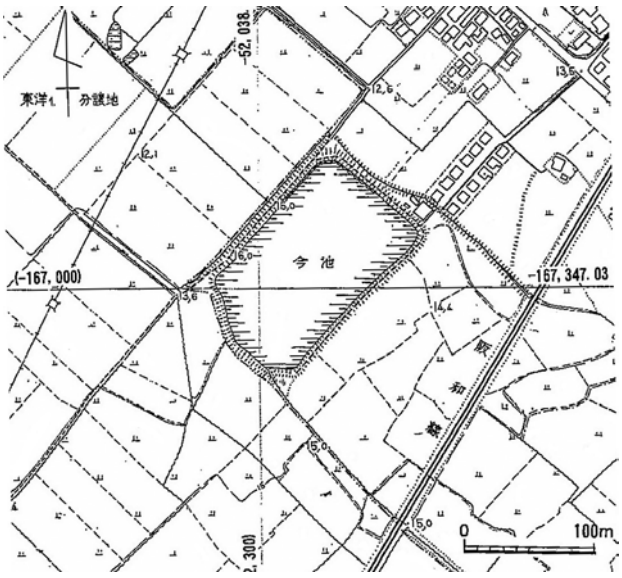


図 25　学校建設以前の地図（1961 年）

土師ヶ町遺跡（１２０１９）

（1）藤井寺市御船町１丁目
（2）府立藤井寺工科高校同窓会館建設工事
（3）小林義孝

調査に至る経過

府立藤井寺工科高校の校地は、校舎増築に伴う調査等によって確認され、同校校舎所在地一帯は土師ヶ町遺跡として周知されている。

今回、学校敷地の南端に同窓会館の建設が計画された。藤井寺工科高校との協議により、基礎が遺物包含層に到達する可能性がある部分について発掘調査を実施することとなった。建設する建物の構造上、大型の基礎が建設される同窓会館予定地の南辺に沿って 2.5 m ×4.5 m（西トレンチ）、2.5 m × 8 m（東区トレンチ）の規模をもつ２ヵ所の調査区を設定し発掘調査を実施した。

調査期間は平成 24 年 7 月 14 日から 19 日である。

調査の成果

土師ヶ町遺跡は、仲哀天皇陵古墳や古代寺院である葛井寺が造営された台地の東側に広がる低地にあたる。基本的に方形に区画されており、台地の直下を流れる大水川から分岐した用水路が区画に沿って南北に走っている。同校が建設される以前、今回の同窓会館予定地を用水路が横断していたことが古い地形図で確認できる。

調査区は、全面に盛土（厚さ 0.8 ～ 1.4 m）が施されている。西トレンチの東部から東トレンチの西部において盛土を除去すると幅３m前後に復元できる南北溝が確認できた。同校建設以前にここを流れていた水路の痕跡である。

盛土以下の土層は、東西いずれのトレンチにおいてもシルトと砂の層を基本としており、流水堆積によるものである。またその下層には、現地表面下２mを越えると青灰色～暗灰色の粘土がみられる。これらの土層は、上層で検出した水路の以前にも、この地点に幅広い自然河川が存在したものと推測させるものである。

なお、いずれの土層からも遺物の出土はなかった。

まとめ

今回の調査は小規模な範囲で実施したのみであるが、この地における地形の変遷の一部を確認することができたことは大きな成果である。

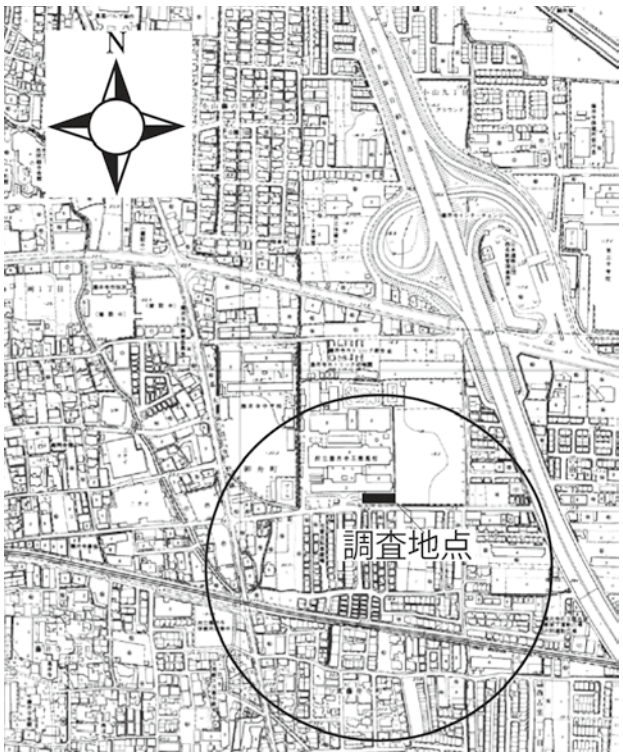


図 26　調査区位置図

図 27　西トレンチ全景

図 28　東トレンチ全景

大県（おおがた）遺跡（１２０２４）

（1）柏原市平野１丁目
（2）一般国道（旧）170 号交通安全施設等整備事業
（3）杉本清美・岩瀬　透・阿部幸一

はじめに

大県遺跡は、縄文時代から近世まで継続する集落遺跡である。これまでに柏原市教育委員会が行った、堅下小学校の体育館新設に伴う発掘調査で、古墳時代後期から奈良時代頃の鍛冶関連遺構や遺物が多く見つかっている。

今回の調査は、一般国道 (旧)170 号道路拡幅工事に伴う発掘調査で、調査区の一部は堅下小学校の西側に近接する。調査範囲は、南北延長約 200 m、幅 1.2 ～ 2.5 mで、面積は約 390㎡を測る。調査区は北から、A 工区、B 工区（北・南）、C 工区、D 工区とした。掘削深度は、A 工区が現地盤から約 1.5 m、B・C・D 工区は鋼矢板を打設し約 2.5 mまで調査を行った。

調査成果

A 工区では、南北方向に並ぶ古代の掘立柱建物柱穴と耕作溝、東西方向に伸びる畦畔などを検出した。B 工区北では、東西方向に伸びる溝を検出した。溝内から古墳時代後期から飛鳥時代の遺物と供に、移動式かまど片や鉄滓、ふいご羽口、獣骨などが出土した。B 工区南では、弥生時代中期頃の円形の竪穴住居や溝、古墳時代中期頃の素掘りの井戸、掘立柱建物の柱穴列、ふいご羽口や瓦片を含むピットなどの遺構を検出した。古墳時代の井戸底からは、須恵器壺、はそう、土師器壺、砥石などが出土した。さらに下層から、縄文時代中期から後期頃の東西方向の流路を検出した。流路内から、縄文土器片やサヌカイト片が多く出土した。C 工区では、周辺が赤く焼けた鍛冶炉を 2 基検出した。鉄滓や粒状滓などが数多く確認された。D 工区では、馬歯、獣骨を含む東西方向の溝、落ち込みなどを検出した。

図 29　大県遺跡調査区位置図

まとめ

調査の結果、縄文時代、弥生時代から奈良時代頃の遺構、遺物を多く検出した。多彩な縄文土器を含む流路では、焼土も確認されており、周辺に住居域の存在がうかがわれる。また、鍛冶炉の検出により、大県遺跡での鍛冶関連遺構の広がりを確認することができた。

図 30　B 工区北全景（南から）

図 31　B 工区井戸 62 遺物出土状況

池上曽根遺跡（１２０２９・１２０３５）

（１）和泉市池上町４丁目
（２）大阪府和泉池上収蔵庫（仮称）建設工事
（３）西口陽一・辻本　武・橋本高明・西川寿勝

はじめに

大阪府教育委員会が計画する和泉池上収蔵庫（仮称）建設に先立って、確認調査を実施した。調査地は史跡指定地の南東端から約 100 ｍ南方で、大阪府立弥生文化博物館の西側に隣接している。かつては織物工場が存在したが、現状は駐車場である。

調査の成果

調査は二回実施した。１回目は、調査対象地の中央に３ヶ所（Ａ～Ｃ区）を設定したが、調査面積が狭小な上に、旧工場による攪乱が顕著なため再度調査範囲を拡大して実施することにした。２回目は７ヶ所の調査区（１～７トレンチ）を設定した。

基本層序は、①、②現代盛土、③暗灰色シルト（現代耕土）、④は③に伴う床土、⑤黄灰色粘質シルト（中世～近世耕土）、⑥黄褐色粘質シルト（中世～近世床土）、⑦暗灰色褐色粘土（地山）、⑧黒褐色粘土（地山）、⑨灰黄色粘土（地山）である。

１トレンチの西端では基本層序の堆積であったが、中央では③の現代耕土の直下は⑤、⑥および⑧黒褐色土層になり、東半分は近年の攪乱で大きく削平されていた。⑤、⑥から磨耗した土師器・須恵器の細片が出土した。いずれも、現位置を保つものではなかった。２トレンチは、近年の攪乱で大きく削平されていた。№１東半分の攪乱に続くものと思われる。３トレンチは、③の直下は④、さらにその下は⑧に相当する土層である。４トレンチは、層序は№３と同様である。調査区の西端では攪乱が確認され、№１東半分および№２の攪乱範囲が広がっていると考えられる。５トレンチは①の直下に⑤に相当する層であるが、遺物の出土はなかった。⑤の下層は黄褐色粘土で⑨に相当すると考えられる。西半分は、近年の攪乱で大きく削平されていた。６トレンチは、①の直下は、⑤に相当する可能性のある土層が二層観察された。その下層は、⑧の地山と間に⑥に相当する可能性のある土層である。またこの調査区の西端で、前回調査のＣ区で検出したコンクリート土間の続きを確認した。西端は近年の攪乱で削平されていた。７トレンチは、調査区全面に厚いコンクリートがあり、下層は確認できなかった。

まとめ

今回の確認調査では、遺構は検出されなかった。遺物は１トレンチの⑤、⑥層から数点出土したが、二次的な堆積層からの出土であった。調査対象地の東側では旧工場によって大きく攪乱されていることが明らかになったが、出土品の中に弥生土器やサヌカイト片が認められないこと、湧水が激しく、地下水位高いと考えられることから、当該地は弥生時代においては、扇状地形内の不安定で、あまり土地利用されない地域であったと考えられる。

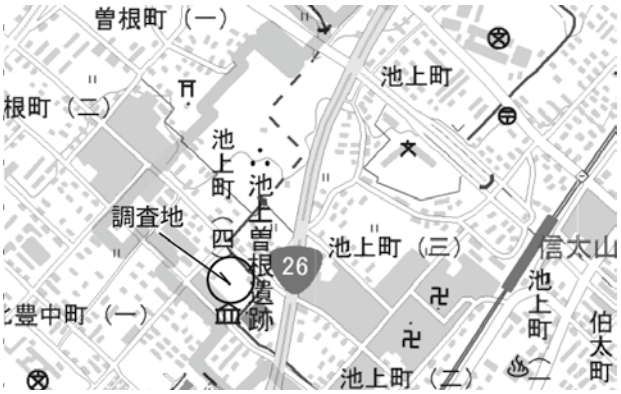


図 32　位置図

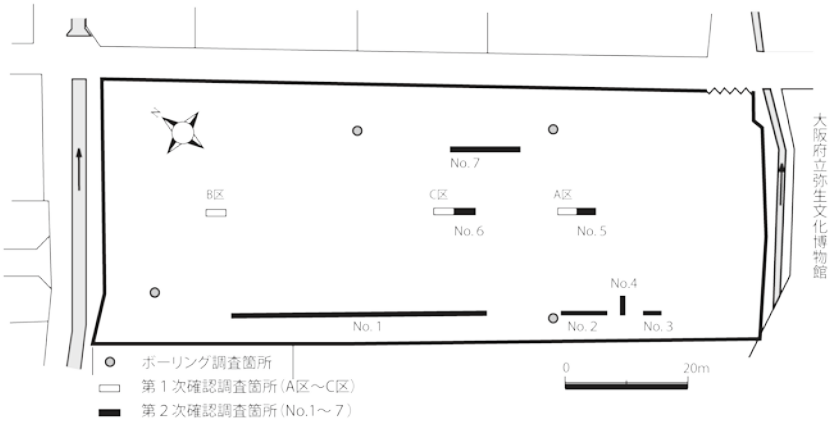


図 33　トレンチ配置図

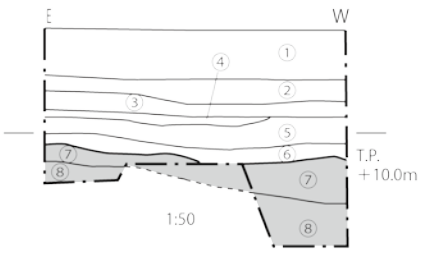


図 34　１トレンチ西端土層図

川北（かわきた）遺跡（１２０３０）

（１）藤井寺市川北１丁目
（２）藤井寺立坑築造工事（藤井寺長吉バイパス送水管・藤井寺市）
（３）山田隆一

はじめに

今回の調査は、水道企業団による藤井寺立坑築造工事（藤井寺長吉バイパス送水管・藤井寺市）に伴う試掘調査である。工事対象地の川北遺跡の西側に隣接することから遺跡の広がりが予測されたため、事前に試掘調査を実施した。

調査地は現大和川の北側に位置し、旧大和川によって形成された沖積低地にあたる。調査は、立坑の築造及び管埋設予定地に南北２ヶ所の調査区を設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械と人力を用いて掘り下げた。

調査成果

北区　現地盤から－ 3.6 ｍまで掘削を実施した。盛土①②、現代耕作土③、シルト質土④、河川内堆積の粗砂・シルト⑤～⑦を確認した。⑤層以下は、湧水が著しい。河川内堆積は深さ 1.5 ｍを確認したが、それ以下は湧水と崩落により掘削することはできなかった。遺構は未確認であるが、河川堆積の⑤⑦層から弥生土器・土師器・須恵器等の弥生時代～古代の土器片が出土した。

南区　現地盤から－ 4.0 ｍまで調査をした。盛土①②に、現代耕作土③、シルト質土④、遺物包含層⑤、層上面が酸化赤変するシルト質土⑥、それ以下は粘土・シルト⑦～⑪を確認した。遺物包含層⑤からは、時期は明確にできなかったが土師器片が数点出土した。

まとめ

北区、南区ともに①～④層までは同じ堆積層であり、それを除去して北区では流路跡、南区では遺物包含層⑤を検出したし、⑥層上面が遺構面になると推定される。

この結果を受けて藤井寺市教育委員会と協議を行った結果、図 35 で示した範囲を新たに川北遺跡として拡大し、周知するに至った。

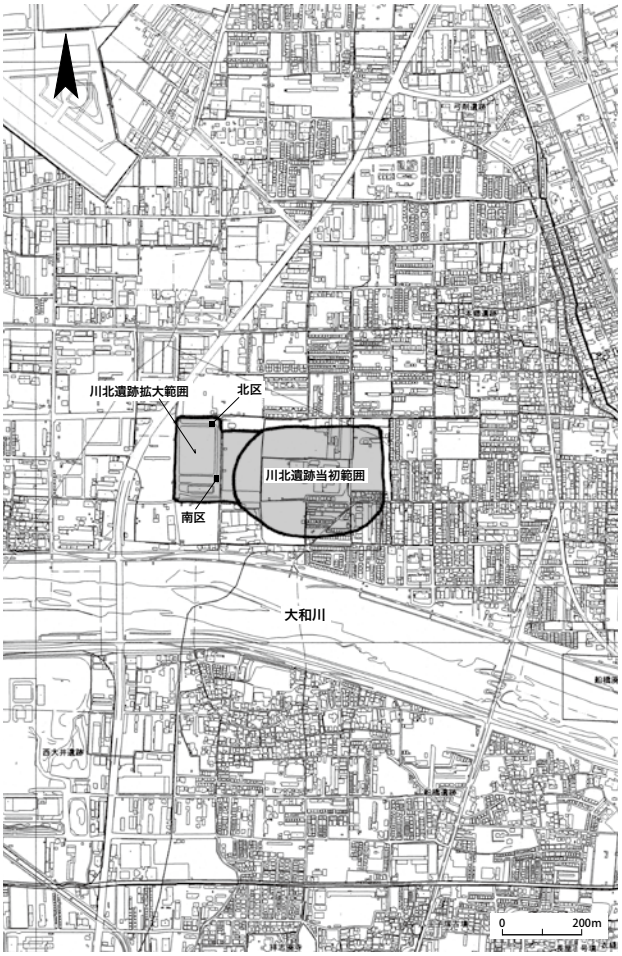


図 35　川北遺跡位置図

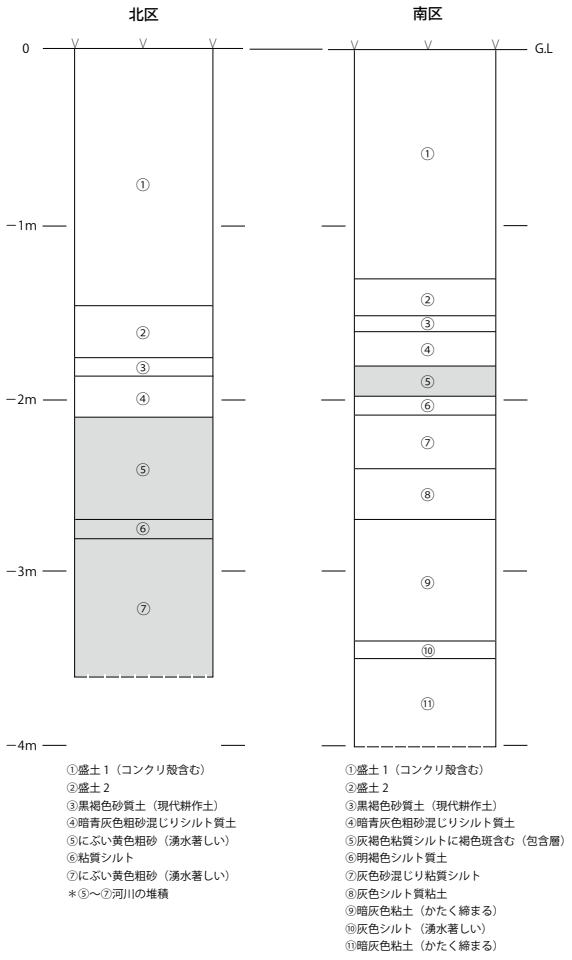


図 36　土層断面模式図

北鳥池遺跡（１２０３４）

（１）東大阪市若草町
（２）送水管敷設工事（上小阪枚岡系統連絡管・東大阪市）２工区
（３）大楽康宏

はじめに

北鳥池遺跡は東大阪市の東部に位置し、若草町、末広町、下六万寺町３丁目に所在する。遺跡の範囲は東西 0.3㎞、南北 0.35㎞の範囲が推定されており、今回の調査地はその北西端にあたる（図 37）。

遺跡は昭和 39 年（1964 年）に大阪府営枚岡ポンプ場建設に際し発見され、弥生時代から古墳時代の集落跡として知られるようになった。特に出土した土器は、弥生時代から古墳時代の過渡期の土器として著名である。

今回の調査は大阪広域水道企業団東部水道事業所が所管する府営枚岡ポンプ場内に、送水管敷設工事（上小阪枚岡系統連絡管・東大阪市）２工区として新設送水管を敷設するのに伴い、事前の発掘調査を実施した。

調査成果

調査対象地は生駒山を流下する長門川が形成した扇状地形とその先端縁辺の低地に立地する。

平成８(1996）年の調査（ポンプ場南東隅・公共下水道発進立坑）では地表下８m（T.P.-1m）付近で二枚貝殻を大量に包含する層を検出しており、河内湾の汀線付近であることが判明している。調査では縄文時代後期から古代・中近世の遺物を検出したが、遺構は検出されなかった。

また、平成 22（2010）年の調査（枚岡立坑部分）では、T.P.+4.2m ～ 3.2m の各層上面で中世を中心とした耕作痕跡が検出されている。その下は層厚 1.5m ほどのシルト・砂層、以下シルトの水平堆積層が T.P.+0.5m 付近まで続くが、遺構は検出されていない。

今回の調査では、弥生時代と考えられる（工事で掘削される深度）T.P.+2.6m まで調査したが、明確な遺構は検出されなかった。遺物としては、盛土に含まれる黒灰色の粘土塊から弥生土器の小片が出土している。

まとめ

今回の調査は、北鳥池遺跡の北西端部分での調査である。調査成果で報告したように弥生時代の相当層まで調査したが、このあたりは洪水堆積であり、集落が営まれていた地点ではないようである。遺物を包含していた黒灰色の粘土塊は、ポンプ場本体の工事に伴う残土と考えられる。

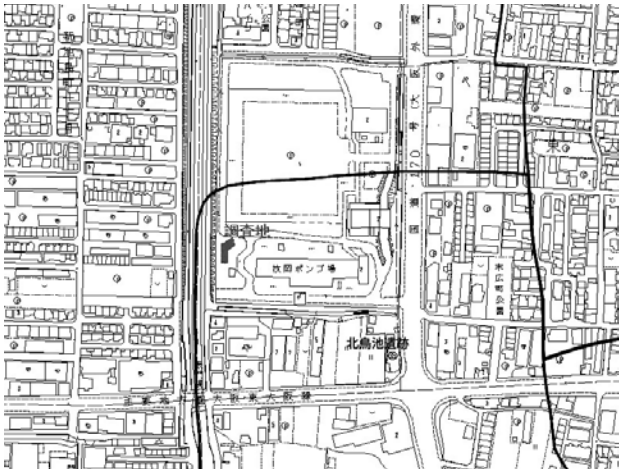


図 37　調査区位置図

図 38　調査完了状況

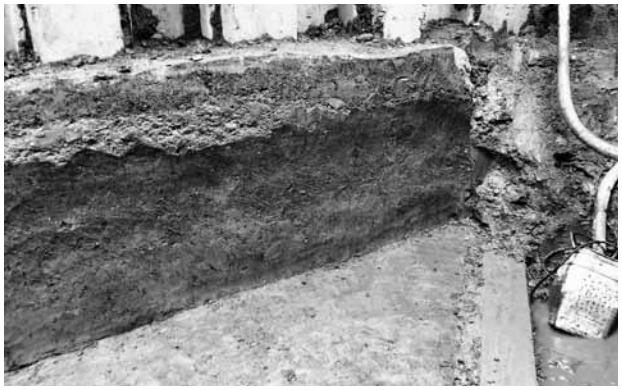


図 39　土層断面（西壁）

安威城跡（１２０３９）

（１）茨木市安威２丁目
（２）主要地方道茨木亀岡線道路改良工事
（３）三好　玄

はじめに

安威城跡は安威川右岸の沖積地から低位段丘上にかけて位置する遺跡である。主要地方道茨木亀岡線の建設工事に先立ち、平成 23 年度調査区の北側を対象として 147㎡の発掘調査を実施した。

層序と遺構の概要

調査地には、上から道路建設時の造成土、近世～現代の耕作土が堆積しており、その下の基盤層上に古墳時代後期の遺構面が認められた。基盤層は、小礫～大礫を含む粗粒の堆積物からなり、ラミナも認められないことから、土石流によって形成された可能性が高い。

基盤層は、東北部から南西部にかけて帯状にもっとも高く、調査区の東南部では段差をもって南東へ向かって深くなっている。北西部の基盤層の一部も浅く谷状をなしており、この部分の埋土を除去すると竈と考えられる痕跡が検出された。

竈は､浅く窪んだ基盤層の斜面を利用したもので、黄褐色粘土を貼り付けて壁体とし、中央に立てた細長い川原石を支柱としたものと考えられる。内部の床面は、粘土の赤変が認められ、竈の前面から完形品を含む土師器・須恵器が検出された。壁体内部にも土師器羽釜片が塗り込められており、これらの遺物からこの遺構が６世紀後半に属するものであることが明らかである。調査中は、浅谷状の地形が竪穴建物となる可能性を考え、再三の遺構精査及びサブトレンチ設定を行ったが、結局そのような痕跡は認められなかった。竈は屋外に築かれたものと考えざるをえず、本調査で他に顕著な遺構はない。

地震断層

古墳時代遺構面調査後、調査区の東西に南北方向のサブトレンチを設定し、基盤層の掘削を行ったところ、北東から南西に走る地震断層の痕跡が検出された。既述した基盤層の段差はこれに起因するものである。この痕跡は、昨年度の調査成果においても確認できるほか、隣接する現代の水田区画とも一致する。本断層は、今回の調査区の東北約 100 ｍの地点で過去に確認された真上断層に当たる可能性が高い[注１]。

まとめ

今回の調査では、古墳時代後期の屋外竈の痕跡が検出された。同様の遺構は、南北に隣接する過去の調査区でも複数検出されており、この遺跡を特徴づける遺構として注目される。また基盤層の調査によって地震考古学による研究成果を追認することができた。今後、本遺跡において調査を進める際や周辺遺跡の調査成果を検討する際にも断層の影響を十分に考慮することが必要である。

（注１）寒川旭・杉山雄一・宮地良典 1996「有馬 - 高槻構造線活断層系の活動履歴及び地下構造調査」『地質調査所研究資料集』№.259

図 40　調査位置図

図 41　竈検出状況

図 42　調査区南壁断面（地震断層、北から）

高井田横穴群・平尾山古墳群（１２０４０）

（１）柏原市高井田 809−1
（２）大阪府立修徳学院寮舎等改築工事
（３）山田隆一

はじめに

調査地は、高井田横穴群第 1 支群と平尾山古墳群の高井田第 5 支群 1 号墳にあたる。

第 1 支群は高井田横穴群の中でも東に位置する支群である。築造時期は 6 世紀中頃から 7 世紀前半と考えられており、尾根筋に 27 基が確認できる。高井田第 5 支群はさらに東に位置する。方墳（１号墳）のみが確認されている。全長 9.4 mの横穴式石室を主体部にする。墳丘西裾は確認されており、東西 30 m程度の方墳と考えられている。

第 1 寮舎側の調査成果、および保護作業

18・19 号横穴については、寮舎撤去工事の振動等による破損に備え、清掃と写真撮影・図面を作成し、内部に土嚢積工を行った。さらに寮舎周囲の確認調査を行った。隣接する 15 〜 17 号横穴と 21・22 号横穴も清掃と写真撮影をし、破損防止のために、入口部分のみに土嚢積工を行った。

図 43 は右が 18 号、左が 19 号横穴である。19 号横穴の前面は、削られて崖になっており崖面に墓道断面が確認できた。墓道は羨門から 5.5 mが残存しており、断面箇所の規模は幅 1.4 m、深さ 0.65 mで「U」字形に掘り込む。埋土から 7 世紀初頭の須恵器と土師器の高杯が出土した。

第 9 寮舎側の調査成果

寮舎周囲の確認調査を行い、前年度に確認された第 5 支群 1 号墳の規模と保存範囲を確定するとともに、その他の古墳等の有無を確認した。

図 45 は 1 号墳の墳丘東側に設定した確認トレンチ西端部である。表土、現代盛土、黄褐色土、黄褐色弱粘質土を除去すると、地山を削って造られた墳丘最下段テラスと墳丘裾ラインが確認できた。テラス上端部で石列が確認できた。黄褐色粘質土は古墳の東側区画壕、あるいは周壕の埋土と考えられる。これによって 1 号墳の墳丘規模は、東西 36 mであることが判明した。遺物の出土はない。なお他の古墳等は未確認である。

図 43　右から 18・19 号横穴

図 44　右から 15・16・17 号横穴

図 45　1 号墳々丘裾検出状況

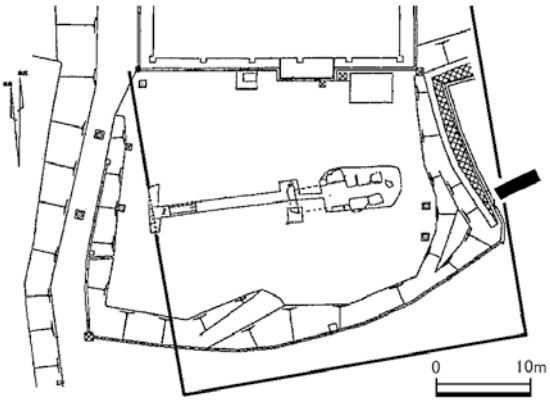


図 46　1 号墳推定規模

百済寺遺跡（１２０５２）

（１）枚方市宮之阪３丁目
（２）大阪府立精神医療センター病院施設建替え工事
（３）山田隆一

はじめに

精神医療センター建替え工事の内、丘陵南西端にある「デイケア農園」に建設する屋外作業控室２の西側隣接地に埋設する下水槽部分(図 47)である。現地は東西 80 m、南北 50 mほどの平坦地であり、農園内で実施した数箇所の確認調査では、いずれのトレンチでも建物柱穴や溝等の遺構が確認され、遺物が出土している。

調査成果

図 48 は確認トレンチのほぼ全景である。直径３mの下水槽とそれにつながる長さ 3.4 m幅 0.5 mの埋管部の狭い範囲である。現代耕作土 10cm 程度を除去すると黄色粘土の地山面で、これが遺構面である。柱穴と浅い土坑が確認できたが、範囲が狭いので建物の復元には至らない。

柱穴は７基を確認した。図 49 は柱穴掘方である。60cm 四方で、柱痕跡は直径 30cm である。柱痕部分に露出しているのは黒色土器である。なお調査区の南部で実施した確認調査でも柱穴３基を確認しており、やはり一辺 50 ～ 60cm のやや大型の方形掘方である。同様の遺構が広がる可能性が高い。

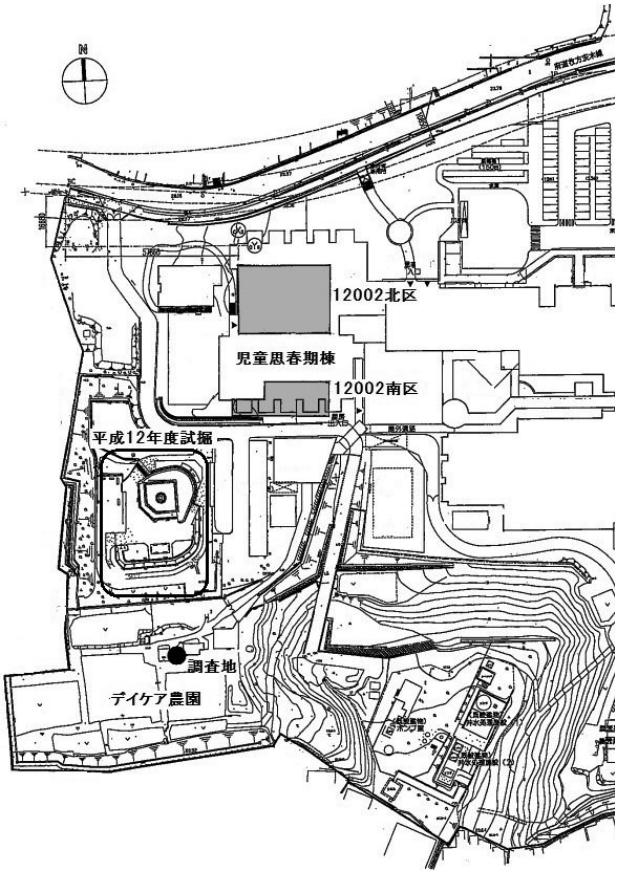


図 47　調査区位置図

まとめ

今回の調査において、デイケア農園一帯にも百済寺遺跡と同様の時期の遺構・遺物が広がっていることが確認できた。調査成果からは、掘立柱建物群等が存在した範囲と考えられる。

ところで精神医療センター敷地内で、デイケア農園の北側は現在公園となっている。敷地は東西 45 m南北 50 m程度の広がりをもつ。この範囲では平成 12 年度に試掘調査が行われており、遺物包含層が確認され、３箇所のトレンチのから遺構・遺物が確認されている。遺構は柱穴、溝、濠が検出されており、時代は古墳時代後期から中世におよぶ。

児童思春期棟での調査成果（調査番号 12002）も合わせると、精神医療センターの立地する丘陵の少なくとも西半には、北側に立地する百済寺跡との関係が示唆されると共に、その前後する時代の遺跡が広がっていたと考えられるようになった。

図 48　調査区全景（西から）

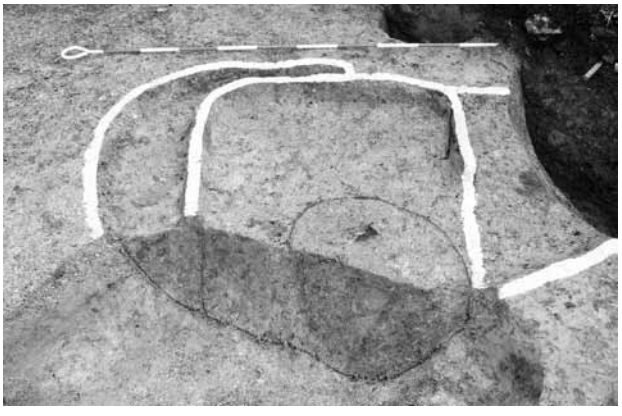


図 49　柱穴検出状況

加治・神前・畠中遺跡（１２０５７）

（1）貝塚市畠中１丁目
（2）府立貝塚高校校舎建替え工事
（3）辻本　武

本府教育委員会は、府立貝塚高校の本館校舎が耐震上の問題を有することから建替えを計画し、当地が加治・神前・畠中遺跡に隣接しているので遺構・遺物の有無を確認するための試掘調査を実施した。

調査結果

調査区は校舎建替え予定地に二箇所設定し、「南西区」と「北東区」と名付けた。

南西区　学校正面玄関の車寄せ道路内に設定したトレンチである。現地表面から 30㎝前後まではコンクリートとそれに伴う砕石等である。その下は約 40㎝の厚さの現代盛土である。以上を除去すると、高校建設直前と考えられる旧耕作土層が現れた。

この旧耕土層の下は炭片を含む灰褐色土で、旧耕作土層に伴う土層と考えられる。この層の下層は、厚さ 25㎝前後の黄灰色土層で、奈良時代の須恵器を含む遺物包含層となる。

遺物包含層を除去すると、明黄褐色土の地山となり、この地山面で遺構が発見された。今回は試掘なので遺構掘削は行なわなかった。

北東区　学校正門より北東側にある国旗掲揚台横で設定したトレンチである。土質が軟弱で、直掘りできなかったが、地山面まで確認することができた。

現地表面から 60㎝までは現代の盛土で、それを除去すると旧耕作土が現れる。その下は灰色土、明黄褐色土となり、これらを除去した G.L － 1.2 m のレベルで遺物包含層である灰色土層となる。遺物包含層は 15㎝の厚さを持ち、この下は黄褐色土の地山となる。地山面で精査したが、遺構はなかった。

まとめ

調査の結果、建替工事予定地が奈良時代の遺跡であることが判明した。本府教育委員会は貝塚市教育委員会と協議のうえ、周知の加治・神前・畠中遺跡を当該工事予定地に拡大することとした。

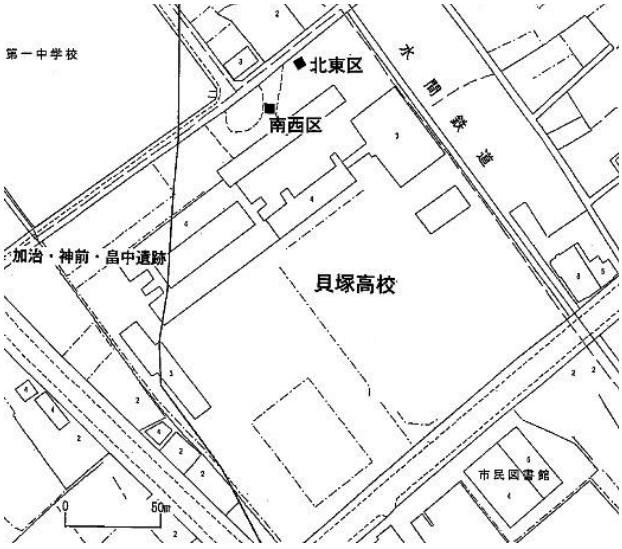


図 50　試掘位置図

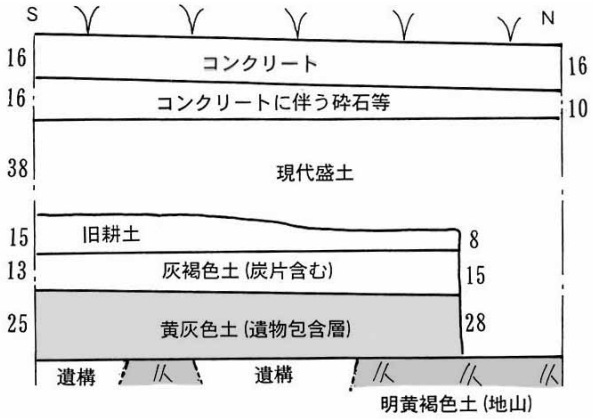


図 52　南西区土層断面模式図（数字は cm）

図 51　南西区全景（東から）

図 53　出土遺物

禁野本町遺跡（１２０６０）

（１）枚方市禁野本町２丁目
（２）都市計画道路枚方藤阪線整備工事
（３）山田隆一

はじめに

禁野本町遺跡は、奈良時代後半～平安時代前半に存続し、正方位に近い区画溝や掘立柱建物群などが確認されている。

調査は府道拡幅工事に伴うもので、道路に沿う北側の延長 600 mを対象として、平成 19 年度から実施しており、今回の調査が最終年度である。調査地は枚方市民病院前であり、その中央部分の調査は前年度に終了しており、今回は東部（東区）16 m、西部（西区）29 mの 288㎡の範囲である。

調査成果

東区　調査区東半は近世の池が見つかった。前年度に確認した谷地形を利用して築造したものである。他に建物の柱穴、溝などが確認できた。それらの遺構は奈良時代後半～平安時代前半に位置付けうるものである。中央部は大きな柱掘方の立派な廂付き建物であったが、今回の柱穴は小規模である。

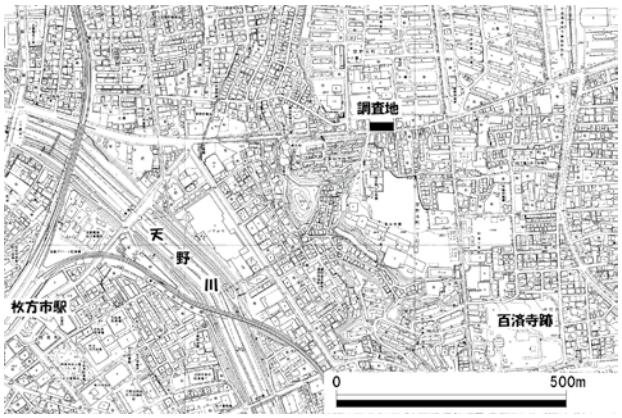


図 54　調査地位置図

図 55　東区全景（東から）

西区　地山面で不定形落込み群を確認した。平面形態は細長い不定形でヤツデ葉状を呈する。以下のような状況が確認できた。

①不定形な溝状遺構が東西にのびるように見える。
②落込みの深さ約 10 ｃｍで、底面は凸凹である。
③底面に鋤・鍬の刃先痕跡が確認できる所がある。
④地山面に鋤・鍬の刃先痕跡が確認できた。
⑤南は削平･消失しており、北は調査区外に伸びる。

性格は不明であるが、地山面に鋤・鍬の刃先の痕跡が確認でき、部分的にはそれが列状に確認できるので、農作業－畑等の下部の痕跡－あるいは何らかの土木作業によって形成された痕跡と考えておきたい。なお建物を復元しうる柱穴は未確認である。

まとめ

今回の調査で、以下の事が明らかになった。

①時期は奈良時代後半～平安時代前半である。
②中央に立派な庇付き建物が、その東方には小規模な建物が確認できた。
③交野台地縁辺に近い西区では、建物の柱穴は確認できず、畑などに利用されていたようである。
④これらは、一つの屋敷地内の状況と考えられる。

図 56　西区全景（北から）

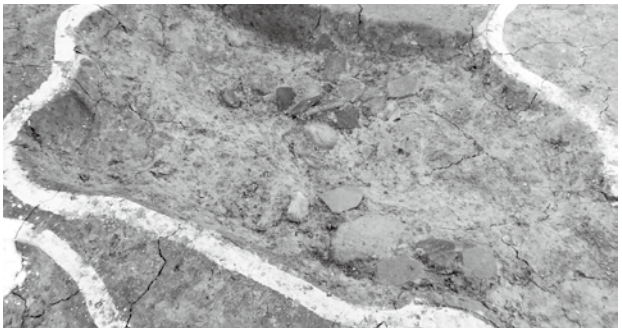


図 57　不定形落込み遺物出土状況

金龍寺旧境内跡（１２０８１）

（１）高槻市成合地内
（２）近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）
（３）岡本敏行・（公財）大阪府文化財センター

はじめに

今回の調査は近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）に伴う試掘調査である。0～5区の調査区を設定し、調査は昨年度から継続実施するが、今回対象となる区域は4・5区である（他の調査区は金龍寺旧境内跡の確認を目的とした調査である）。4・5区は金龍寺旧境内跡と成合遺跡に挟まれた比較的緩傾斜で平坦面のみられる尾根上に設定した地区である（図59）。土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら主に人力を用いて掘り下げた。

調査成果

調査対象地は、檜尾川上流の東側に広がる丘陵上に位置し、北側に弥生時代の高地性集落である成合遺跡、南側に古代から中世の金龍寺旧境内跡が隣接する。

調査の結果、4・5区ともにG.L－70cm前後で基盤層に達し、その間3～4層に分層が可能である。両地区とも弥生～古代の遺物包含層、及び土坑や溝状の遺構を検出し、遺跡の存在が明らかになった。

特に平安時代前期の須恵器片が比較的多く出土することから（図61）、成合遺跡で検出された須恵器窯、もしくは金龍寺との関係が想定され、それぞれの遺跡の範囲が当該地区まで広がっていたものと考えられる。

まとめ

上記の結果を受けて事業者より遺跡発見届けを提出してもらうとともに、高槻市教育委員会と協議を行った結果、周辺地形等を踏まえて図59で示した範囲を金龍寺旧境内跡として拡大し、周知するに至った。あわせて新たに遺跡範囲に掛った道路予定地については、（公財）大阪府文化財センターが引続き発掘調査を実施することになった。

図58　調査地位置図

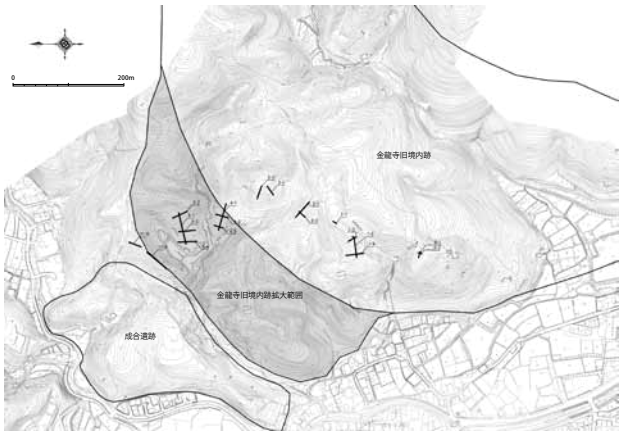


図59　調査区の位置と金龍寺旧境内跡拡大範囲

図60　4-1区全景（北西から）

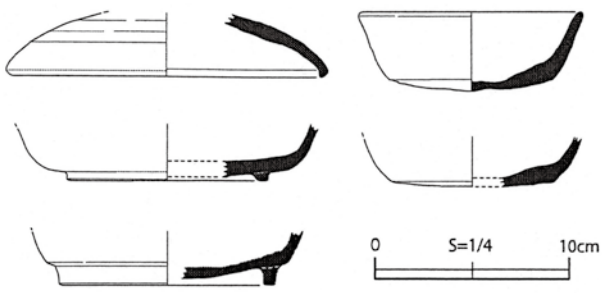


図61　4区出土須恵器

千提寺市阪遺跡・千提寺クルス山遺跡（１２０８２）

（１）茨木市千提寺地内
（２）近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）
（３）岡本敏行・（公財）大阪府文化財センター

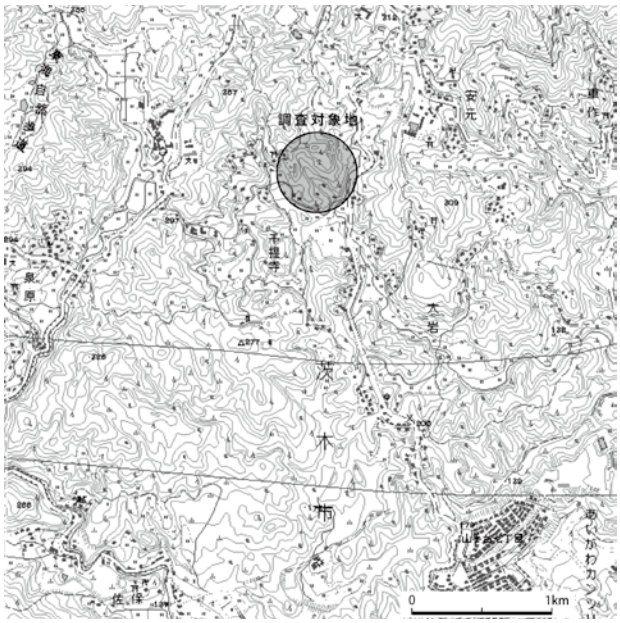


図 62　調査対象地

はじめに

千提寺市阪遺跡及び千提寺クルス山遺跡は、今回新たに発見された遺跡である。発見の契機は、近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（新名神高速道路高槻～箕面間）に伴う事前の試掘調査によるもので、今回の調査がこれにあたる。

試掘調査は一昨年度より継続実施し、今回の対象地には１～７区の調査区を設定。その後 66 ～ 68 区の調査区を追加し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら主に人力を用いて掘り下げた。

調査成果

茨木市千提寺地区は佐保川と大岩川に挟まれた山あいの集落である。戦国時代のキリシタン大名として著名な高山右近の領地であったことから大正時代に隠れキリシタンの里として知られるようになり、キリシタン関連資料が今なお、遺存している地域である。また、調査対象地の東側には茨木と亀岡を結ぶ清阪街道が通るという古くからの交通の要所であり、西・南側には昨年度の試掘調査で発見された中世の墓地群を中心とした古代から近世の千提寺西遺跡や縄文から中世の千提寺南遺跡が存在する。

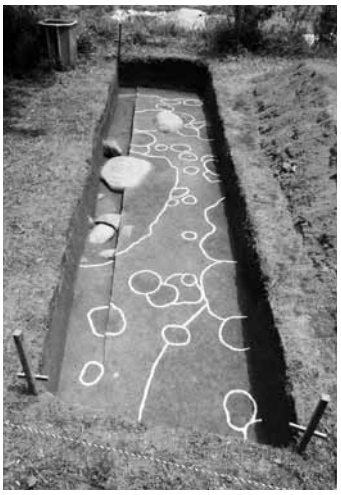


図 64　2–1 区全景（西から）

調査対象地は 400×150 ｍの範囲に及び、主に谷地に形成された棚田の水田面と丘陵部の尾根上の平坦面にトレンチを設定した（図 68）。その結果、東側に位置する２・３区において古代末から中世にかけての土坑や溝、及び良好な遺物包含層を検出。当該地を含めた周辺部に古代末から中世の集落等の遺跡の存在が想定される。また、中央部の谷筋に設定した４・５区からは近世以降の家屋跡や寒天窯と考えられる窯跡が検出されたが、中世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

対象地西側には小字名が「クルス山」と呼ばれる丘陵が南東方向に張出し、頂部中央付近は「切支丹信者墓碑発見地」の石碑とともに慶長６年（1601）銘のある「佐保カラゝ」墓碑他一体が置かれていた

図 63　千提寺市阪遺跡周辺（北東から）

図 65　千提寺クルス山遺跡周辺（北西から）

図 66　6 区調査前のキリシタン墓碑発見地石碑及びキリシタン墓碑

図 67　市阪山頂（67 区）石仏散乱状況

（図 66–現在墓碑等は近くにある茨木市立キリシタン史料館に移されている）。さらに北側に隣接する「寺山」と呼ばれる丘陵には、キリシタン遺物発見の端緒となった慶長 8 年（1603）銘のある「上野マリア」キリシタン墓碑が立つ。6 区はこの佐保カラゝ墓碑があった場所に設定したものであるが、キリシタン関連の遺構・遺物は検出されなかった。しかし、キリシタン墓とは別の火葬場を含んだ墓地群が検出された。さらに谷筋に設定した 7 区では、明確な遺構は検出されなかったが、古代から中世の良好な遺物包含層を確認した。

その後周辺の踏査を実施した結果、2・3 区の西側丘陵（通称「イチサカ山」）の頂部で石仏が散乱しているのが発見され（図 67）、新たに 66 ～ 68 区の調査区を設定。墓と考えられる土坑や炭が充填された焼土坑を検出した。

まとめ

上記の結果を受けて、茨木市教育委員会と協議を行った結果、1・2・66 ～ 68 区周辺を千提寺市阪遺跡、上野マリア墓碑のある寺山地区を含めた 6・7 区周辺を千提寺クルス山遺跡として新たに周知するに至った（図 68）。特に両遺跡では墓地群が検出されたことから、今後これらに混じってキリシタン関連の墓が発見される可能性も大いに期待される。

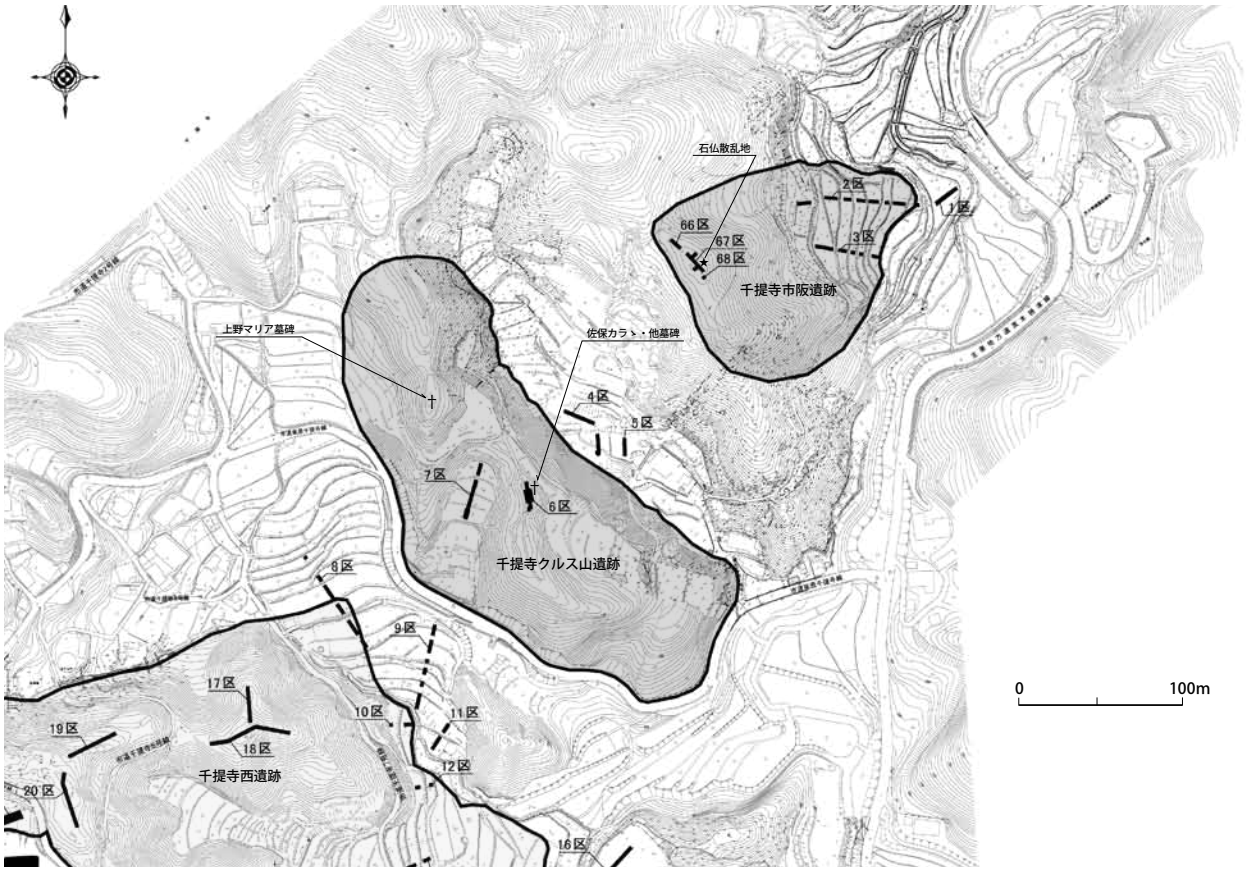


図 68　調査区の位置と遺跡の範囲

成合地獄谷遺跡（１２０８３）

（１）高槻市成合地内
（２）近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）
（３）岡本敏行・（公財）大阪府文化財センター

はじめに

成合地獄谷遺跡は、近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（新名神高速道路高槻～箕面間）に伴う事前の試掘調査で今回の新たに発見された遺跡である。

試掘調査は対象地を７～９区の３地区に分割し、さらに７区は７－１・2、８区は８－１～3、９区は９－１～11 のトレンチに細分（図 71）。土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械と人力を用いて掘り下げた。

調査成果

調査対象地は、東檜尾川の北側丘陵に挟まれた開析谷に位置し、谷中央部を地獄谷川が南流し、東檜尾川に合流する。地獄谷の両岸には上下２段の河岸段丘面が発達し、調査前は畑を含めて棚田が形成されていた。左岸側段丘面の背後は急傾斜で丘陵が迫るが、右岸側は比較的緩い丘陵面が広がる。周辺には、東檜尾川を隔てた丘陵上に弥生時代中期の高地性集落や平安時代の須恵器窯跡が検出された成合遺跡が、その西側には平安時代の瓦が出土する悉檀寺跡が存在する。

調査の結果、地獄谷川左岸に設定した７・８区では時期不明の少量の土師器・磁器細片が出土（８区）するものの、明確な遺構や遺物包含層は検出されなかった。

地獄谷川右岸に設定した９区のうち、段丘面から丘陵緩斜面にかけての棚田に設定した９－１～９－３トレンチで古墳時代から中世の良好な遺物包含層、及び土坑等の遺構を検出した。

また、９－４・５トレンチは、すでにかなり削平されているためか、表土直下は即地山あった。西側小谷部の谷水田に設定した９－６・11 トレンチは、明らかな谷地形で少量の近世以降の陶磁器片が出土したが、遺構等は検出されなかった。

まとめ

上記の結果を受けて、高槻市教育委員会と協議を行った結果、９－１～３トレンチ周辺及び地形等を考慮して図 71 に示した範囲を新たに成合地獄谷遺跡として周知するに至った。

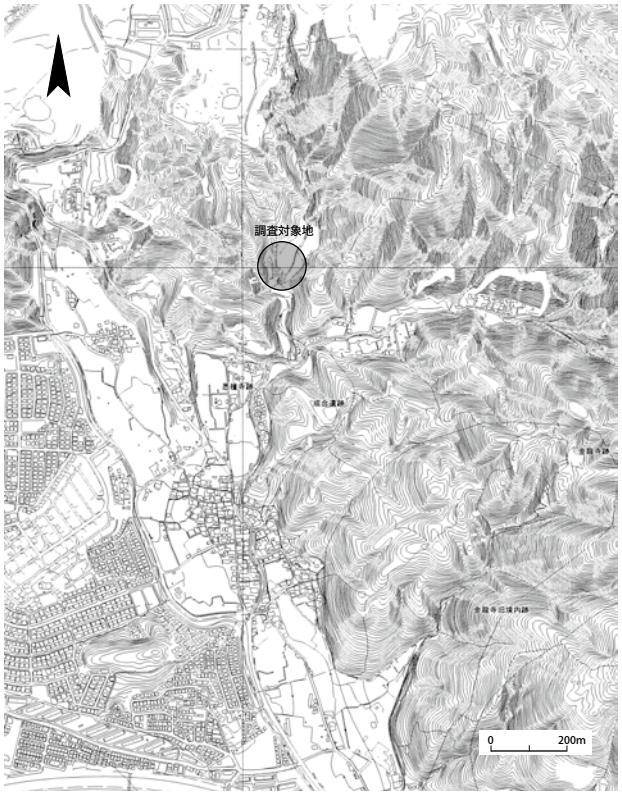


図 69　調査対象地

図 70　地獄谷右岸側調査地周辺（北西から）

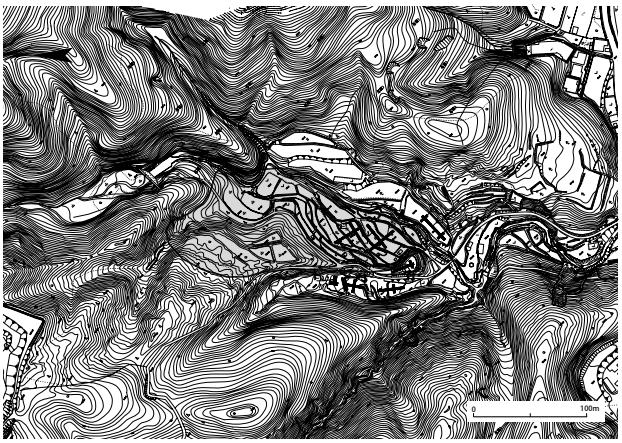


図 71　成合地獄谷遺跡範囲

萩之庄南遺跡（１２０８４）

（１）高槻市萩之庄２丁目
（２）主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工事用進入路建設工事
（３）岡本敏行・（公財）大阪府文化財センター

はじめに

萩之庄南遺跡は、平成 22 年度の試掘調査で新たに発見された遺跡である。調査は新名神高速道路のアクセス道路としての高槻東道路関連の工事用進入路（後に高槻市道として活用予定）建設に伴う調査で昨年度より調査を実施。今年度は遺跡範囲の北端に位置する JR 東海道線の南側に沿って 688㎡を調査した。

周辺には、西側に弥生時代の大規模集落として知られる安満遺跡、北側には古代の幹道である西国街道が通り、梶原古墳群や萩之庄瓦窯跡などの多くの遺跡が存在する。

調査成果

調査対象地は西側に檜尾川が南流し、その氾濫原の微高地に位置する。北側には高槻丘陵が大きく張出す。昨年度の調査（公益財団法人大阪府文化財センター調査）では弥生時代後期から古墳時代初頭の集落跡を検出し、方形周溝墓や大溝・竪穴住居・溝・土坑等が確認されている。

今回の調査では、上・中・下３面の遺構面を検出した。第１遺構面は、中世から近世の遺構面で、溝等の耕作痕と井戸４基を検出した。

第２遺構面は古代から中世の遺構面で、やはり水田耕作や畑作等の耕作痕を検出した。

第３遺構面では、弥生時代後期の溝（510 溝）と古墳時代前期の溝（511 溝）を検出したが（図 74)、全体的に遺構・遺物は極めて希薄であった。また、遺構面は調査区中央部から東側にかけて徐々に下降し、東端部では低湿地状況を呈していた。

あわせて遺跡の広がりを再確認するため、今回の調査区の東側、JR 東海道線に沿って道路予定地約 120 ｍの試掘調査（2×2 ｍのトレンチ４ヶ所）を実施したが、前に記した低湿地が東側に続き（後背湿地の様相を呈する)、いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出されなかった。

まとめ

上記の結果から今回の調査区周辺が、昨年度検出された弥生時代後期から古墳時代前期集落の北側縁辺部と考えられ、今後集落の規模を予測する上からも有用な情報を得ることができたと考えられる。

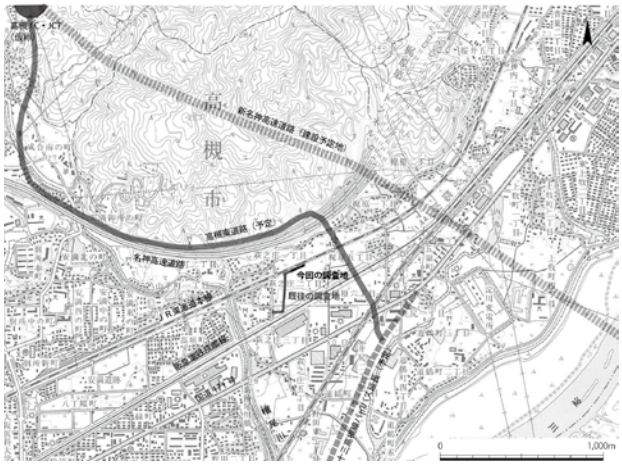


図 72　萩之庄南遺跡調査地位置図

図 73　調査区西側 510 溝検出状況（西から）

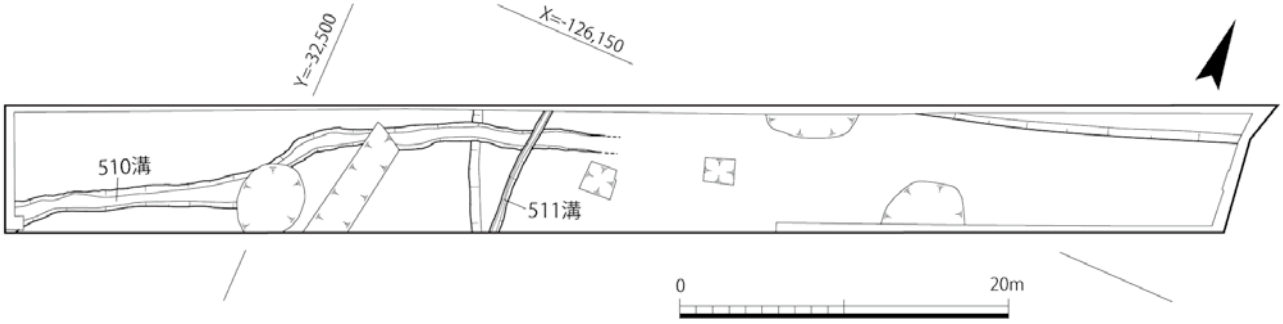


図 74　調査区平面図

長池（ながいけ）窯跡群（１２０８５）

（１）河内長野市小山田町
（２）一般府道大野天野線道路整備工事
（３）小林義孝・島津知子（河内長野市教育委員会）

はじめに

長池窯跡群は、河内長野市の北西部を占める小山田丘陵に立地している。これまでの調査で、合計17基の炭窯が確認されており、熱残留磁気測定の結果により、８世紀から12世紀ごろの遺構であると推定されている。

平成15年度には、府道大野天野線建設に先立って大阪府教育委員会、河内長野市教育委員会が実施した確認調査によって二基の炭窯を新たに発見し、発掘調査を実施した。

今回の調査も、府道大野天野線建設に先立ち当該遺跡の範囲確認調査を実施したところ、窯跡とみられる遺構が検出されたことから、本調査を実施したものである。調査面積は36㎡。平成24年５月29日から６月28日にかけて現地調査を実施した。

調査成果

調査地は、尾根に挟まれた谷筋の最奥にあたり、標高156ｍ付近に位置している。表土（層厚約0.2ｍ）、黄褐色砂（層厚約0.3ｍ）を人力により掘り下げ、遺構検出を行ったところ、高熱を受けて赤褐色に酸化した炭窯跡を二基検出した。

炭窯１は、長さ2.7ｍ、幅1.2ｍで、焚口に向かって幅が狭なるイチジク形を呈する。遺物は出土しなかった。

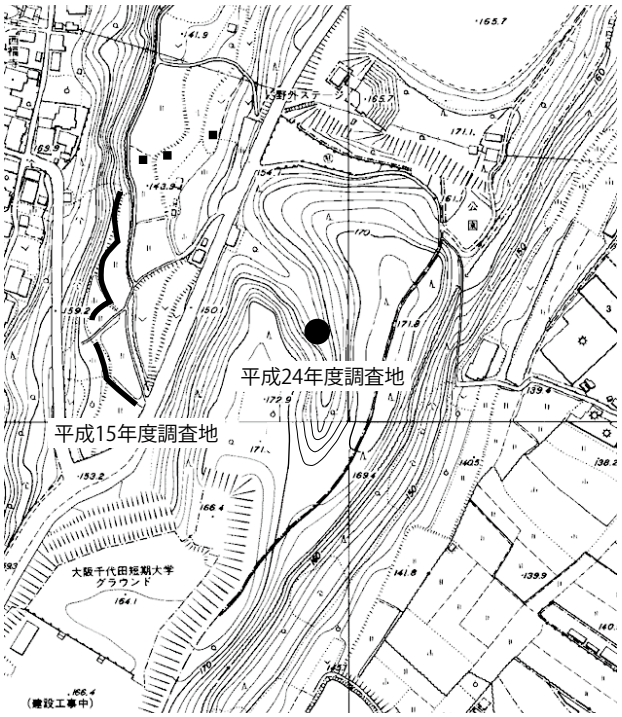


図75　調査地位置図

炭窯２は、長さ1.5ｍ、幅１ｍでイチジク形を呈する。奥壁際の床面からほぼ完形の瓦器椀が１点出土した。瓦器椀の特徴から13世紀ごろの遺構であることが判明した。

まとめ

今回の調査では、炭窯に伴い瓦器椀が出土したことが特徴的である。この土器は炭窯廃棄に際して埋められた可能性が指摘できる。

中世以降、河内長野の特産品として、炭が珍重されてきたことは文献などから知られていたが、今回の発掘調査からもそれを裏付けることができた。

なお、府道大野天野線予定地に広がる長池窯跡群の現地調査は本年度ですべて終了した。平成25年度に実施する整理事業では、本年度の調査成果をまとめるとともに当該事業の調査成果を総括したい。

図76　調査区全景

図77　炭窯２

【資料紹介】

大阪府土師の里遺跡出土の縄文時代半輪状土製品

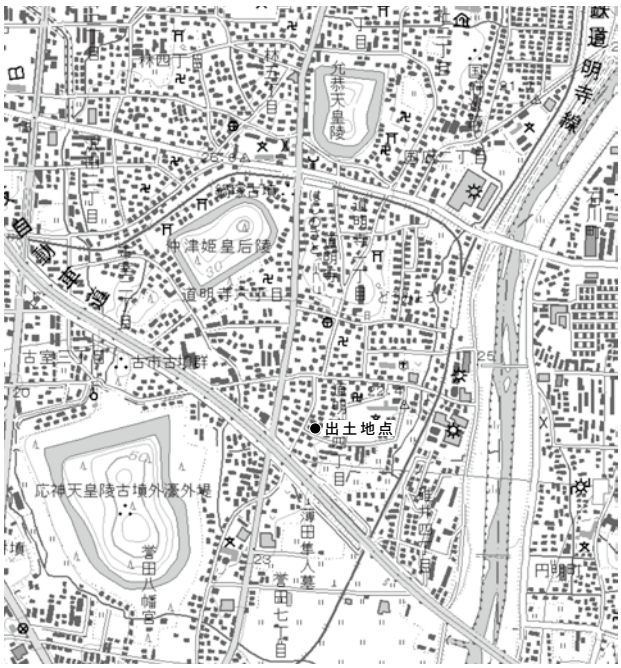


図 78　出土地点

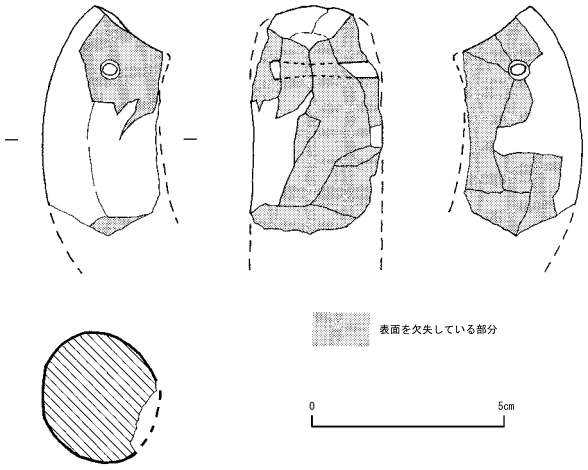


図 79　半輪状土製品実測図（S:1/2）

はじめに

大阪府藤井寺市土師の里遺跡は石川左岸国府台地上に立地する複合遺跡で、古墳時代中期以降、飛鳥奈良平安時代にかけての遺構遺物が濃密に分布しているが、遺跡内では縄文時代後晩期の遺構遺物も散見される。

ここに紹介するのは土師の里遺跡 79-17 区出土の縄文時代半輪状土製品である。この調査区は分譲住宅建設に先立って 1979 年 11 月～ 1980 年 2 月に発掘調査が行われた (註 1)。調査地は大阪府藤井寺市道明寺四丁目 5 番である。縄文時代の遺構は遺存していなかったが、後世の遺物包含層から縄文時代晩期の土器のほか、石鏃・石錐・石刀・石斧などが出土している。縄文時代に属する遺物は、縄文土器を収納したコンテナ 1 箱、および石器・石製品他を収納したコンテナ 1 箱である。石刀（図 82-6）は「結晶片岩製」、石斧（図 82-7）は小型の磨製石斧で「蛇紋岩製」と報告されている。半輪状土製品は概要未掲載の資料中に含まれていた。

半輪状土製品の概要

半輪状土製品は C 字形（半輪状）の土製品で、半輪状の一方の端面を凸面とし、反対側を凹面に作る。また、通常両端部付近に各 1 孔を有している。このような半輪状土製品を 2 個一対とし、孔を紐で縛るなどして、環状にして用いたと考えられるも

図 80　半輪状土製品写真

のである。

大阪府内では、輪状・半輪状を問わなければ、四條畷市更良岡山遺跡(註2)、東大阪市馬場川遺跡(註3)、同市鬼塚遺跡(註4)、同市池島福万寺遺跡(註5)、八尾市久宝寺遺跡(註6)、同市田井中遺跡(註7)、大阪市長原遺跡(註8)等で出土している。

土師の里遺跡例は端部を含む約1/3の破片である。縦位方向にも破断しており、約1/4を失っている。現存長6.0cmである。最大径は3.4×3.0cmで、断面形は楕円形を呈する。中央部が最も太く、端部は太さを若干減じる。外径側は遺存状況が良く、若干面をもつ。内径側は欠失部分が大きい。端面は約1/4が遺存するのみだが、中央部が明らかに窪んでおり、凹面側の端部であることが知られる。端部から約1cmの位置に焼成前穿孔がある。穿孔部はプライマリーな表面が遺存していない。孔径は約0.5cmだが、遺存している範囲のみの観察でも、孔径は両外側が大きく内側ほど小さいので、穿孔が両側からなされていると判断できる。2個一対の状態を図上で円形に復元すると、外径が約11cmとなる。胎土は精良で1㎜以下の長石・石英・チャート・赤色粒を含む。焼成良好、色調は淡灰黄色～暗黄灰色である。

図81　土師の里遺跡79-17区出土縄文土器

この調査区から出土している縄文土器は、概要掲載の20点以外に、口縁部片7点、胴部片136点、底部片26点がある。これらは滋賀里Ⅲa式～篠原式に属するもので、外面調整は二枚貝条痕が多く、ケズリ、ナデもある。口頸部界に強いヨコナデを施した滋賀里Ⅲa式深鉢が目立つほか、同型式のボウル形浅鉢、篠原式新段階の浅鉢C類などがある。概要未掲載の土器中に巻貝条痕の可能性のある破片が1点ある。

これらの出土土器から見て、土師の里遺跡の半輪状土製品は縄文時代晩期滋賀里Ⅲa式～篠原式に属するものと考えてよかろう。この年代観は従来知られている半輪状土製品の時期とも整合的である。

（大野 薫）

（註1）　松村隆文「79-17区の調査」『土師の里遺跡発掘調査概要・V』大阪府教育委員会　1983

（註2）　西村隆『歴史民俗資料館収蔵品目録第一集』四條畷市立歴史民俗資料館　1996

（註3）　奈良拓弥「馬場川遺跡第20次発掘調査(遺物・総括編)」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報－平成22年度－』東大阪市教育委員会　2011

（註4）　福永信雄『鬼塚遺跡第8次発掘調査報告書』財団法人東大阪市文化財協会　1997

（註5）　広瀬時習『池島・福万寺遺跡5』(財)大阪府文化財センター　2008

（註6）　石神幸子『河内平野遺跡群の動態V』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター　1992

（註7）　桑野一幸『田井中遺跡』(財)大阪府文化財センター　2006

（註8）　松尾信裕『長原遺跡発掘調査報告Ⅲ』財団法人大阪市文化財協会　1983

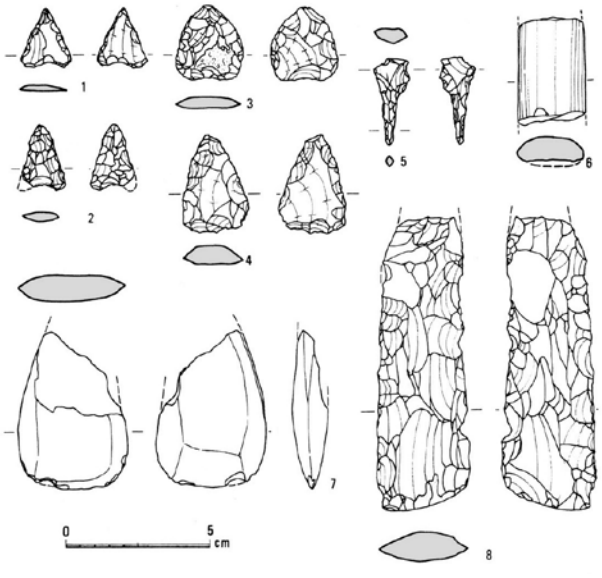


図82　土師の里遺跡79-17区出土石器・石製品

【資料紹介】

弥生以後の池上曽根 ― 古墳時代集落とその出土遺物について ―

はじめに

泉大津市立織編館で開催された第 47 回特別企画展『弥生以後の池上曽根』（会期：平成 23 年 9 月 15 日～同年 10 月 25 日）に、池上曽根遺跡出土資料の展示貸出を行った。展示はタイトルのとおりで、弥生時代以後、特に古墳時代の池上曽根遺跡に焦点を当てたものとなった（展示品 136 点）[注 1]。貸出にあたって、本遺跡範囲の曽根神社付近から北東へのびる自然堤防上[注 2]に古墳時代集落の存在が想定されることから、その中央部に位置する 1974 年度調査区で出土した古墳時代の遺物の再整理を実施した[注 3]。

一方、調査区の図面や写真などの記録資料を整理していくなかで、遺物整理表・遺物観察表などの内業整理の詳細な内容を記した 6 冊の大学ノートを確認した[注 4]。しかしながら、この調査成果については、概要報告という形で触れられただけで[注 5]、詳細を公表する機会を得ないままになっていた。調査後 40 年が過ぎたが、その当時に作成された基礎資料に基づいて、「弥生以後の池上曽根」の様相の一端を紹介する。

図 83　特別企画展チラシ

1　調査区の地理的環境

昭和 30 年代の都市計画図から微高地を復元すると図 84 のように、弥生時代環濠集落は段丘上の最適地を占めていることがわかる。調査区は、池上曽根遺跡史跡指定地より北西約 250 m離れた森地区の南端で、標高約 6 mの地点に立地しており、史跡指定地とは 5 m近い比高差が認められる。ところで、調査区が位置する森地区は、南に向けて等高線が入り込むことから、開析谷の先端に発達した扇状地に立地していることがわかる。この開析谷は、弥生時代中期に埋積していたとされるが[注 6]、古墳時代には豊中遺跡[注 7]で蛇行しながら西流し、地形に沿って北へ流れを変えて、七ノ坪遺跡[注 8]ではその延長と推定される数条の自然流路を検出している。このようにみていくと、豊中遺跡と七ノ坪遺跡は、当調査区から開析谷を経た上流に位置することになり、一連の関連性が考えられるところである。

2　調査成果の概要

調査区は西から第 1 地区～第 3 地区とし、調査面積の広い第 1 地区については、南半部を第 1 地区、北半部を第 4 地区としている。

基本層序は、南端で約 20cm の現耕土を除いた T.P. ＋ 6.4m で地山面の黄茶褐色土が現れ遺構検出面となる。所々にある窪み（遺構？）には暗茶褐色土が入り込んでいるが、北へ移行するにつれて層厚は約 10cm に増していくが、北端から約 10m の地点で現耕作面が約 30cm の段差がつくことで途切れてなくなる。調査区北端では現耕作土・床土約 30 cm 除去すると、礫混じり暗茶褐色土が現れ T.P. ＋ 6.0m が遺構検出面である。南端で地山面とした黄茶褐色土は北端から 10m 付近までみられるが、北端に向かって礫混じり暗茶褐色土・灰青褐色砂質粘土・灰褐色土といった砂質粘土から礫混じり土が続く。

出土遺物の様相をみると、弥生時代後期から中世に至る遺物が出土している。弥生時代の遺物は後期の遺物が少し出土する程度で該当する遺構は検出されていない。古墳時代は中期以降の遺構・遺物が増える。代表的な遺構として土器溜り遺構・住居跡形（方形）落込み・井戸がある。

土器溜り遺構　長径 4.3m、短径 2.3m、深さ 0.27m を測る楕円形をした遺構であるが、廃棄土壙的な性格のものとみられ、最上層の北端で出土した器台は廃棄状況を如実に示している。また、遺構の南端に

土師器が集中し、中央から北端にかけて須恵器が集中する傾向がある。しかし、基本層序で述べたように、後世の削平を受けて古墳時代以降の遺構面は消滅していることも考えられるので、多少削られていることも考慮しなければならないのかもしれない。ちなみに、須恵器と土師器の構成比は須恵器61.8%：土師器38.2%であった。

住居跡形（方形）落込み　東西3.0m以上、南北3.8m、深さ0.29mを測る。第3地区南端では地山面まで削平を受けていることから、検出時には輪郭がつかめなかったため、住居跡として確定できなかったとみられ、下層の遺物出土状況図が作成されている。遺物は土器溜り遺構と時期差はなく、須恵器杯身（75）の底部のヘラ記号と同様のものが、土器溜り遺構から出土しているので同時性を示すものといえる。

ＳＥ２　直径約2.0m、深さ0.7mを測り、一辺0.4mの井戸枠を据えている。埋土は茶褐色・灰褐色土等で自然堆積したものでなく、人為的に埋め戻されたものである。出土状況図をみると、井戸枠の下にもぐり込んでいるようにもみえるので、井戸枠を安定させるために置かれた可能性も考えられる。

ＳＥ５　直径約1.7m、深さ1.2mを測る。井戸の埋土は上層から灰茶褐色系土・黄茶褐色系粘質土・

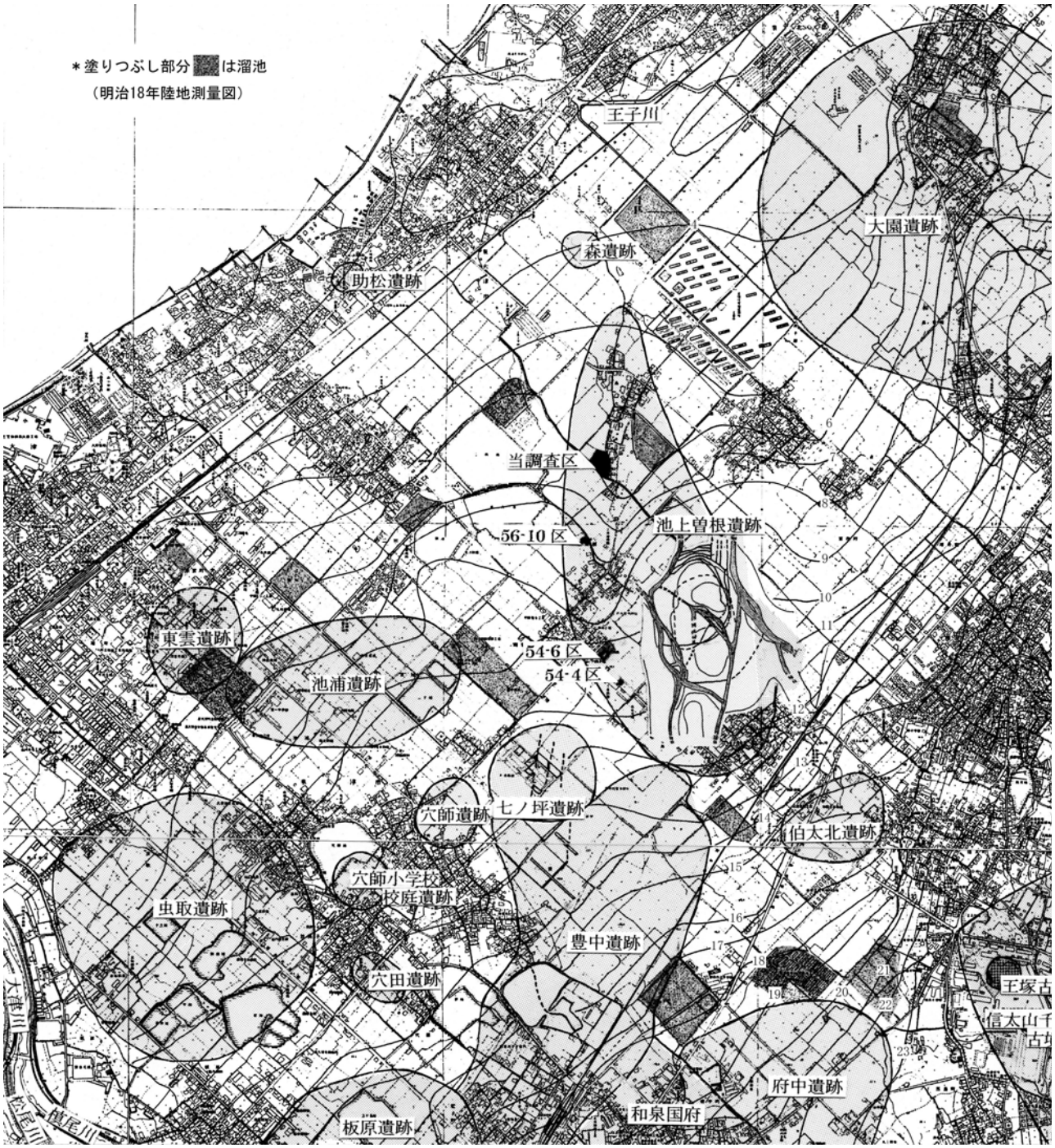


図84　調査区の位置と周辺の遺跡

灰青色粘土であるが、最上層の礫混じり暗茶褐色土は隣接するＳＥ３の検出時から落込みとして認識されていたものである。土層断面図では井戸の南肩と北肩で約 20cm の段差があるので、削平を受けた時期の一端を示すのかも知れない。

各遺構出土の遺物（109 ～ 116）　各遺物はピット出土のもので、削平を免れたものといえる。

第４調査区の遺物（117 ～ 126）　取り上げ時のラベルしかないので詳細を知ることはできないが、その内容をみると包含層が残っていたのではないかと考えられる。参考のために図示した。

ＳＥ３・ＳＥ４　古墳時代の遺物も出土しているが、ＳＥ３では黒色土器・瓦器・灰釉陶器・製塩土器、ＳＥ４では墨書土器・緑釉陶器・製塩土器などを少量含むことから古墳時代以降のものである。

３　おわりに

調査区内で検出した古墳時代中期の住居跡形（方形）落込み・土器溜り遺構・井戸・ピットなどの遺構を概略するにとどめたが、出土土器に関しては、調査時に作成された「計測データ」に焦点をあて紹介した。和泉地域の古墳時代集落出土遺物については、深田遺跡（中村浩 1973）をはじめとして、大園遺跡（広瀬和雄 1981）、東上野芝遺跡（樋口吉文 1982）、万崎池遺跡・大平寺遺跡・西浦橋遺跡（石神怡 1984）、そして寺田遺跡（三好玄 2013）などでは数量的検討―数量的処理は同じ条件下で計測したものでないが―、が試みられている。

ここでは、特別企画展『弥生以後の池上曽根』の展示作業を通じて基礎データを再整理する中で、古墳時代中期集落の具体相にアプローチするための事例に、池上曽根遺跡を加えることができたと思われる。

（三宅正浩・舘 邦典）

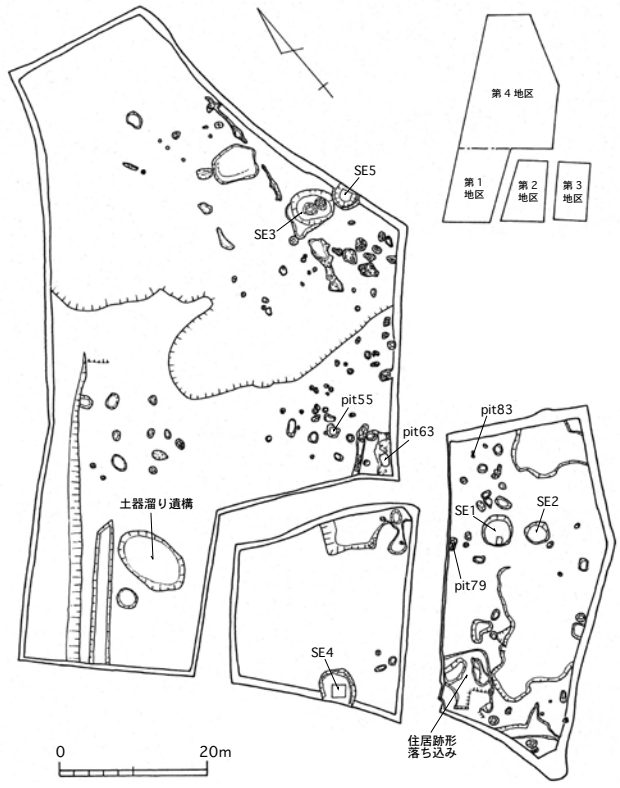


図 85　調査区平面図（S = 1/500）

図 86　第３地区全景

図 87　土器溜り遺構遺物出土状況

図 88　住居跡形（方形）落込み遺物出土状況

図 89　SE5 遺物出土状況

注

（1）特別企画展リーフレット『弥生以後の池上曽根－大阪府教育委員会所蔵資料を中心に－』泉大津市教育委員会・大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館　2011 年

（2）古墳時代集落の立地については、30 年余り以前の段階ですでに以下のように把握されていた。「森町地区は、曽根町地区と共にいままでの調査では、弥生時代後期から古墳時代にかけての遺構・遺物が主に検出されており、この時期の集落が集中する一帯である。現在では池上遺跡の中に入れて扱っているが、学史的には、森遺跡、曽根遺跡として呼ばれていた場所である。古墳時代の集落の広がりは、現在の村落が立地している自然堤防上の部分と重複するようである。」（渡辺昌宏 1980）

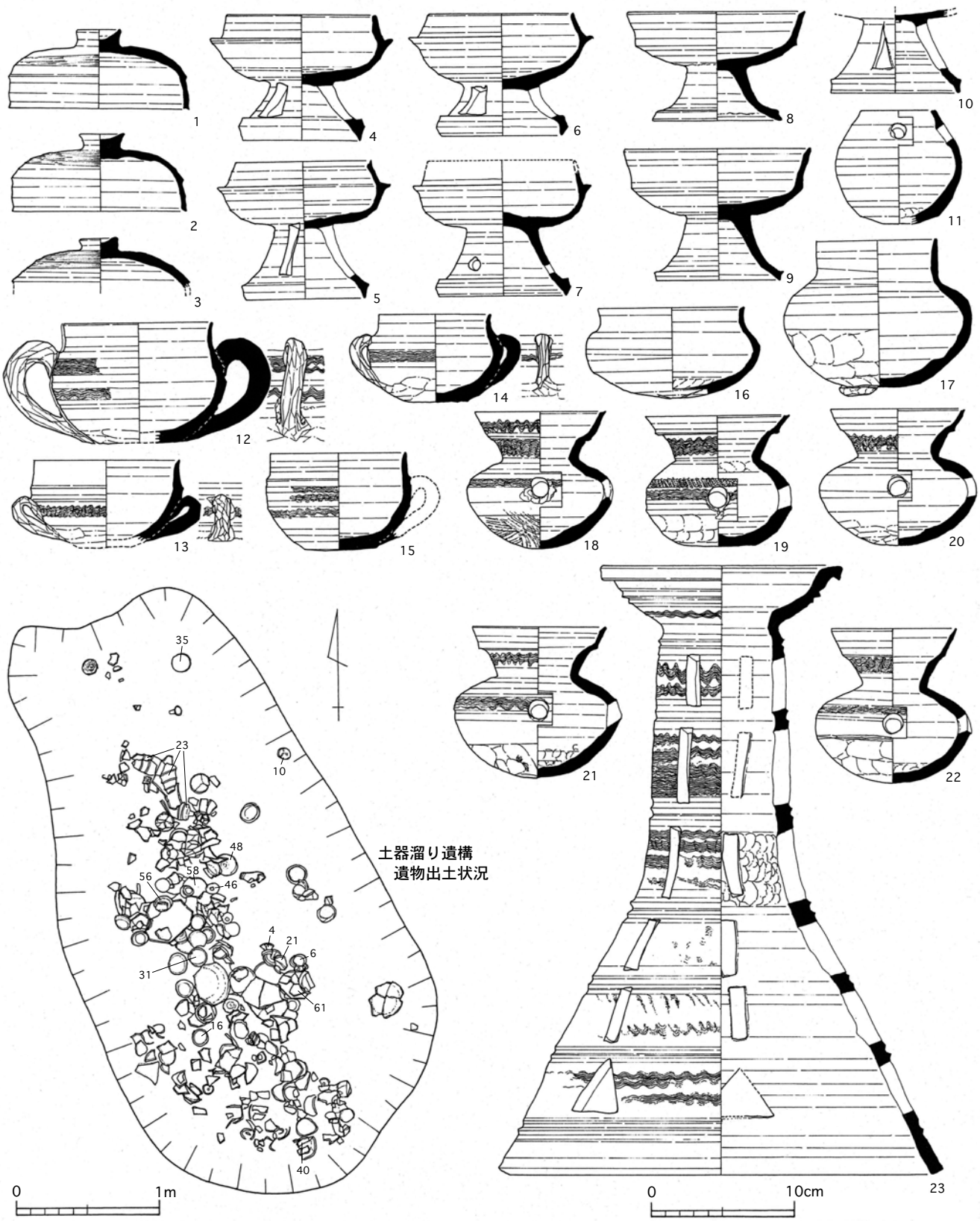


図 90　土器溜り遺構遺物出土状況及び出土土器（1）

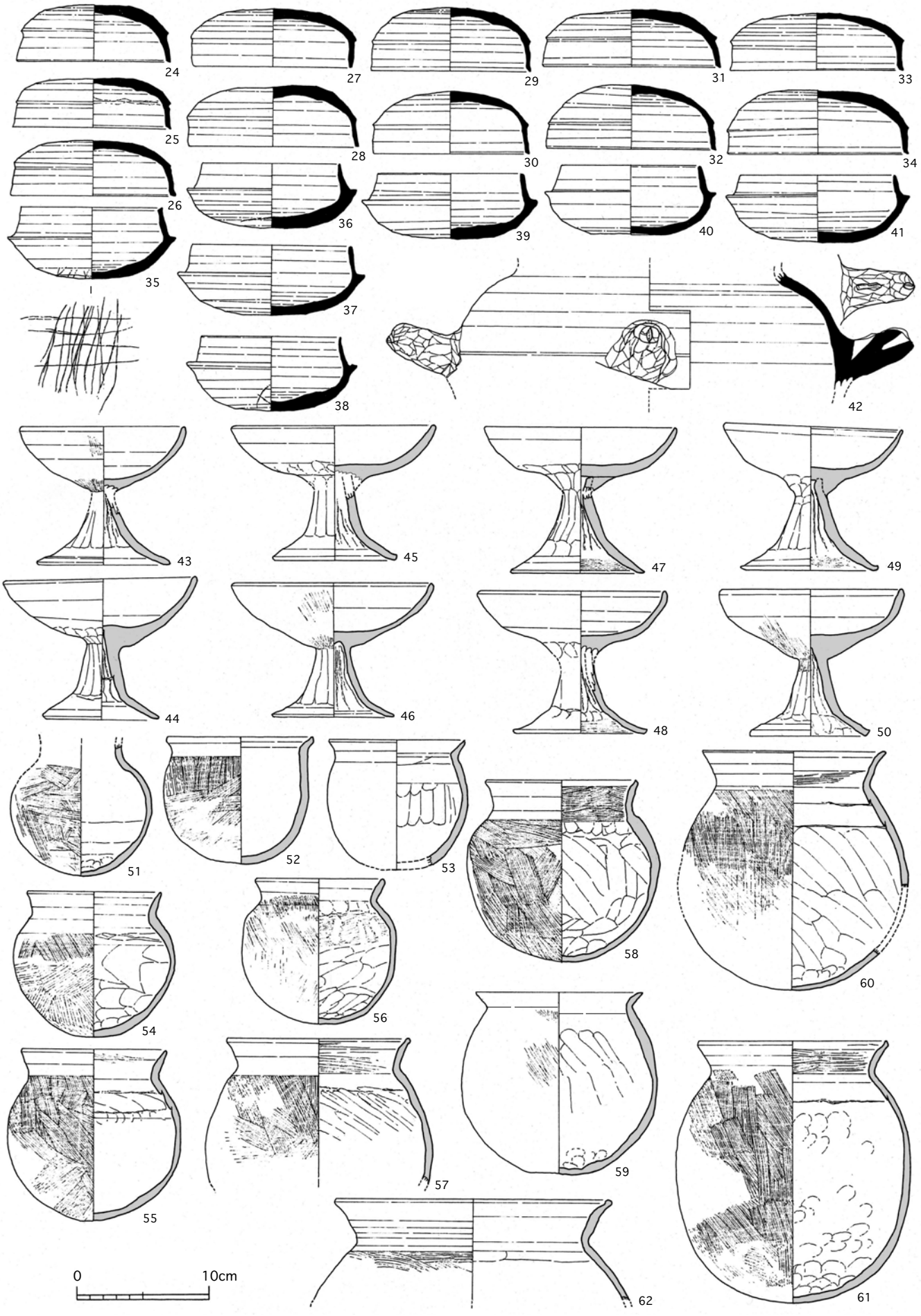


図 91　土器溜り遺構出土土器（2）

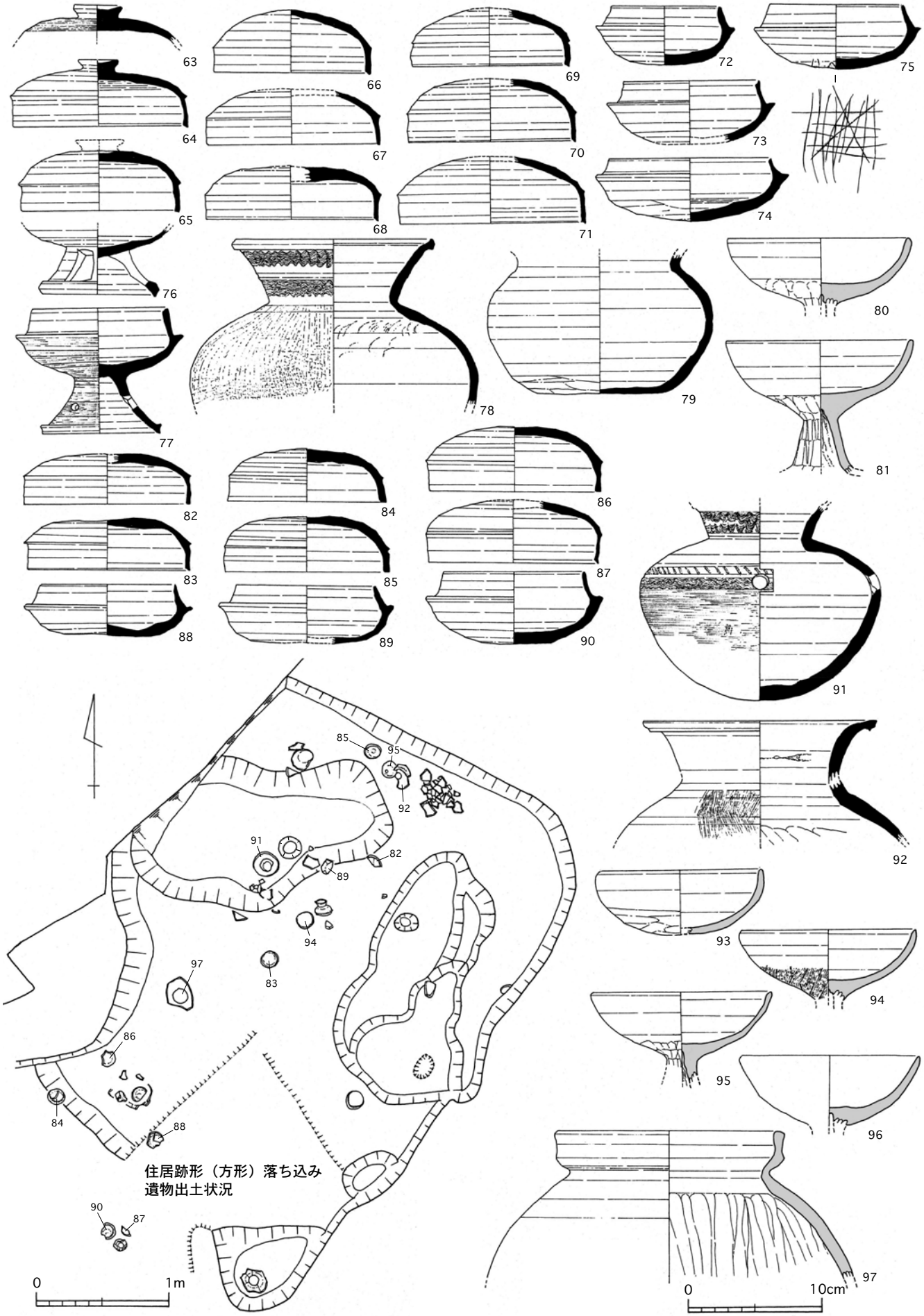


図 92　住居跡形（方形）落込み出土遺物　上面出土土器（61 ～ 81）：下層出土土器（82 ～ 97）

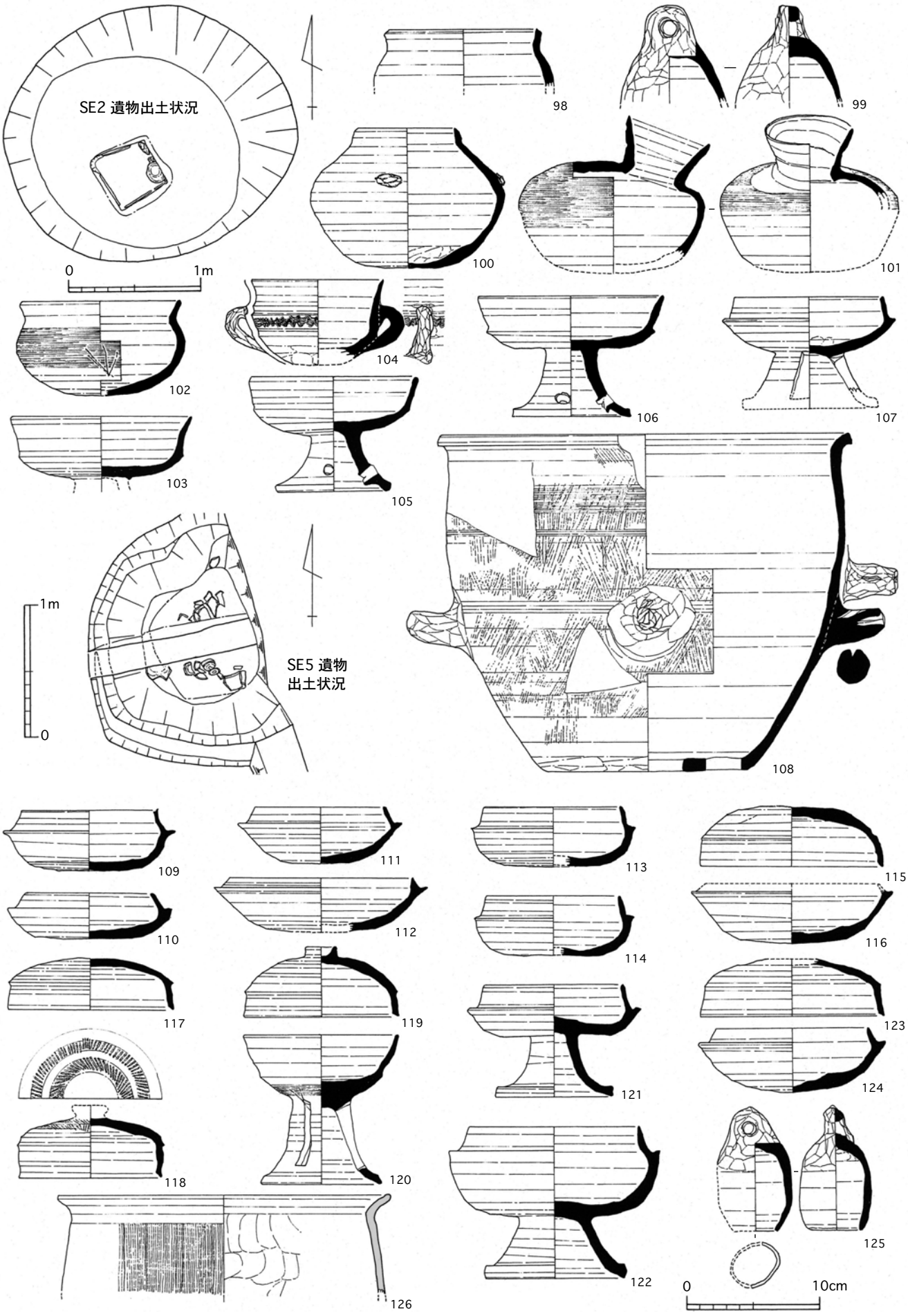


図 93　SE2・5 遺物出土状況及び各遺構出土土器

(3) 出土遺物はコンテナ（縦 60cm・横 40cm・深さ 15cm）にして 71 箱を数える。大半が古墳時代遺物である。

(4) 各遺構出土の須恵器と土師器の個体数と構成比率、須恵器・土師器についての各器種構成と土器全体量の器種構成を示す表・円グラフなどの「計測データ」にあわせて土器観察表が記されている。

(5) 池上・曽根遺跡 1978 年度の自然堤防上に立地した調査区（52-2 地区・52-3 地区・52-4 地区）の調査成果のなかで、本調査区も含めて次のようにまとめられている。「・・・遺構は主として古墳時代前期から後期までの各時期にわたってみられること、しかしその規模は余り大きなものでなく、小規模単位で居住したとしか考えられない規模であること、かなり分散的に遺構が分布すること等々が明らかになっている。」（石神 1978）

(6)『池上・曽根遺跡発掘調査概要・XII－和泉市池上町・泉大津市曽根町・森町所在－』大阪府教育委員会 1980

(7)『豊中・古池遺跡発掘調査概報　そのIII』豊中古池遺跡調査会 1976

(8)『七ノ坪遺跡発掘調査概要－泉大津市豊中所在－』大阪府教育委員会 1974

表 6　遺物観察表

＊口径・器高の単位は cm

No.	遺　構	器　種	口径	器高	胎　土	色　調	焼成	残存率	備　考
1	土器溜り	須恵器高坏蓋	12.6	5.6	1mm 前後の長石粒を含む	外面 暗灰色～灰黒色 内面 灰青色	良	70%	
2	土器溜り	須恵器高坏蓋	12.1	5.4	精良	外面 灰青色 内面 灰青色	良	80%	
3	土器溜り	須恵器高坏蓋	12.0	4.8	1 ～ 2mm 長石・石英 3 ～ 4mm チャートを少量含む	外面 灰青色～灰褐色 内面 暗灰青色	良	80%	
4	土器溜り	須恵器有蓋高坏	10.6	8.8	1mm 以下の砂粒を多く含む 砂ぽい	外面 灰青色～暗灰色 内面 灰青色～暗灰色	やや軟	60%	
5	土器溜り	須恵器有蓋高坏	9.6	9.7	1mm 前後の砂粒を少量含む	外面 灰青色～淡灰オリーブ色 内面 淡灰青色	良	80%	
6	土器溜り	須恵器有蓋高坏	10.3	8.6	1 ～ 4mm の長石・石英粒を含む	外面 灰青色～灰黒色 内面 暗灰青色	良	75%	
7	土器溜り	須恵器有蓋高坏	(10.4)	(8.8)	良	外面 灰黒色～灰青色 内面 灰青色	良	60%	
8	土器溜り	須恵器高坏	12.4	7.7	微砂粒を含む	外面 灰青色 内面 灰色	良	80%	
9	土器溜り	須恵器高坏	13.1	9.2	精良	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良	80%	
10	土器溜り	須恵器高坏（脚部）	9.0	(5.4)	長石粒を少量含む	外面 青灰色 内面 青灰色	良好	50%	
11	土器溜り	須恵器蛸壷	5.2	8.0	微砂粒を少量含む 精良	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良好	45%	
12	土器溜り	須恵器把手付椀	10.5	(8.5)	1mm 前後の長石粒を微量含む 精良	外面 暗灰色 内面 黒灰色	良	30%	
13	土器溜り	須恵器把手付椀	10.3	6.0	精良	外面 暗灰茶褐色～暗灰色 内面 灰黒色	良好	40%	
14	土器溜り	須恵器把手付椀	7.9	6.2	1mm 前後の砂粒を微量含む	外面 灰黒色 内面 灰色	良好	70%	
15	土器溜り	須恵器取手付椀	9.6	6.9	1mm 前後の長石粒を微量含む 精良	外面 暗灰色 内面 黒灰色	良	30%	
16	土器溜り	須恵器短頸壷	6.5	10.2	1 ～ 2mm の長石・石英・チャート粒を含む 全体に砂ぽい	外面 灰青色 内面 暗灰青色	良	75%	底部に篦記号あり
17	土器溜り	須恵器短頸壷	10.4	8.5	精良	外面 灰黒色～灰赤紫色 内面 暗青灰色～灰黒色	良	90%	
18	土器溜り	須恵器𤭯	9.2	9.8	1mm 前後の長石を少量含む	外面 灰青色 内面 灰青色	良好	95%	
19	土器溜り	須恵器𤭯	5.2	9.3	2mm 前後の長石・石英粒を含む	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良好	80%	
20	土器溜り	須恵器𤭯	9.4	9.8	1mm 前後の長石・石英粒を少量含む	外面 暗灰色～暗灰青色 内面 暗灰青色	良好	100%	
21	土器溜り	須恵器𤭯	9.4	10.7	1 ～ 3mm の長石・石英粒を含む	外面 灰黒色 内面 暗灰黒色	良	100%	
22	土器溜り	須恵器𤭯	9.0	11.0	1 ～ 3mm の長石・石英粒を含む	外面 灰黒色 内面 灰黒色	良好	100%	
23	土器溜り	須恵器器台	17.0	43.4	3mm 前後の長石・石英を含む	外面 灰黒色～灰色 内面 暗灰青色	良	80%	
24	土器溜り	須恵器坏蓋	11.7	4.4	良	外面 暗灰青色 内面 灰青色	良	80%	
25	土器溜り	須恵器坏身	10.5	5.2	1 ～ 3mm の長石・石英を多く含む	外面 暗灰青色 外面 暗灰青色	良	100%	
26	土器溜り	須恵器坏蓋	12.5	4.2	1 ～ 3mm の長石・石英・チャート粒を含む	外面 淡灰褐色 内面 淡灰褐色	やや軟	90%	
27	土器溜り	須恵器坏蓋	12.0	4.4	1mm 前後の長石・石英粒を含む	外面 暗灰色 内面 暗灰茶褐色	良	40%	
28	土器溜り	須恵器坏蓋	13.0	4.7	2 ～ 3mm のチャート・赤色粒 1mm 前後の 長石・石英を含む	外面 淡灰黄色～淡灰色 内面 淡灰茶褐色	やや軟	100%	
29	土器溜り	須恵器坏蓋	12.0	4.8	1 ～ 2mm 長石・石英 3 ～ 4mm チャ ートを少量含む	外面 灰青色～灰褐色 内面 暗灰青色	良	80%	
30	土器溜り	須恵器坏蓋	12.0	4.7	1 ～ 2mm の長石・石英粒を含む	外面 暗灰青色 内面 灰青色	良	50%	
31	土器溜り	須恵器坏蓋	13.4	4.2	1mm 前後の砂粒を含む	外面 暗灰色 内面 淡灰青色 +AO42	良好	100%	
32	土器溜り	須恵器坏蓋	12.6	4.9	1 ～ 2mm の長石・石英を含む 5mm の岩砕 を少量含む	外面 灰黒色 内面 暗灰青色	良好	100%	
33	土器溜り	須恵器坏蓋	13.2	4.4	1 ～ 2mm の長石・石英粒含む	外面 暗灰青色 内面 灰青色	良	40%	
34	土器溜り	須恵器坏蓋	13.6	4.8	赤色クサレ礫を含むが精良	外面 暗灰色淡灰褐色 内面 灰茶褐色	やや軟	100%	

35	土器溜り	須恵器坏身	10.8	5.5	1 ～ 2mm の長石粒を含む長石・石英・チャート粒を少量含む	外面 灰黒色 内面 暗赤紫色	良	80%	箆記号あり
36	土器溜り	須恵器坏身	10.5	4.9	1 ～ 4mm の長石・石英粒を含む	外面 灰黒色～暗茶褐色～暗灰色 内面 灰黒色	良	90%	箆記号あり
37	土器溜り	須恵器坏身	12.0	5.3	1 ～ 4mm の長石・石英・チャート粒を少量含む	外面 淡灰黒色～淡灰褐色 内面 淡灰灰褐色	軟	100%	二次焼成
38	土器溜り	須恵器坏身	10.6	5.6	1 ～ 3mm の長石・石英・チャート粒を含む	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良	100%	箆記号あり
39	土器溜り	須恵器坏身	11.0	5.0	1mm 前後の砂粒・黒色粒を含む	外面 淡灰色～淡灰褐色 内面 淡灰色	良	100%	
40	土器溜り	須恵器坏身	10.5	5.3	比較的精良 3mm の石英 4 ～ 5mm のシルト塊を含む	外面 淡灰褐色 内面 淡灰褐色	やや軟	50%	
41	土器溜り	須恵器坏身	11.6	5.1	1mm 前後の砂粒黒色粒を少量含む	外面 淡灰青色 内面 暗灰青色	良	95%	
42	土器溜り	須恵器鍋	–	8.3	1 ～ 2mm の長石・石英粒を含む 比較的精良	外面 暗灰色 内面 暗灰色	良好	15%	
43	土器溜り	土師器高坏	12.3	10.5	精良 1mm 以下の石英を含む	外面 暗茶褐色 内面 暗茶褐色	良	50%	
44	土器溜り	土師器高坏	14.7	11.0	1mm 前後長石・石英・チャート粒を含む	外面 黄茶褐色 内面 黄茶褐色	やや軟	95%	
45	土器溜り	土師器高坏	15.4	10.3	1mm 以下の長石・石英・チャート粒を含む	外面 暗灰茶褐色 内面 暗灰茶褐色	やや軟	70%	
46	土器溜り	土師器高坏	15.3	10.3	1mm 以下の長石・石英粒を含む	外面 暗茶褐色 内面 暗茶褐色	良	80%	
47	土器溜り	土師器高坏	14.4	11.1	1mm 以下の長石・石英・雲母の微粒を含む	外面 灰色　黄茶褐色 内面 ？	やや軟	90%	
48	土器溜り	土師器高坏	14.0	11.0	1mm 以下の長石・石英粒を微量含む	外面 黄茶褐色 内面 明黄茶褐色	やや軟	90%	
49	土器溜り	土師器高坏	13.4	11.2	1mm 以下の長石・石英・チャート粒を微量含む	外面 灰黄茶褐色 内面 淡赤褐色	やや軟	90%	
50	土器溜り	土師器高坏	13.7	11.4	1mm 前後の長石・石英粒を含む	外面 灰茶褐色 内面 灰茶褐色	良	80%	
51	土器溜り	土師器壷？	6.2	10.4	1mm 前後の長石を含む	外面 灰茶褐色 内面 灰茶褐色	良	体部 70%	
52	土器溜り	土師器甕	11.1	9.7	精良	外面 灰茶褐色 内面 淡茶褐色	やや軟	98%	
53	土器溜り	土師器甕	10.3	(9.7)	微砂粒を含む 精良	外面 淡灰茶褐色 内面 淡灰茶褐色	軟	40%	
54	土器溜り	土師器甕	10.2	11.0	精良	外面 灰茶褐色 内面 茶褐色	良	85%	
55	土器溜り	土師器甕	11.0	13.1	精良	外面 灰茶褐色 内面 茶褐色	良	70%	
56	土器溜り	土師器甕	9.7	11.1	1mm 前後の長石・チャート粒を含む	外面 灰黒褐色土 内面 暗茶褐色	良	95%	
57	土器溜り	土師器甕	13.8	(10.9)	精良	外面 灰茶褐色 内面 灰茶褐色	やや軟	40%	
58	土器溜り	土師器甕	11.3	14.0	1mm 以下の長石粒を少量含む 精良	外面 淡灰茶褐色 内面 灰茶褐色	やや軟	98%	
59	土器溜り	土師器甕	12.6	13.9	1 ～ 3mm の長石・石英・チャート粒を含む	外面 淡緒褐色 内面 淡灰茶褐色	軟	40%	
60	土器溜り	土師器甕	13.7	18.4	1mm 前後の長石・赤色粒を含む	外面 明茶褐色 内面 明茶褐色	良	60%	
61	土器溜り	土師器甕	14.2	19.9	1 ～ 2mm の長石粒を含む	外面 灰茶褐色 内面 灰茶褐色	やや軟	70%	
62	土器溜り	土師器甕	20.3	(4.9)	1mm 前後の長石を少量含む	外面 灰茶褐色 内面 茶褐色	良	口縁部 25%	
63	住居跡形（方形）落込み	須恵器高坏蓋	–	2.5	砂ぽいが良	外面 淡灰色 内面 淡灰褐色	やや軟	50%	
64	住居跡形（方形）落込み	須恵器高坏蓋	13.4	5.1	1 ～ 3mm の長石・石英粒を含む	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良	85%	
65	住居跡形（方形）落込み	須恵器高坏蓋	11.8	(4.6)	微量の砂粒を含む	外面 淡灰色 内面 灰青色	良	40%	
66	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	11.9	4.9	1 ～ 3mm の長石・石英・黒色粒を含む	外面 灰青色 内面 明灰青色	良	55%	
67	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	13.2	4.1	1 ～ 2mm の砂粒を少量含む	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良	30%	
68	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	13.1	4.1	微砂粒・黒色粒を含む	外面 灰黒色～灰色 内面 灰色	良好	30%	
69	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	11.8	(4.5)	1 ～ 2mm の長石・石英を少量含む	外面 灰青色～暗灰青色 内面 暗灰青色	良	40%	
70	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	12.6	(4.8)	1mm 前後の砂粒を含む	外面 暗灰色～淡灰紫色 内面 淡灰黒色～暗茶褐色	良	30%	
71	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	14.1	(5.1)	微砂を少量含む	外面 淡灰青色 内面 灰青色	良好	30%	
72	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏身	8.1	4.4	1 ～ 2mm 長石・石英・黒色粒を含む	外面 暗灰色～灰黒色 内面 暗灰青色	良	40%	
73	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏身	11.0	(4.8)	良	外面 暗灰色 内面 暗灰青色	良	40%	
74	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏身	6.8	4.7	1 ～ 2mm の長石粒・赤色粒を含む	外面 暗灰青色 内面 淡赤褐色	良	85%	
75	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏身	10.0	4.8	1 ～ 2mm の長石・石英 4mm の長石粒を含む	外面 灰茶褐色～暗灰黒褐色 内面 暗茶褐色	良	90%	箆記号あり
76	住居跡形（方形）落込み	須恵器高坏（脚部）	8.4	(5.0)	1 ～ 2mm の長石・石英粒を少量含む	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良好	50%	
77	住居跡形（方形）落込み	須恵器有蓋高坏	10.2	9.5	1mm 前後の砂粒を含む	外面 暗灰青色 内面 灰青色	良	60%	
78	住居跡形（方形）落込み	須恵器壷	14.8	(12.5)	精良 黒色粒を含む	外面 灰黒色 内面 暗灰青色	良	30%	
79	住居跡形（方形）落込み	須恵器壷	–	10.6	精良	外面 淡灰茶褐色 内面 淡灰茶褐色	良	50%	韓式系土器か？ 生焼け
80	住居跡形（方形）落込み	土師器高坏	13.5	(5.2)	1mm 前後の砂粒を少量含む	外面 灰茶褐色 内面 灰茶褐色	やや軟	坏部 40%	

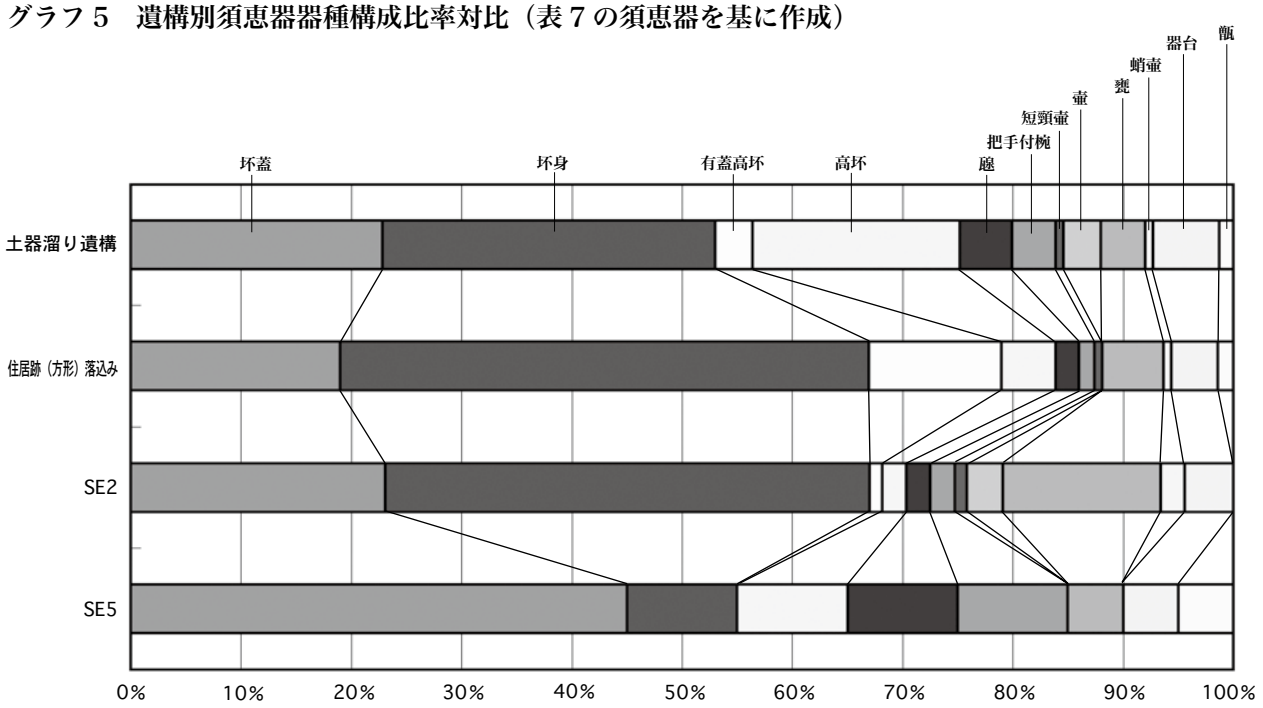
81	住居跡形（方形）落込み	土師器高坏	14.0	10.3	1mm 以下の砂粒を少量含む	外面 黄茶褐色 内面 茶褐色	良	50%	
82	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	12.6	3.9	1mm 前後の長石・石英を少量含む	外面 灰色 内面 暗灰色	良	40%	
83	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	12.3	3.9	精良	外面 暗灰色 内面 灰青色	良	90%	
84	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏身	10.3	3.9	1mm 前後の長石・石英を少量含む	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良	99%	
85	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	12.0	4.1	長石・石英・黒色粒を少量含む	外面 暗灰青色～黄灰色 内面 灰青色	良	100%	
86	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	12.5	4.4	1 ～ 2mm 長石・石英・チャート粒を少量含む	外面 淡灰青色 内面 灰青色	良	90%	
87	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏身	10.7	(4.5)	精良	外面 灰青色 内面 灰青色	良	40%	
88	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	12.9	5.0	精良	外面 淡灰色～灰白色 内面淡灰色～灰白色	やや軟	85%	
89	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏蓋	12.8	(4.8)	砂粒を少量含む	外面 暗灰青色 内面 灰色	良	40%	
90	住居跡形（方形）落込み	須恵器坏身	10.6	5.4	1mm 前後の長石・石英・チャート粒を少量含む	外面 灰黄褐色～淡灰色 内面 灰褐色	やや軟	90%	
91	住居跡形（方形）落込み	須恵器甕	–	(14.6)	1 ～ 2mm の長石・石英を微量含む	外面 暗灰色 内面 灰青色	良	85%	
92	住居跡形（方形）落込み	土師器（陶質）壷	17.4	9.0	1 ～ 5mm 長石・石英・チャート粒を少量含む 比較的精良	外面 明灰茶褐色 内面 明灰茶褐色	やや軟	20%	韓式系土器か？
93	住居跡形（方形）落込み	土師器坏	12.2	5.0	精良 チャートを微量含む	外面 淡灰茶褐色 内面 淡灰褐色	やや軟	98%	
94	住居跡形（方形）落込み	土師器高坏	13.0	5.3	精良	外面 灰茶褐色 内面 灰茶褐色	良	坏部 100%	
95	住居跡形（方形）落込み	土師器高坏	13.4	(6.8)	精良 長石の微粒を含む	外面 灰茶褐色 内面 暗茶褐色	良好	坏部 95%	
96	住居跡形（方形）落込み	土師器高坏	13.5	(5.3)	1mm 前後の長石・石英・チャート粒を含む	外面 淡灰褐色 内面 暗茶褐色	やや軟	坏部 80%	
97	住居跡形（方形）落込み	土師器甕	17.4	11.0	微量の長石微粒を含む 精良	外面 明黄茶褐色 内面 明黄茶褐色	良	20%	
98	SE2	須恵器壷	11.0	(3.3)	精良 4mm の石英を含む	外面 暗灰色～淡灰黄色 内面 淡灰白色	やや軟	10%	
99	SE2	須恵器蛸壷	–	(7.6)	1mm 前後の長石・石英・チャート粒を少量含む	外面 淡灰黄褐色 内面 淡灰褐色	良	40%	
100	SE2	須恵器短頸壷	7.4	10.7	微砂粒を含む 砂ぽい	外面 灰色～淡灰色 内面 灰色	良	60%	
101	SE2	須恵器平瓶	6.5	(11.3)	1 ～ 2mm の長石・石英・チャート粒を少量含む	外面 明灰褐色～淡灰褐色 内面 淡灰褐色	やや軟	50%	
102	SE5	須恵器短頸壷	12.2	7.2	1 ～ 3mm の石英・チャート粒を少量含む	外面 淡灰褐色 内面 淡灰褐色～灰色	やや軟	50%	篦記号あり
103	SE5	須恵器無蓋高坏（坏部）	13.8	(4.9)	1 ～ 3mm の長石・石英粒を含む	外面 灰青色 内面 暗灰青色	良	75%	
104	SE5	須恵器取手付椀	10.0	(6.1)	精良	外面 暗灰青色 内面 淡灰黒色	良	40%	
105	SE5	須恵器無蓋高坏	13.0	8.9	精良	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良好	100%	
106	SE5	須恵器無蓋高坏	14.0	9.2	砂粒を微量含む	外面 暗灰色～淡灰色 内面 暗灰色～淡灰色	良好	60%	
107	SE5	須恵器有蓋高坏	(11.2)	7.3	1mm 前後の長石・黒色粒を含む	外面 暗灰色～灰色 内面 淡灰青色	良	60%	
108	SE5	須恵器甑	31.2	25.7	精良	外面 暗灰茶褐色 内面 暗灰茶褐色	良	70%	
109	Pit-55	須恵器坏身	10.4	4.7	2mm 前後の石英・黒色粒 7mm の岩砕を含む	外面 淡灰青色 内面 灰青色～暗配色	良	80%	
110	Pit-63	須恵器坏身	9.4	3.6	1mm 前後の長石・石英粒を少量含む	外面 暗灰色 内面 暗灰色	良	45%	
111	Pit-79	須恵器坏身	9.8	4.4	精良	外面 淡灰青色 内面 灰色	良	30%	
112	Pit-79	須恵器坏身	13.8	(4.2)	1 ～ 3mm の石英・チャート粒を微量含む	外面 淡灰色 内面 淡灰褐色	やや軟	40%	
113	Pit-83	須恵器坏身	10.3	4.7	12mm の長石・石英粒を少量含む	外面 灰色～暗灰色 内面 暗灰色	良	40%	
114	Pit-83	須恵器坏身	10.0	4.6	1mm 前後のチャート粒を含む	外面 暗灰色～灰青色 内面 灰色	良	40%	
115	Pit-93	須恵器坏蓋	13.8	4.6	微砂粒・黒色粒を多く含む	外面 灰白色～灰青色 内面 淡灰黄色～灰茶褐色	やや軟	100%	
116	Pit-93	須恵器坏身	–	(4.2)	1 ～ 2mm 長石・石英・チャートを微量含む	外面 灰白色 内面 淡灰褐色	軟	90%	
117	第 4 地区北部（包含層）	須恵器坏蓋	12.6	3.9	精良	外面 灰色～淡灰茶色 内面 淡灰青色	やや良	70%	
118	第 4 地区北部（包含層）	須恵器高坯蓋	10.8	(4.5)	精良	外面 暗灰青色 内面 暗灰青色	良	40%	
119	第 4 地区東部（包含層）	須恵器高坯蓋	11.8	5.3	1mm 前後の砂粒を少量含む	外面 灰青色 内面 灰青色	良好	80%	
120	第 4 地区西南部（包含層）	須恵器高坏	11.8	11.4	良	外面 暗灰色～灰青色 内面 暗灰色～灰青色	良	40%	
121	第 4 地区中央部（包含層）	須恵器有蓋高坏	10.4	8.5	1mm 前後の長石・石英粒を含む	外面 暗灰色～暗灰青色 内面 灰青色	良	60%	
122	第 4 地区（包含層）	須恵器有蓋高坏	12.8	11.5	1mm 前後の長石・石英粒を含む	外面 灰青色 内面 灰青色	良	60%	
123	第 4 区地中央（包含層）	須恵器坏蓋	13.8	(4.4)	1mm 前後の長石・石英を含む	外面 淡灰青色～淡灰黄色 内面 淡灰褐色	不良 生焼け	40%	
124	第 4 地区中部（包含層）	須恵器坏身	11.6	5.1	1 ～ 5mm の長石・石英・チャート 粒を含む	外面 淡灰青色 内面 淡灰青色	良	40%	
125	第 4 地区南部（包含層）	須恵器蛸壷	(3.1)	9.5	精良	外面 灰青色 内面 灰青色	良	70%	
126	第 4 地区北部（包含層）	土師器甕	25.2	(7.7)	1 ～ 3mm の長石・石英粒を含む	外面 暗褐色 内面 淡黄茶褐色	良	口縁部 40%	

表７　遺構における器種構成

＊Ｓは須恵器、Ｈは土師器を表す

器種		土器溜り			住居跡形（方形）落込み			SE2			SE5		
		個体数	Ｓに占める％	HSに占める％	個体数	Ｓに占める％	HSに占める％	個体数	Ｓに占める％	HSに占める％	個体数	Ｓに占める％	HSに占める％
須恵器	坏蓋	34	22.8	14.1	27	19.0	17.8	21	23.1	18.4	9	45.0	28.1
	坏身	45	30.2	18.7	68	47.9	44.7	40	44.0	35.1	2	10.0	6.3
	有蓋高坏	5	3.4	2.1	17	12.0	11.2	1	1.1	0.9	0	0.0	0.0
	高坏	28	18.8	11.6	7	4.9	4.6	2	2.2	1.8	2	10.0	6.3
	𤭯	7	4.7	2.9	3	2.1	2.0	2	2.2	1.8	2	10.0	6.3
	把手付椀	6	4.0	2.5	2	1.4	1.3	2	2.2	1.8	2	10.0	6.3
	短頸壷	1	0.7	0.4	1	0.7	0.7	1	1.1	0.9	0	0.0	0.0
	壷	5	3.4	2.1	0	0.0	0.0	3	3.3	2.6	0	0.0	0.0
	甕	6	4.0	2.5	8	5.6	5.3	13	14.3	11.4	1	5.0	3.1
	蛸壷	1	0.7	0.4	1	0.7	0.7	2	2.2	1.8	0	0.0	0.0
	器台	9	6.0	3.7	6	4.2	4.0	4	4.4	3.5	1	5.0	3.1
	甑	2	1.3	0.8	2	1.4	1.3	0	0.0	0.0	1	5.0	3.1
	計	149	100.0	61.8	142	99.9	93.6	91	100.1	80.0	20	100.0	62.6
土師器	壷	3	3.3	1.2	0	0.0	0.0	1	4.4	0.9	0	0.0	0.0
	甕	58	62.9	24.2	6	60.0	4.0	17	73.9	14.9	8	66.7	25.0
	鉢	1	1.1	0.4	1	10.0	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
	高坏	26	28.3	10.8	3	30.0	2.0	3	13.0	2.6	2	16.7	6.3
	坏	2	2.2	0.8	0	0.0	0.0	1	4.4	0.9	1	8.3	3.1
	甑	2	2.2	0.8	0	0.0	0.0	1	4.4	0.9	1	8.3	3.1
	計	92	100.0	100.0	10	100.0	100.3	23	100.1	100.2	12	100.0	100.1

グラフ５　遺構別須恵器器種構成比率対比（表７の須恵器を基に作成）



参考文献

石神　怡　1978「52-2 地区、52-3 地区、52-4 地区 序」『池上・曽根遺跡発掘調査概要－和泉市池上町・泉大津市曽根町所在－』大阪府教育委員会 1978.3

石神　怡　1984「Ⅱ 考古学的、地理的環境と調査の課題第２章石津川流域の遺跡群とその立地条件」府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ 西浦橋遺跡 菱木下遺跡 万崎池遺跡 大平寺遺跡　大阪文化財センター

中村　浩　1973「第４章　出土遺物の考察」『陶邑・深田』大阪府文化財調査抄報第２輯　大阪府教育委員会

樋口吉文　1982「第４章出土遺物」「第６章遺物の考察」『東上野芝遺跡発掘調査報告』堺市文化財調査報告第 10 集 堺市教育委員会

広瀬和雄　1981「付 2. 6 世紀後半における集落出土土器の二、三の分析」『大園遺跡発掘調査概要・Ⅵ－第２阪和国道建設に伴う発掘調査－ 1981』大阪府教育委員会

古田　昇　1990「第１章　槇尾川（大津川）右岸の地形環境」『史跡池上曽根遺跡発掘調査概要－松ノ浜曽根線建設に伴う発掘調査－』大阪府教育委員会

三好　玄　2013『寺田遺跡　Ⅲ－府営和泉寺田住宅第３期建て替えに伴う発掘調査－』大阪府埋蔵文化財調査報告 2012-2　大阪府教育委員会

渡辺昌宏　1980「第４章　本年度調査の成果」『池上・曽根遺跡発掘調査概要・Ⅻ－和泉市池上町・泉大津市曽根町・森町所在－』大阪府教育委員会 1980.3

【府立大阪博物場旧蔵資料】

大阪の至宝 ― 世界のコインとメダル ―

はじめに

文化財保護課では、平成 23 年度から府立大阪博物場旧蔵資料の再整理を実施している。その第一弾として平成 24 年度までに貨幣とメダルのコレクション全点の計測、写真撮影、観察を実施し、写真付きの観察表を作成した。

1. 府立大阪博物場の概要と旧蔵資料の遷移

大阪博物場は、1875（明治 8）年に設置された地方博物館の嚆矢というべきもので、現在マイドームおおさかがある大阪市中央区本町橋 2 番地に所在した。この地は江戸時代に西町奉行所が置かれ、初代大阪府庁があった場所である。当初は商品館と名品館が置かれ､産業振興の意味合いが強かったが､1899（明治 32）年までに勧工場、教育博物館、美術館、書籍館、動物園を併設し、能舞台や茶室、日本庭園などを整備拡充して他に例をみないほどの大規模な博物館群となった。府民の教育と憩いの場として大いににぎわったと伝えられている。その後書籍館が現中之島図書館に移転するなど若干の規模の縮小はあったが、にぎわいは変わらなかった。

博物場の運命が大きく変わったのは、1909（明治 42）年の「キタの大火」で堂島にあった大阪商品陳列所が焼失したことによる。同所は貿易振興のための輸出入品見本の展示や分析・試験の実施などを目的として 1890（明治 23）年に開設されたものである。その後発表された商品陳列所の再建案は、用地を博物場の敷地とし、博物場の商品館を新商品陳列所に統合するとともに、博物場を整理縮小するという産業･貿易振興に重点を置いたものであった。1915（大正 4）年の新商品陳列所の着工に先立って、動物園の動物たちと設備が天王寺動物園に移され、博物場は閉館して収蔵品は 4 つの蔵に納められた。この年大部な「府立大阪博物場所蔵品目録」2 巻が作成されたが、そこには蔵品番号とともに出納番号が記されており、閉館にあたっての府有財産調査の意味合いを持っていたものと考えられる。1917（大正 6）年の新商品陳列所開館以降も博物場は組織としては存続したが､常時開館に戻ることはなかった。

博物場の本当の終焉は 1945（昭和 20）年の大阪大空襲で商品陳列所の後身施設である府立貿易館の施設の大半が焼失したことによる。この空襲により旧博物場の 4 つの蔵も罹災し、多くの所蔵品が失われたのであろう。

焼失を免れた所蔵品のなかで、352 点あった絵画のうち 1 点だけ残った「絹本著色木村兼葭堂像 谷文晁筆」（重文）は現在大阪市立美術館に、戦争末期に京都大学に疎開させてあった「木村兼葭堂旧蔵貝石標本」（府指定有形文化財）は大阪市立自然史博物館に収められている。その他の多くは府商工部の所管となり、江之子島にあった 2 代目府庁跡地におかれた府立産業技術総合研究所の倉庫に死蔵されたままであった。そのうち美術工芸品と貨幣資料が 1967（昭和 41）年、府教育委員会社会教育課に移管され、さらに 1975（昭和 50）年に文化財保護課に移管されたものである[注 1]。さらにその後江之子島旧庁舎跡地再開発に先立って 1996（平成 8）年に倉庫の整理をしたところ、「府立大阪博物場所蔵品目録」2 巻に記載された資料 49 点が新たに見つかり文化財保護課に移管された。

2. 貨幣類のコレクションについて

再整理を実施したのは、1918（大正 7）年までに大阪府が収集した 3094 点に及ぶ世界各国の貨幣とメダル類である。この資料は大阪府指定有形文化財（歴史資料）「府立大阪博物場旧蔵古銭貨賞牌類」として指定されており、1998（平成 10）年に「府立大阪博物場旧蔵貨幣図録」第 1 冊が刊行された[注 2]。その後も府立博物館の企画展示などで部分的に公開されてきたが、その全容を画像も含めて知ることができる資料は今日までなかった。

大半が失われた博物場旧蔵資料の中にあって本資料は 3094 点のうち、欠失した 1 点を除く 3093 点が現存する[注 3]。

1915（大正 4）年に作成された所蔵品目録に記載されている貨幣類の点数は 2629 点である。1918（大正 7）年にあらためて詳細な目録を作成する際、系統的に抜け落ちているものを目録作成に協力した古銭商が寄付することで補い、3094 点になったものである。翌年刊行された「府立大阪博物場古銭貨賞牌類目録」（以下、「目録」）は本資料の全容を記した唯一の資料であった。

コレクションの構成は、日本の和同開珎に始まる皇朝十二銭から、中国、朝鮮、東南アジア諸国、インド、トルコ、エジプト、ヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国、カナダ、中南米諸国、オーストラリア、古代ギリシャ、ローマなど古今東西の貨幣が 2800 点余り、各国のメダルや朝鮮絵銭など貨幣以外のものが 280 点余りである。

さらに、その内容は驚くべきものと言っていい。

基本的に網羅的、かつ系統的であり、しかも、今日ほとんど目にすることのない稀有な資料を数多く含んでいる。例えば日本なら、太閤大判金があったり、一般にはほとんど知られていない寛永通宝の純金銭があったりする。世界に目を向けると、イギリス植民地時代の東南アジア各国、スペイン植民地時代の中南米各国、ポルトガル植民地時代のブラジル、カメハメハ３世の肖像が刻まれたアメリカ併合前のハワイの貨幣まである。

どの資料もそれが作られた時代の歴史をその１枚に凝縮していて貴重である。公開することにより一層研究が進むことを期待する。

これらの中から特に目についたものを何点かトピックス的に紹介しよう。

① 日本近代貨幣の兄（香港・1866・銀・直径 38.7 ㎜、重量 27.0g）

表面にはヴィクトリア女王の肖像、背面には中央に「香港壹圓」周囲に「ONE DOLLAR HONG KONG 1866」と刻印されている。

「目録」の備考欄には「日本一圓ノ起源」とある。国際的に通用する近代貨幣制度の確立を急いだ明治政府は、1868 年に閉鎖された英国香港造幣局の造幣機械を購入するとともに、香港造幣局長だったキンダー[注4]を造幣寮（現造幣局）造幣首長に任命して、1870（明治３）年から１円銀貨の製造を開始した。したがって、明治政府初期の１円銀貨とこの香港１円銀貨は直径、重量とも同じである。

② ギロチンにかけられたルイ 16 世（フランス・1792・銅・直径 33.4 ㎜、重量 23.1g）

この２ソル銅貨の表面に描かれたルイ 16 世の肖像の首には何度も引っかいた傷がつけられている。1789 年７月 14 日、民衆のバスティーユ監獄襲撃によってフランス革命は始まった。革命は当初立憲君主制派に指導されていたためルイ 16 世はなお王位にとどまっていた。ところが、プロイセンとオーストリアに対するフランス革命戦争前後にルイ 16 世とマリー・アントワネットの亡命未遂や情報漏えいなど数々の反革命行為が発覚し、ジャコバン派が急速に勢力を拡大した結果、1791 年に第１共和政が成立した。ルイ 16 世は、1793 年国民公会の議決により、マリー・アントワネットとともにギロチンによって処刑された。

③ 二つの肖像（神聖ローマ帝国・1765、1766・銀・直径 40.6 ㎜、重量 28.0g）

マリア・テレジア（1717 ～ 1780）は、ハプスブルク・ロートリンゲン朝神聖ローマ帝国皇帝フランツ１世（1708 ～ 1765）の皇后であり共同統治者、自らはハプスブルク家男系最後の君主でありオーストリア女大公、ハンガリー女王、ボヘミア女王だった。

夫のフランツ１世とは政略結婚が当たり前だった当時としてはきわめてまれな恋愛結婚で、夫婦は仲睦まじかった。政治家としての手腕はマリアの方が勝っており、実権は彼女が握っていたが、一方、財政家としての手腕はフランツの方がひいでていたと

図 94　香港１円銀貨

図 95　ルイ 16 世の銅貨

図 96　正装のマリア・テレジア

図 97　喪服のマリア・テレジア

図 98　メキシコ対仏戦争のメダル

図 99　文久遣欧使節のメダル

いう。

マリア・テレジアは夫を深く愛しており、彼の死後は生涯喪服だけを身につけたと伝えられている。この２枚の１ターラー銀貨はその逸話を今に伝えるものである。

④ 建国の父の戦い（メキシコ・1862・銅鍍金・直径 30.5 ㎜× 21.7 ㎜重量 7.6g）

「目録」によると、このメダルの銘文は「仏人駆逐凱旋記念」である。1821 年、メキシコはスペインからの独立を宣言するが、カトリック教会など特権階級の存在や、各地の軍閥による暴力的支配などで民衆の暮らしは一向に改善されなかったばかりか、政情も安定しなかった。そこにつけこんだフランスは、メキシコにかいらい政権を作ろうと 1861 年から政治的軍事的介入を繰り返したのである。

インディオ出身の初の大統領で、今も建国の父と呼ばれるベニート・フアレス [注 5] はフランスの干渉を排除しようと戦ったが、1863 年にはフランス軍にメキシコシティーを占領され、第２次メキシコ帝国の成立を許してしまう [注 6]。フアレスは地方に逃れて抵抗運動を続け、最終的には 1867 年にフランス軍を撤退させ、共和国の主権を回復した。このメダルは、対仏戦争の初期に一旦メキシコ側が勝利した記念に作られたものであろう。

⑤ 日本大君の正使オランダに来たる（オランダ・1862・銅鍍金　直径 38.3 ㎜、重量 22.3g）

1862（文久 2）年、「文久の遣欧使節」がオランダを訪問したことを記念するメダルである。表面には中央にオランダ王室の紋章と日章旗を戴いた葵紋が描かれ、その上下に 1605 と 1862、周囲には「NIPPON TAI-KOEN-NO SEI-SI HOLNDA NI KITAROE」の銘文が刻まれる。背面には漢字で中央に「親睦」、両脇に「両国」、「益篤」と縦書きされている。1605（慶長 10）年は、家康がその３年前に発給した最初の朱印状がタイのオランダ東インド会社に到達した年である [注 7]。

1858（安政 5）年から３年の間に、米・英・仏・露・蘭・ポルトガル・プロシャの７カ国との間で次々修好通商条約が締結され、これを受けて使節が派遣された。井伊直弼の主導で締結された上記諸条約は勅許を得たものではなかったことが、「国王」ではなく「大君」、菊紋ではなく葵紋というあたりに反映しているのかもしれない。

攘夷と開国の狭間で揺れ動く幕末の日本と、鎖国下にあっても対日交流を続けたオランダが、米英をはじめとする列強の権益拡大に抗してその地位を保全しようとしていた姿をこのメダルから読み取ることができる。　（広瀬雅信）

注１　後々田寿徳 2009「大阪博物場―「楽園」の盛衰」『東北芸術工科大学紀要 No.16』が府立大阪博物場の沿革で最もよくまとまっており参考とした。所蔵資料の遷移については、大阪府教育委員会 1991「「府立大阪博物場」旧蔵美術工芸品図版目録」によった。

注２　日本、中国、ベトナム、朝鮮の貨幣を紹介した。

注３　遅くとも文化財保護課に移管された時点で撮影した現況写真で、すでに豆板銀１点が欠失しているのが確認できる。

注４　Thomas William Kinder(1817 ～ 1884)。元軍人であったため傲慢な性格だったと伝える。日本人職員との衝突が絶えなかったことから、1875（明治 8）年に解雇された。

注５　Benito Pablo Juárez García（1806 ～ 1872）貧しいインディオの農家に生まれ、3 歳で父を亡くしたが、苦学の末神学と法学をおさめ、弁護士、裁判官、オアハカ州知事を経て、49 歳で法務大臣、55 歳で大統領に就任した。軍や教会の特権廃止やインディオの人権保護にも取り組んだことから、もっとも偉大な大統領と敬愛される。

注６　ナポレオン３世の要請を受けたハプスブルク家のマクシミリアン大公がメキシコ皇帝に即位するが、のちに銃殺。

注７　オランダの国立公文書館に保管されている家康の朱印状は 1609（慶長 14）年に発給された２度目のもので、この年初めて東インド会社の公式船団が平戸に入港した。現在、日蘭両国の公式見解ではこの年を日蘭通商開始の年としているが、文久２年段階の認識では 1605 年を通商開始の年としていた証左となる資料である。

【府立大阪博物場旧蔵資料】

ガウランドの壺 ― 大阪を愛したお傭い外国人 ―

はじめに

平成 23 年度から実施している府立大阪博物場旧蔵資料の再整理の一環として平成 24 年度から陶磁器類の現状確認と計測作業に着手した。

平成 3 年度に本課が刊行した「府立大阪博物場」旧蔵工芸品図版目録に収録された陶磁器の中に、「焼締叩文壺」という素焼きの壺がある[注 1]。「目録」作成時に完全には判読できていなかった箱書を子細に観察した結果、驚くべき内容の全文を判読することができた。くだんの壺は日本考古学の父ともいわれる英国人ウィリアム・ガウランド[注 2]が明治 21 年に博物場に寄贈したものであることが判明したのである。

現在世界遺産登録に向けた取り組みを進めている百舌鳥・古市古墳群ともかかわりの深いガウランドが日本に残した資料の存在が明らかになったことは大変意義深いことであり、資料の重要性にかんがみてここに速報を掲載することとした。

1．お傭い外国人ウィリアム・ガウランド

William Gowland（1842 ～ 1922）は、明治政府が英国から招聘した化学・冶金技術者で、1872（明治 5）年に大阪造幣寮（現・造幣局）にお傭い外国人技師として赴任し、1888（明治 21）年まで 16 年間大阪に滞在した。その間英国式鎔銅・冶金技術を伝え、陸軍大阪製造所（後の砲兵工廠）特別顧問を兼任するなど、日本の近代化に貢献した。

彼の日本での業績で高く評価されているのは、古墳文化研究の扉を開いた先駆的な研究である[注 3]。大英博物館には彼が持ち帰った日本の古墳関係の資料が散逸することなく所蔵されており、中でも古墳や石室の正確な測量図や、発掘調査を行った古墳の遺物出土状態を詳細に記録した実測図などは現在の学問水準に照らしても通用する精度を持っているし、数多くの古墳を写した写真は明治時代の古墳の姿を知ることができる貴重なものである。

帰国後のガウランドは鉱業・冶金学者として名を成す一方、鉱山技術を応用したストーンヘンジの発掘調査と修復を手掛けたことでも知られ、王立人類学会会長や王立協会会員にも推挙されるなど多才な人物であった。

2．ガウランドの壺（高さ 35.0 ㎝、口径 27.9 ㎝、胴部最大径 44.9 ㎝）

1915（大正 4）年刊行の「府立大阪博物場所蔵品目録」に「南蛮焼」とあるこの壺は、タイのアユタヤ付近で 16 世紀ごろに作られたと考えられる完形の素焼き陶器である。丸底で、胴部外面には連続した格子状の叩き目を施した後、ヘラ状工具の圧痕のような 2 条の沈線を上から下へ施す。内面上部には無文の当て具痕跡が残り、下半は横方向に丁寧にナデている。肩部には同じ叩き板の先端を連続して押し付けた爪形文が 2 段に巡り、その下方には同様の沈線を廻らす。口縁は丸くきれいにヨコナデされている。

南蛮貿易が盛んに行われたころ、呂宋壺や宋胡録などと同様そのひなびた味わいが侘び茶の世界で珍重され盛んに輸入された「ハンネラ」と呼ばれるもののひとつである[注 4]。茶道具として伝世しているものは建水など小形のものが多く、このような大形品は少ない。茶道具としての使途を推定するなら水屋甕ぐらいだろう。

図 100　ガウランドの壺

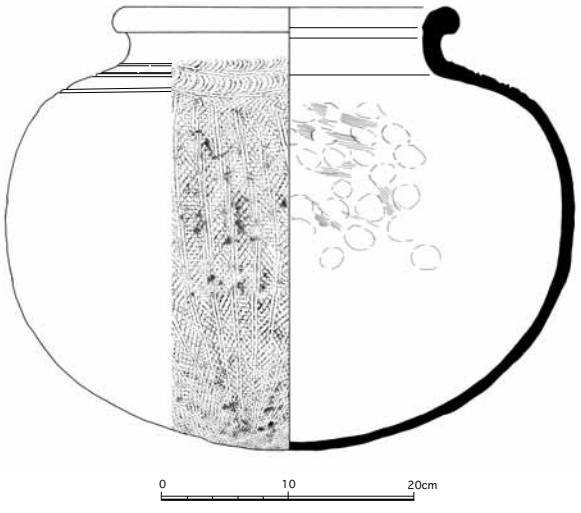


図 101　ガウランドの壺実測図（1/6）

図 102　箱書

図 103　箱書拡大（抜粋）

さて、ガウランドはこの壺をどこで入手したのだろう。彼は英国からまっすぐ日本に来ており、滞日中に朝鮮を訪れたことはあるがタイに行った記録はない。

大英博物館に収められた古墳関係の遺物は、ガウランド自らが発掘したものを除くと骨董商や好事家から購入したものがほとんどだという。彼は江戸絵画の収集でも知られており、考古遺物以外のものも買っていたのだろう。古墳研究のために彼が足しげく通った堺はまた千利休ゆかりの茶道の故地であり、利休が生きた時代の堺環濠都市遺跡の出土遺物の中には少なからず輸入陶磁器が混在していて、「ハンネラ」ももちろんある。堺の骨董商が扱っていた商品の中にハンネラがあって、それをガウランドが購入した可能性は考慮に値するだろう。

3．箱書

壺が収められた箱の外面は百年来の煤と埃で真っ黒になっており、特に蓋の表面は汚れが著しい。木質もかなり劣化していて、強く拭くと墨書が消えてしまうような状態である。それでも光の当て方を工夫しながらどうにか読み取れたのが５行に縦書きされた「明治二十一年十二月　第一〇三　南蛮壺　造幣局庸　ガウランド献納」(注 5) という箱書だった。

明治 21 年はガウランドが帰国の途についた年である。同年 10 月に契約期間が満了し、11 月に出国している。帰国に先立って博物場に寄贈したものが 12 月に登録されたのであろう。博物場旧蔵資料ではこの壺以外にガウランドが寄贈したものは知られていない。

おわりに

ガウランドがこの壺を大阪博物場に寄贈した経緯は不明である。帰国に際して不要な品として売り払うこともなく、また、寄贈先が帝室博物館などではなく、なぜ博物場だったのか。今となっては彼の心の動きを想像するしかない。

明治政府とお傭い外国人の契約期間は通常３年で、彼のように 16 年も滞在したのはかなり異例なことである。政府から乞われてということもあったかもしれないが、彼自身、日本の近代化にも古墳研究にもある意味腰を据えて取り組んでいたことは間違いない。

16 年間も大阪に暮らし、日本美術や考古学に深い興味を持っていたのであるから、大阪博物場にも当然足を運んでいただろう。そしてなにより、長く暮らした大阪を愛していたのだろうと、今は信じることにする。　　（広瀬雅信）

注１　大阪府教育委員会　1992 『「府立大阪博物場」旧蔵工芸品図版目録』95 ページ 226

注２　浜田青陵　1922 「日本考古学界の恩人ゴーランド氏」『大正 11 年８月 21 日付　大阪朝日新聞』 ガウランドの訃報に接した浜田青陵はこの長文の追悼文の中で、古墳研究における彼の業績を紹介し、「氏の研究は永久に歴史的の価値あるのみならず、それ自ら不滅の学術的価値を有するもの」とし、「永久に忘れべからざる考古学界の恩人なるべきを感ずる。（中略）此の意味において特に哀悼の情に堪へない」と述べている。

注３　上田宏範校注・監修、稲本忠雄訳　1981 「日本古墳文化論－ゴーランド考古論集」

注４　森村健一　2002 「15 ～ 17 世紀における東南アジア陶磁器から見た陶器の日本文化史」『国立歴史民俗博物館研究報告第 94 集』

注５　造幣局の沿革によれば、1869（明治２）年に設置された太政官造幣局は同年中に大蔵省造幣寮に改組され、1877（明治 10）年に造幣局に改称されたもので、ガウランドが赴任した時は造幣寮、帰国時の名称は造幣局である。

【事業報告】

文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業

■ 研修事業

昨年と同様に国際協力機構（JICA）からの依頼を受けて博物館学集中コースの外国人研修生に「考古資料の発掘と保存管理」について調査事務所及び発掘調査現地において実習を実施した。

府総務部人事室事業の大学生インターンシップにおいては、文化財発掘調査から遺物整理・展示など文化財行政全般にわたる業務を体験指導した。

堺市内の中学校二校の体験学習を受け入れた。調査事務所業務全般の作業体験と文化財に接する機会として整理作業や展示作業を実施した。

■ 発掘調査成果の公開事業

発掘調査現地の公開は河南町芹生谷遺跡と河内長野市太井遺跡で実施した。短期間で小規模調査区の調査を繰り返す現場が多く、現地公開の機会をもつことが難しかった。大県遺跡の発掘調査では、調査終了後その調査成果および出土遺物を公民館で公開した。

現地公開ができなかった遺跡の発掘調査成果は順次文化財保護課ホームページで公開している。24年度は10件の調査成果を公開した。

■ 調査成果の展示・関連講演等

府立博物館での展示公開とこれに関連する講演のほか、府内市町の資料館等での展示に協力した。府と共同で展示講演を企画した太子町・大阪狭山市・河内長野市のほか、新たに守口市においても市域内で府教委が行った八雲遺跡の調査成果の展示を、高石市郷土資料館でも陶邑須恵器の展示を府市共同で行った。

事業総数は展示・講演ともに平成23年度から減少している（27 → 19）が、これは、23年度のような話題性のある調査成果がなかったことが一因と考えられる。一方、過去の調査資料を地元市で公開活用していく事業は、市との連携を基礎として、新たな展開の可能性をもってきている。

■ 出かける博物館事業（講演・遺跡案内・イベントの応援）

講演や遺跡案内は、主催者からの依頼により職員が応援参加している。数年度にわたって継続的に開催されている講座等への講師派遣が中心である。事業数16件（23年度22件）に対して参加職員数は9名。特定職員の積極的な活動があるものの、参加職員の広がりは少ない。

従来、継続的に実施してきた高等学校への出前授

図104　中学生の職場体験学習

図105　現地公開風景（上：芹生谷遺跡 下：太井遺跡）

図106　大県遺跡展示会風景

図 107　高石市郷土資料館での展示

業が中断した。担当教員の交代に伴い、継続事業としての対応にとどまった結果、教員自身が文化財に親しむ余裕がなく、「負担」となってしまったことが原因といえる。

府立博物館が主催あるいは参加するイベントに対して、応援を行った。応援人数は減少しているが、それぞれの事業が主催者の体制準備によって安定的に実施されるようになった結果である。また、市町村が実施する事業にも積極的に応援した。

■ その他の事業（研究活動等）

最近の調査成果では、蔀屋北遺跡出土資料の学術的価値が高く評価されて定着してきている。資料見学も多く、重要資料として展示・研究に活用されている。

大阪府が過去に調査した資料を再整理しつつ、研究を続ける活動が、本課職員が参加しながら大学や他機関の研究者と共同で続けられている。成果の一部は近つ飛鳥博物館で展示されるなど、普及公開につながっている。

■ 今後の普及・啓発・公開事業の展望

府民が日常的に接し、普及啓発事業の主体となる市町村、また府民が来訪して文化財に接する府立博物館などの公開施設が、この事業の主体となるべき

図 108　出かける博物館での講演会の様子

図 109　弥生プラザ 和泉寺跡の展示

図 110　弥生プラザ 田井中遺跡の展示

組織であり、施設である。

調査事務所が実施する業務は、市町村や府立博物館などの施設との連携と応援が主体となる。府教委は市町村の文化財担当者が未配置の時期から地域で発掘調査を実施し、貴重で膨大な調査成果と資料を蓄積してはいるが、これらの資料を活用するための基本となる資料整理と研究が十分なされてきたとは言えない。今後、重要度と活用の可能性を考慮しながら、過去資料の整理研究が必要である。また、これを実施するにあたっては市町村や広範な研究者や府民との連携が不可欠であろう。

公開の基本となる事業は資料の収納である。平成25 年度に建設される大阪府和泉池上収蔵庫（仮称）の開設を契機に、公開活用を前提にした効率的な収納と、他の収蔵庫の収蔵資料のデータ化等を進める予定である。

学校教育との連携し、これを維持するためには、担当教員自身が文化財に親しめ、自信をもって指導できるよう、事前に十分打ち合わせをおこなうことが不可欠である。そのような機会を工夫して増やしていくような意識的な取り組みが必要である。

（阪田育功）

表８　文化財調査事務所での平成 24 年度普及・啓発・公開事業一覧（1）

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
研修事業	インターンシップ（大学生）	2012 年 9 月 3 日～ 14 日	調査事務所・発掘調査現場・狭山池博物館等	文化財保護業務全般の体験研修	大学生研修希望者	府総務部人事室事業
	国際協力機構（JICA）研修	2012 年 11 月 10 日～ 14 日	安威遺跡・太井遺跡・調査事務所ほか	博物館学集中コース「考古資料の発掘と保存管理」	JICA研修生（エリトリア・ペルー・スリランカ各1名）	
	職場体験学習（中学生）	2012 年 11 月 21・22 日	調査事務所	文化財保護課調査事務所の業務体験	赤坂台中学生 体験希望者 3 名	
	職場体験学習（中学生）	2013 年 2 月 6・7・8 日	調査事務所	文化財保護課調査事務所の業務体験	福泉南中学生 体験希望者 2 名	
発掘調査の現地公開	芹生谷遺跡現地公開	2012 年 12 月 1 日	河南町芹生谷遺跡現地	古墳時代後期竪穴住居跡など	一般	
	太井遺跡現地公開	2012 年 12 月 2 日	河内長野市太井遺跡現地	中世の墓・溝・土坑　縄文土器	一般	河内長野市と共同調査
	大県遺跡発掘調査成果と出土遺物の現地公開	2013 年 2 月 16 日	柏原市平野公民館	大県遺跡出土遺物・写真等展示	一般	
出かける博物館事業（展示・関連講演等）	竹内街道歴史資料館「難波大道」展示	2012 年 4 月 1 日 ～ 5 月 27 日	竹内街道歴史資料館	岸之本南遺跡出土遺物の展示ほか	一般	太子町共同事業
	弥生プラザ展示 「和泉寺跡　土器から見た和泉と淡路島の交流」	2012 年 5 月 12 日 ～ 12 月 12 日	弥生文化博物館	和泉寺跡　土器からみた和泉と淡路島の交流	一般	
	弥生文化博物館　土曜講座	1012 年 7 月 7 日	弥生文化博物館	「和泉寺跡　土器から見た和泉と淡路島の交流」	一般	
	弥生プラザ展示 「田井中遺跡　河内平野における弥生文化の成立をさぐる」	2012 年 12 月 13 日 ～ 2013 年 5 月 31 日	弥生文化博物館	「田井中遺跡　河内平野における弥生文化の成立をさぐる	一般	
	弥生文化博物館土曜講座	2013 年 2 月 11 日	弥生文化博物館	「田井中遺跡の発掘調査」	一般	
	大阪狭山市発掘調査成果速報展 陶邑窯跡群陶器山 310 号窯の調査	2012 年 4 月 28 日 ～ 5 月 27 日	狭山池博物館	陶器山 310 号窯跡関連資料として岸之本南遺跡韓式土器展示	一般	大阪狭山市と共同事業
	陶邑窯跡群陶器山 310 号窯の調査講演会	2012 年 5 月 20 日	狭山池博物館	森村健一「陶邑（すえむら）のイメージ」 土江文子「陶器山 310 号墳の発掘調査成果」	一般	大阪狭山市・堺市と共同事業
	河内長野市発掘調査成果展示会 「奥河内の縄文時代展」	2012 年 8 月 18 日 ～ 9 月 30 日	河内長野市立ふるさと歴史学習館	太井・高木・三日市・高向遺跡等出土品展示	一般・会員	河内長野市と共同展示
	河内長野市立ふるさと歴史学習館（くろまろ館）歴史講座	2012 年 9 月 22 日	河内長野市立ノバティホール	奥河内の縄文時代	一般	河内長野市と共同事業
	河内長野市立ふるさと歴史学習館（くろまろ館）歴史講座	2013 年 3 月 16 日	河内長野市立ふるさと歴史学習館	「中世の里太井小深　太井遺跡の発掘速報」 太井遺跡の発掘調査成果の報告	一般	河内長野市と共同事業
	高石市立図書館郷土資料室展示 「陶器の起源　陶邑の須恵器」	2012 年 10 月 3 日 ～ 12 月 24 日	高石市立図書館郷土資料室（アプラ高石4階）	「陶器の起源　陶邑の須恵器　TK13号窯出土遺物より」	一般	高石市と共同展示
	平成 24 年度守口市文化財展	2012 年 10 月 25 日 ～ 28 日	守口市教育文化会館	『注目される私たちの文化財　再評価される守口市の歴史資料』 八雲遺跡出土石器・土器等展示	一般	守口市展示協力
	近つ飛鳥博物館冬季特別展「歴史発掘おおさか2012　－大阪府発掘調査最新情報－」 展示	2013 年 1 月 26 日 ～ 3 月 24 日	近つ飛鳥博物館	和泉寺跡出土土器	一般	
	近つ飛鳥博物館冬季特別展「歴史発掘おおさか2012－大阪府発掘調査最新情報－」 講演会	2013 年 2 月 3 日 ・23 日	近つ飛鳥博物館	・百舌鳥古墳群レーダ測量図の作成 ・和泉市府中遺跡　土器から見た地域間交流	一般	府教委・大阪市教委・大阪市博物館協会・大阪府文化財センター　共催
	調査事務所ホール展示「総持寺遺跡出土埴輪」	2013 年 2 月 8 日	文化財調査事務所	福泉南中学体験学習による作業成果の展示	中学生	
	馬骨格復元肉づけ模型作成指導	2012 年 8 月 7 日・ 28 日・9 月 8 日	近つ飛鳥博物館ほか	蔀屋北遺跡出土馬全身骨格から作成した骨格模型に肉付け模型を作製	近つ飛鳥博物館学芸員ほか	
出かける博物館事業	喜連村史の会講演会	2012 年 4 月 7 日	大阪市平野区喜連 3 － 8 － 24　寶圓寺	瓜破北遺跡の発掘調査　準構造船を中心に	一般	喜連村史の会

表 8　文化財調査事務所での平成 24 年度普及・啓発・公開事業一覧（2）

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
出かける博物館事業（講演・遺跡案内等）	泉北すえむら文化財歴史講座	2012 年 7 月 8 日	堺市立泉北すえむら資料館	大阪におかれた古代天皇の宮 応神大隅宮仁徳高津宮反正柴柴籬宮	一般	
	泉北すえむら文化財歴史講座	2012 年 9 月 9 日	堺市立泉北すえむら資料館	マキムク遺跡のたそがれ	一般	
	泉北すえむら文化財歴史講座	2012 年 10 月 28 日	堺市立泉北すえむら資料館	孝徳天皇の難波宮のなぞ 前期難波宮で大化改新はなかった	一般	
	桃山学院大学社会人聴講生講座	2012 年 10 月 3・10・17 日	桃山学院大学	考古学最前線 遺跡から何が分かっているのか？	聴講生	
	自主学習グループ「みち」講演会	2012 年 8 月 11 日	岸和田市立公民館	大阪の兵士が語る「坂の上の雲」 大阪第四師団と日露戦争英雄伝	一般	
	自主学習グループ「みち」遺跡見学会	2012 年 9 月 21 日	高槻市内遺跡見学	新池埴輪工場公園 今城塚古墳公園 今城塚古代歴史館	一般	
	くすのきプラザ歴史講座	2012 年 9 月 11 日	東大阪市若江岩田駅前リージョンセンター	河内キリシタンの世界－三箇・岡山・若江・八尾－	一般	
	堺自由の泉大学	2012 年 8 月 2 日	堺市立女性センター	ちまたの考古学 道路と交通から堺をさぐる	講座応募者	
	堺自由の泉大学	2013 年 2 月 7 日	堺市立女性センター	堺環濠都市遺跡 都市堺を防衛した濠	講座応募者	
	堺自由の泉大学	2013 年 3 月 7 日	堺市立女性センター	堺の酒造り	講座応募者	
	いちょうコンソーシアム 2012 年度シンポジウム・講演	2012 年 7 月 16 日	大阪市立市立中央図書館 5 階大会議室	「マキムク遺跡、大型建物の謎にせまる」 発掘された王宮と 2000 個のモモ	一般・会員	
	平野区誌連続講座 「わがまち平野区 そのなりたちを学ぶ」	2013 年 1 月 27 日	平野区民センター	「瓜破北遺跡の調査成果－古墳時代の準構造船を中心として－」	一般	（財）大阪市コミュニティ協会平野区支部協議会
	いずみの国歴史館企画展 記念講演会	2012 年 11 月 10 日	いずみの国歴史館	「大園遺跡出土埴輪の再検討」	一般	
	泉州歴史探訪講演会	2012 年 12 月 6 日	高石市東コミュニティセンター	高石市水源池遺跡の調査と周辺の古墳時代集落について	一般	
	大手前高校集中セミナー	2012 年 12 月 7 日	大阪市中之島周辺	登録文化財の近代建築探訪～淀屋橋・北浜界隈の近代建築散策～	高校生・教員	
	大阪府メールマガジン連載「府庁のお仕事探検隊」取材対応	2013 年 2 月 20 日 3 月 6 日・13 日	大阪府メールマガジン	調査事務所の業務紹介	府職員むけ	府民文化部府政情報室所管
出かける博物館事業（イベント応援等）	『奥河内の縄文展』関連夏休みイベント	2012 年 8 月 25 日	河内長野市立ふるさと歴史学習館（くろまろ館）	縄文土器つくりと施文体験学習応援 「縄文土器を作ろう 縄文のもよう」	河内長野市在住小学生	河内長野市と共同事業
	和泉商工まつり	2012 年 10 月 27・28 日	史跡池上曽根公園	弥生文化博物館入館無料の宣伝 博物館による土器パズル	一般	
	安藤忠雄講演会	2013 年 3 月 2 日	近つ飛鳥博物館	近つ飛鳥を梅いっぱいに	一般	近つ飛鳥梅いっぱい委員会主催
	弥生フェスティバル	2013 年 3 月 26 日 ～ 31 日	弥生文化博物館	弥生文化博物館無料開放 考古学屋台村等イベント応援	一般	
その他研究会等	韓式土器研究会	2012 年 10 月 6 日	文化財調査事務所	蔀屋北遺跡出土資料の紹介と検討	研究会会員	
	大園遺跡出土埴輪の研究	2012 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	泉大津収蔵庫	大園遺跡綾園地区出土埴輪の再整理及び研究	有志	
	蕃上山古墳埴輪研究会	2012 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	泉大津収蔵庫	藤井寺市蕃上山古墳出土埴輪の研究	有志	
	陶邑窯跡群出土資料検討会	2012 年 .4 月 ～ 2013 年 3 月	文化財調査事務所	TK230－Ⅰ号窯跡出土資料の検討	有志	

平成 24 年度検討会および資料

1．調査・研究等の検討会

第 1 回　2012 年 5 月 10 日（水）
「河内長野市太井遺跡の発掘成果」
杉本清美・西川寿勝

第 2 回　2012 年 6 月 13 日（水）
「大阪市瓜破北遺跡の発掘成果」　林　日佐子

第 3 回　2012 年 7 月 11 日（水）
「工事事故防止に向けて」　北川　知

第 4 回　2012 年 7 月 18 日（水）
「２度目の復興支援で」　横田　明

第 5 回　2012 年 9 月 12 日（水）
「根来寺旧遺跡の発掘調査」
武内雅人（元和歌山県教育委員会）

第 6 回　2012 年 10 月 10 日（水）
「柳原遺跡の調査」　三好　玄

第 7 回　2012 年 11 月 14 日（水）
「瓜破北遺跡（その２）」　林　日佐子

第 8 回　2012 年 12 月 12 日（水）
「真田山陸軍墓地納骨堂の調査」　西川寿勝

第 9 回　2013 年 1 月 16 日（水）
「東北大震災と復興支援－文化財調査の現状（岩手県を中心に）－」　横田　明

第 10 回　2013 年 2 月 13 日（水）
「百舌鳥・古市古墳群レーザー測量図の作成」
三木　弘

第 11 回　2013 年 3 月 13 日（水）
「砧（キヌタ）のはなし」　辻本　武

2．所蔵資料

■ 埋蔵文化財（各収蔵庫・整理箱数）

(1) 北部収蔵庫（摂津市鳥飼中）	3,276 箱
(2) 東大阪収蔵庫（東大阪市長田東）	48,609 箱
(3) 泉北収蔵庫（高石市綾園）	38,182 箱
(4) 文化財調査事務所（堺市南区竹城台）	6,528 箱
(5) 泉大津収蔵庫（泉大津市旭町）	14,123 箱
(6) 泉佐野収蔵庫（泉佐野市日根野）	38,347 箱
(7) 近つ飛鳥博物館（河南町大字東山）	7,762 箱
合計	156,827 箱

平成 24 年度は、調査で出土した 807 箱の増加分に加えて、（公財）大阪府文化財センターから（センター調査分の）4,768 箱の返還を受け入れた。この中には、平成 24 年度に閉鎖・解体された池島支所で保管・収蔵されていた 2,503 箱、和泉市に移管された旧横山高校に保管されていた 1,591 箱が含まれている。その大半は、泉佐野収蔵庫に移し替え収蔵・管理。

図 111　検討会の様子

図 112　北部収蔵庫外観

図 113　文化財調査事務所収納状況

図 114　泉佐野収蔵庫収納状況

■ **民俗文化財 (文化財調査事務所)**

(1) 谷口家資料	221 点
(2) 上辻家資料	132 点
(3) 守田コレクション	200 点
(4) 上平家資料	150 点
(5) 畑野家資料	68 点
(6) 三宅家資料	一括
(7) 大恩寺資料	一括
(8) 前西家資料	22 件

■ **美術工芸品 (文化財調査事務所)**

(1)田中家文書一括	(5 箱 /4,100 点)
(2)「府立大阪博物場」資料	
・旧蔵美術工芸品（大阪府指定文化財）	277 点
・古銭（大阪府指定文化財）	4 箱 3,078 点
・その他博物場資料	一括

■ **写真・図面その他の資料 (文化財調査事務所)**

(1) 図面資料	4,905 ケース
(2) 写真資料	7,710 ケース
(3) 台帳	1,945 冊
(4) パネル	812 点

■ **図書（文化財調査事務所他）**

(1) 調査報告書他	51,599 冊

図 116　大阪博物場資料（美術工芸品等）収納状況

図 117　図面等収納状況

図 115　民俗資料収納状況

図 118　図書収納状況

平成 24 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧

大阪府埋蔵文化財調査報告

2012–1 『招提中町遺跡Ⅳ・九頭神遺跡Ⅱ』
2012–2 『寺田遺跡Ⅲ』
2012–3 『瓜破北遺跡』
2012–4 『林遺跡・国府遺跡』
2012–5 『和泉寺跡・府中遺跡　Ⅱ』

概要報告

『太井遺跡発掘調査概要・Ⅱ』

年　報

『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 16』

図 119　平成 24 年度刊行物集合

平成 24 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

実物資料・複製資料長期貸出

件数	申請者	遺跡	資料内容／点数	目的（展示内容等）
1	国立歴史民俗博物館	池上曽根遺跡	石庖丁 3 計 3 点	総合展示『稲と倭人』
2	大阪府立狭山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	冑金 1 鋤 1 計 2 点	常設展示『中世の土地開発と狭山池』
3	大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）	大坂城跡	美濃焼小鉢 1、天目茶碗 1、鉄釉丸椀 1、鉄釉皿 2、灰釉折縁皿 1、灰釉菊皿 1、灰釉皿 1、志野向付 1、志野皿 1、中国製白磁 1、青花皿 1、ベトナム製色絵皿 1、金箔瓦 4 計 17 点	常設展示（リフレッシュコーナー）
4	大阪府立西成高等学校	喜志遺跡 八尾南遺跡 萱振遺跡 崇禅寺遺跡 陶器南遺跡	弥生土器甕 1 土師器 5（直口壺 2・小形丸底壺 1・高杯 1・台付甕 1） 土師器甕 1 須恵器 9（杯身 1・有蓋高杯蓋 3・有蓋高杯身 3・鼈 1・壺 1） 須恵器片コンテナ 1 箱 計 17 点（コンテナ数を含む）	授業・展示
5	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔丸瓦 1、飾瓦 1、軒平瓦 1、文字入り平瓦 1、軒丸瓦 1、天目茶碗 1、須恵器短頸壺 1、分銅 1、白磁香炉 1、美濃水滴 1、鳥文青花大皿 1、鍔 1、笄 1 計 13 点	授業・展示
6	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦 10、軒平瓦 8、鬼瓦 3、雁振瓦 1、瓦器椀 7、土師皿 11、すり鉢 1、土師質羽釜 1、陶磁器 5、硯 1 計 48 点	授業・展示
7	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺 2、須恵器 15（杯 5・高杯 3・碗 1・甕 4・こね鉢 1・その他 1）、韓式系土器甕 1、土師器 13（壺 3・甕 2・高杯 3・碗 1・皿 4）、瓦器 34（碗 31・皿 1・火鉢 1・釜 1）、磁器碗 1、砥石 1 木製品 5（下駄 2・箸 2・人形首 1）、土錘 1、キセル 1、加工骨 1 計 75 点	授業・展示
8	大阪府立四條畷高等学校	更良岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪 3 、須恵器 3（短頸壺 1・甕 1・提瓶 1） 弥生土器 32（壺 7・長頸壺 1・無頸壺 1・無頸壺蓋 1・鉢 3・鉢蓋 1・甕 7・台付鉢 2・台付甕 1・器台 3・高杯 3・手焙り形土器 2）、黒色土器椀 1、土師器壺 2、須恵器 7（平瓶 1・無蓋高杯 1・蓋杯蓋 1・蓋杯杯身 2・鼈 1・壺 1）、砥石 4、石鏃 5 計 57 点	授業・展示
9	大阪府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生土器 4（壷 1・長頸壺 1・無頸 1・壺蓋 1）、土師器壺 1、須恵器 5（有蓋高杯 1・高杯蓋 1・杯身 1・杯蓋 1・鼈 1）、円筒埴輪 1、蓋形埴輪 6、勾玉 4、紡錘車 2、臼玉 8 計 31 点	授業・展示
10	大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器 9（壺 2・甕 2・鉢 2・蓋 3）、磨製石斧 5 計 14 点	授業・展示
11	能勢町歴史資料室	上椿遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器甕 1 須恵器 4（杯身 1・杯蓋 2・円面硯 1）、土師器高杯 1 黒色土器椀 2、土師器小皿 3 弥生土器 8（土器片 1 甕 3 無頸壺 1 鉢 1 蓋 1 高杯 1）、土師器 7（壺 1・甕 3・器台 1・杯 2）、須恵器 5（杯 2・甕 3）、石庖丁 4 、石斧 3 、石錘 1 石鏃 7 計 46 点	能勢町歴史資料室（能勢町ふるさと会館内）常設展示

12 豊能町立郷土資料館	余野城跡	瓦器椀 7、瓦器片 20、土師皿 4、須恵器片 3、砥石 1 計 35 点	豊能町立郷土資料館 常設展示
13 吹田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦点 1、平瓦 1、緑釉陶器片 2、緑釉瓦片 6、窯道具 6 計 16 点	常設展示『桓武朝平安宮瓦窯』
14 藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修羅 1 点 計 1 点	図書館展示室常設展示
15 堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器 33（椀 27・皿 6）、土師器皿 1、瓦質羽釜 1、鋳型片 29、鞴羽口 18、鉄製刀子 1、青銅製品 2、鉄滓 7、砥石 7 計 99 点	常設展示『河内鋳物師』
16 太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具（レプリカ）一式 計 1 式	常設展示（第2展示室）
17 池上曽根弥生学習館	池上曽根遺跡	炭化米（No.286）1 ケース 計 1 ケース	常設展示
18 和泉市いずみの国歴史館	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信太寺跡 和泉寺跡 池上曽根遺跡	弥生土器 12（高杯 1・壺 7・甕 2・蛸壺形土器 2） 軒丸瓦 6、軒平瓦 5 有舌尖頭器 2、子持勾玉 2、滑石製勾玉 1、紡錘車 1 文字瓦 6 、軒丸瓦 8 、軒平瓦 1、石製巡方 1 平瓦（人物画像 ）1、文字瓦 4、軒丸瓦点 1、軒平瓦 1 平瓦 2、軒平瓦 1、軒丸瓦 3 弥生土器 15（甕 1・水差形土器 1・高杯 3・鉢 3・壺 7)、木製品 24（男茎＜レプリカ＞1・広鍬＜レプリカ＞1）高杯 1・把手付鉢 1・鉢 1・斧の柄 1・布巻具 1・用途不明品 1・小型四脚付盤 2・臼 1・臼＜レプリカ＞1 杓子 2・杓子＜レプリカ＞1・鍬 3・鍬＜レプリカ＞1・簪 5)、石製品 23（錘 2・大型石庖丁 2・環状石斧 2・石斧 9・石槍 5・投弾 3)、ヒスイ勾玉 1、管玉 5、ガラス玉片 3、イノシシの下顎骨 1、鹿角 1、骨製ヤス 2、骨器未製品 5、銅鏃 2、八稜鏡 1 計 141 点（内レプリカ 5 点）	常設展示
19 宮崎県立西都原考古博物館	陶邑窯跡群	須恵器 109 計 109 点	常設展示コーナー『考古学研究所』
20 吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦 1、軒平瓦 1、緑釉瓦片 2、トチン 2 計 6 点	社務所玄関ロビーに展示
21 交野市教育委員会	大谷窯跡	須恵器 24、須恵器片 21 袋（遺物袋） 計 45 点（遺物袋数を含む）	常設展示
22 大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器 18（椀 13・皿 5)、青磁 4、土師質羽釜 6、土師器 11（皿 10・壷 1）須恵器 11、瓦質皿 2、瓦質羽釜 2、常滑甕 3、軒丸瓦 3、軒平瓦 2、瓦器椀片・土師器片 7 袋（遺物袋） 計 69 点（遺物袋数を含む）	常設展示
23 箕面市立郷土資料館	箕面経塚	和鏡 3、壷 1、銅銭 4、青白磁合子 2、青白磁小壺 1、褐釉壺 1 計 11 点	常設展示
24 奈良国立博物館	新堂廃寺 河内寺 百済寺 高宮廃寺	軒丸瓦 7、鴟尾片 2、棰先瓦 1 軒丸瓦 2、軒先瓦 2 軒丸瓦 1 軒丸瓦 1 計 16 点	常設展示『仏教考古及び歴史考古の名品』
25 大阪府教育センター	陶邑窯跡群	須恵器（瓶子 2・短頸壷 1・長頸壷 1・蛸壷 1・杯身 8・杯蓋 5・平瓶 1・提瓶 1・高坏身 1・高坏蓋 1・甕 1・擂鉢 1・無蓋高坏 1・瑞 1) 計 26 点	展示
26 高石市教育委員会	大園遺跡	須恵器・土師器・家形埴輪・朝顔形埴輪・円筒埴輪・瓦器・羽釜・軒丸瓦・土錘・蛸壺・石器類・馬歯など整理箱 110 箱 計 整理箱 110 箱	再整理・公開活用

実物資料・複製資料短期貸出

件数	貸出先（申請者）	遺跡	資料名／点数	展覧会／掲載図書名称
1	柏原市立歴史資料館	鳥坂寺跡	金銅製品 4、三彩火舎 1、塼仏 2 計 7 点	夏季企画展『鳥坂寺再興』
2	藤井寺市教育委員会	津堂城山古墳	円筒埴輪 2 計 2 点	調査報告書『津堂城山古墳発掘調査報告書』
3	藤井寺市教育委員会	津堂城山古墳	円筒埴輪、整理箱 1 箱 計 整理箱 1 箱	調査報告書『津堂城山古墳発掘調査報告書』
4	大阪府立狭山池博物館	余部日置荘遺跡	溶解炉 1、炉壁片 1、鍋鋳型片 10 計 12 点	特別展『中世狭山池の水下世界』
5	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡 深田橋遺跡	馬頭蓋骨 1、製塩土器 6 須恵器（杯身 1・杯蓋 1・高坏蓋 1・無蓋高坏 2・甕 1・樽形甕 1・把手付椀 1） 計 15 点	秋季特別展『南九州とヤマト王権－日向・大隅の古墳－』
6	和泉市教育委員会	大園遺跡	衝立形埴輪 7、盾形埴輪 3、円筒埴輪 1、土製棺 6、家形埴輪 1 計 18 点	企画展『大、大園展－知られざる大園の世界－』
7	堺市立みはら歴史博物館	平尾遺跡 丹比廃寺	須恵器（平瓶 1・杯蓋 1・杯身 1・硯 4・瓶子 2）、土師器（甕 1・杯 1・片口鉢 1）、軒丸瓦 1、石製腰帯飾 1、帯金具 1、不明青銅製品 1、不明鉄製品 1、トリベ 4、フイゴ羽口 3、斎串 5 軒丸瓦 2 軒平瓦 4 計 35 点	特別展『瓦が語る美原の古代寺院－黒山廃寺をめぐって－』
8	高槻市教育委員会	蔀屋北遺跡 讃良郡条里遺跡	鞍（レプリカ）1 鞍 1 計 2 点	特別展『よみがえる古代の煌き－副葬品にみる今城塚古墳の時代－』
9	尼崎市教育委員会	崇禅寺遺跡	素環頭大刀 1 計 1 点	特別展『弥生の鉄－石器から鉄器へ－』
10	守口市教育委員会	八雲遺跡	弥生土器（壷 1・甕 1・甕蓋 1・鉢 1）、硬質砂岩製砥石 1、サヌカイト打製石庖丁 1、鉄石英細（赤）石刃一括、鉄石英（黄）石錐一括、鉄石英（黄）石核 2、サヌカイト細石刃 1、鉄石英（赤）石ノミ一括、鉄石英（赤）特大剥片一括、鉄石英（赤）中剥片一括、鉄石英（赤）小大剥片一括、鉄石英（黄）原石 5、サヌカイト石鏃 1、サヌカイト石小刀 1 計 22 点	企画展『注目される私たちの文化財－再評価される守口市の歴史資料』
11	大阪府立弥生文化博物館	大坂城跡	鐔 1、笄 1 計 2 点	冬季企画展『飾 KAZARI －装剣金具の粋－』
12	大阪府立近つ飛鳥博物館	府中遺跡 池上曽根遺跡	弥生土器（壷 1・甕 12・有稜高坏 2・小形鉢 1・中形鉢 3）、淡路型器台 6 淡路型器台 1 計 26 点	冬季特別展『歴史発掘　おおさか 2012 －大阪府発掘調査最新情報－』
13	但馬国府・国分寺館	池島・福万寺遺跡	弥生時代前期コウノトリ足跡（石膏型）1 計 1 点	特別展『鳥－ヒトとトリの考古学－』
14	大阪府立近つ飛鳥博物館	北玉山古墳 板持 3 号墳 馬子塚古墳 大園遺跡 池島・福万寺遺跡	捩文鏡 1 重圏文鏡 1、短剣 2、鉄鏃 5、銅鏃 5 斜縁二神二獣鏡 1、管玉 15 さしば形埴輪 2、導水施設形埴輪 5、円筒埴輪 1、船形埴輪 1 布留形甕 1、土師器甕 1、陶質土器壷 2 計 43 点	特別展『百舌鳥・古市古墳群出現前夜』
15	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	蔀屋北遺跡	木製輪鐙 1、木製鞍（レプリカ）1、鑣轡 1、馬歯 1、U字形土製品 1、木製農具 1、木製刀形 1、木製船形 1、櫂 1、タタリ 1 計 10 点	春季特別展『5世紀のヤマト－まほろばの世界－』

資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

件数	依頼者	撮影 掲載 貸出	種類	遺跡	資料内容／点数	目的／掲載誌
1	柏原市立歴史資料館	撮影 掲載	写真モノクロ 写真カラー	鳥坂寺跡	金堂全景 1、金堂拝み石と南面階段 1、 講堂須弥壇 1、鴟尾出土状況 1、金堂製品 4、 三彩火舎 1、塼仏 2、軒丸瓦 9、軒平瓦 3、 文字瓦 1、戯画瓦 1、金銅製品 2、鉄製品 1、 鴟尾 2 計 30 点	展示図録『鳥坂寺再興』
2	和歌山県立紀伊風土記の丘	貸出 掲載	写真モノクロ	天神山遺跡	銅鐸 1 計 1 点	展示図録『紀伊弥生文化の至宝』
3	個人	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器器台 1 計 1 点	岡山市医師会報第 199 号
4	個人	掲載	写真モノクロ	雁屋遺跡	絵画土器 1 計 1 点	“Religious Imagery of Middle Yayoi Settlemennts”（Aarhus University press）
5	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	堂山 1 号墳	三角板革綴短甲 1 計 1 点	展示図録『古代の装身具－出土品からみる男性と女性－』
6	柏原市教育委員会	掲載	写真カラー	鳥坂寺跡	軒丸瓦 2、軒平瓦 1、鴟尾 2、戯画平瓦 1、 文字瓦 1、塼仏 2 計 9 点	パンフレット『史跡鳥坂寺跡』
7	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	寛弘寺 75 号墳	石室全景 1 計 1 点	展示図録『古代の装身具－出土品からみる男性と女性』
8	海青社	掲載	写真カラー	大坂城跡	太閤枡 1 計 1 点	伊藤隆夫・山田昌久編『木の考古学』
9	彦根市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	大坂城跡	太閤枡 1 計 1 点	展示図録『佐和山城と石田三成』
10	藤井寺市教育委員会	貸出 掲載	図面 写真モノクロ 写真カラー	津堂城山古墳	80 年度発掘調査外業図面 1 冊、 写真ファイル（遺構）1 冊、 写真ファイル（遺物）1 冊、 カラースライドファイル 1 冊 計 4 冊	津堂城山古墳調査報告書の作成
11	（公財）元興寺文化財研究所	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅運搬状況 4 計 4 点	展示図録『文化財保存・修復の半世紀』
12	大阪府立狭山池博物館	撮影 貸出 掲載	写真カラー	余部日置荘遺跡	炉壁片 1、自然流路 1、微低地に残る畝 1、 ため池の木樋 1 計 4 点	展示図録『中世狭山池の水下世界』
13	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡 陶邑窯跡群TK 83 号	北東居住域（C調査区）全景 1 須恵器集合 1 計 2 点	展示図録『南九州とヤマト王権－日向・大隈の古墳』
14	高槻市教育委員会	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	北東居住域（C調査区）全景 1、 馬埋葬土坑 1、木製鞍 1 計 3 点	展示図録『よみがえる古代の煌き－副葬品にみる今城塚古墳の時代－』
15	藤井寺市総務部	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	大小修羅・梃棒出土状態 1 計 1 点	わがまち辞典・地域情報誌『暮らしのガイドブック』2012
16	東京堂出版	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合 1 計 1 点	『古事記』なるほど謎解き 100 話
17	雄山閣	掲載	写真モノクロ 図面	田井中遺跡 喜志遺跡 寛弘寺遺跡 田井中遺跡 土師の里遺跡 田井中遺跡	土坑 407 石材出土状態 8 サヌカイト製接合資料 6 サヌカイト製接合資料 26 サヌカイト製石器 9 サヌカイト製遺物 23 サヌカイト原石 3 計 75 点	上峯篤史『縄文・弥生時代石器研究の技術論的展開－近畿地方におけるサヌカイト製石器群の研究』

18	堺市立みはら歴史博物館	貸出 掲載	写真カラー	平尾遺跡 丹比廃寺	須恵器（平瓶 1・杯蓋 1・杯身 1・硯 4・小型長頸壺 2)、土師器（甕 1・杯 1・片口鉢 1)、軒丸瓦 1、石製腰帯飾 1、帯金具 1、不明青銅製品 1、不明鉄製品 1、トリベ 4、フイゴ羽口 3、斎串 5、平成 14・15 年度調査地点全景航空写真 1、平成 14・15 年度調査 2 地区井戸 2-1 1、平成 14・15 年度調査 3 地区井戸 3-1 1、平成 14・15 年度調査 2 地区掘立柱建物群 1、平成 14・15 年度調査 2・3 地区全景 1、1973・1974 年度調査区西側遺構検出状況 1、1973・1974 年度調査区東側遺構検出状況 1 軒丸瓦 2、軒平瓦 4、北トレンチ南壁土層断面 1、北トレンチ（西から）1、南トレンチ基壇土層断面（西から）1 南トレンチ瓦集中層の検出状況（南より）1、南トレンチ基壇（南西より）1、南トレンチ東西方向（西から）1 計 48 点	展示図録『瓦が語る美原の古代寺院－黒山廃寺をめぐって－』
19	発掘された明石の歴史展実行委員会	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	埋葬馬検出状況 1 計 1 点	展示解説書『発掘された明石の歴史展』
20	大阪府立近つ飛鳥博物館	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	土坑SK 940 保存処理後 1 計 1 点	古墳時代馬復元模型完成及び愛称募集の報道提供資料
21	アジア鋳造技術史学会	撮影 掲載	写真カラー	馬子塚古墳	斜縁神獣鏡 1 計 1 点	「斜縁神獣鏡にみる鏡の摩耗と出土古墳の時期」（アジア鋳造技術史学会『FUSUS』第5号 ）
22	八尾市教育委員会	掲載	写真カラー	萱振1号墳	復元された萱振1号墳 1 、萱振1号墳全景 1、西側埴輪列（南から）1 計 3 点	八尾市立しおんじやま古墳学習館トピック展示『やお・はにわランド！円筒埴輪ってなあに？』
23	㈱アーテファクトリー	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況 1 計 1 点	「遺跡に眠る謎－飛鳥遺跡群」『週刊歴史のミステリー』第 33 号（株式会社デアゴスティーニ・ジャパン）
24	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	高木遺跡 府中遺跡	縄文土器 1 自然流路 031 土器溜（東から）1 08019-4 区自然流路 031 土器溜出土土器 1 計 3 点	展示図録『歴史発掘 おおさか 2012 －大阪府発掘調査最新情報－』
25	藤井寺市教育員会	掲載	モノクロ写真	澤田七ッ塚中の方墳上より所見 1 一古墳 高塚山古墳	林 85-6 区 12 ～ 19 号埴輪（東から）1 計 2 点	『古市古墳群 2012 世界遺産をめざして！仲姫皇后陵古墳とその周辺』
26	和泉市教育委員会	貸出 掲載	モノクロ写真	陶邑窯跡群 谷山池 12 号窯跡	軒丸瓦 1 計 1 点	『和泉市の歴史』第6巻テーマ編Ⅰ和泉市史編さん委員会編集／和泉市発行
27	Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合 1 計 1 点	『エブリスタディ小6』4月号（MJM601S）『エブリスタディ小6』4月号（MJM601H）
28	Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合 1 樽形腿 1 計 2 点	『エブリスタディアドバンス小5社会スタンダード』6月号（AJM510S）『エブリスタディアドバンス小5社会ハイレベル』6月号（AJM510H）
29	Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合 1 計 1 点	『エブリスタディ小6』8月号（MJM605S）『エブリスタディ小6』8月号（MJM605H）

30	國立扶餘文化財研究所	掲載	図面 写真モノクロ	禅寂寺跡	軒丸瓦･軒平瓦第 1 形式 1、軒平瓦第 2 形式 1、 軒丸瓦・軒平瓦第 3 － 1 形式 1、軒丸瓦・軒平瓦 3 － 2 形式 1 1、講堂跡西半部分南面 1 計 5 点	『東アジアの古代－雁屋遺跡の方形周溝墓を中心にして－』
31	ジェイ・エヌ・エス	貸出 掲載	写真カラー	三ッ塚古墳	修羅出土状況 1 計 1 点	『東国文化副読本』群馬県生活文化部文化振興課
32	弥生文化博物館	掲載	写真カラー	大坂城跡	鐔 1、笄 1 計 2 点	冬季企画展『飾 KAZARI －装剣金具の粋－』展チラシ･ホームページ･報道提供資料
33	（公財）元興寺文化財研究所	掲載	写真カラー	三ッ塚古墳	修羅保存処理後の点検作業風景 1 計 1 点	元興寺公式ガイドブック『わかる！元興寺』
34	郷土出版社	掲載	写真カラー	阿武山古墳	再埋棺後の慰霊式 1 計 1 点	『保存版　ふるさと高槻』
35	奈良文化財研究所飛鳥資料館	掲載	写真カラー	新堂廃寺	垂木先瓦 2 計 2 点	展示図録『飛鳥寺 2013』
36	（株）小学館クリエイティブ	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	初期須恵器集合写真 1 計 1 点	『一冊でわかる　イラストでわかる図解古代史』
37	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	建物跡（北東居住域・C調査区）全景 1、U字形土製品 1、鑪轡 1、木製輪鐙 1、木製鞍 1 計 5 点	展示図録『5世紀のヤマト』
38	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	津堂城山古墳	後円部の石室と長持形石棺 1、石棺発見当時に於ける坪井博士の調査 1、変形盤竜鏡 1、玉類 1、石製模造品 1、古鏡片及巴形銅器 1 計 6 点	『津堂城山古墳』藤井寺市文化財報告第 34 集　藤井寺市教育委員会編集
39	文化庁文化財記念物課	貸出 掲載	写真カラー	普賢寺遺跡	密教法具集合 1 計 1 点	『発掘調査のてびき　各種遺跡発掘編』
40	大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 掲載	写真カラー	北玉山古墳 大園遺跡 津堂城山古墳 壺井御旅山古墳 寛弘寺 10 号墳 寛弘寺 20 号墳 寛弘寺 21 号墳 馬子塚古墳	墳丘 1、前方部・粘土槨 1、粘土槨 1、捩文鏡 1 埴輪出土状況 1、埴輪 7 竪穴式石室と長持形石棺 1 前方部墳丘東側葺石 1 主体部（東から）1 北側周溝埴輪出土状況 1 主体部（西から）1 斜縁二神二獣鏡 1、碧玉製管玉 1 計 19 点	展示図録『百舌鳥・古市古墳群出現前夜』
41	藤井寺市教育員会	掲載	写真カラー	応神天皇陵古墳 津堂城山古墳 仲津山古墳 墓山古墳 古室遺跡 萱振1号墳	円筒埴輪 2 円筒埴輪 2、衝立形埴輪 1、石棺出土状況 1 円筒埴輪 3 人物埴輪 1 冑形埴輪 1 靫形埴輪 1 計 12 点	百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録推進用DVD『古市古墳群』Ⅰ～Ⅳ巻（藤井寺市教育委員会編）
42	茨木市教育員会	貸出 掲載	写真カラー	初田1号墳	塼（集合）1 計 1 点	『いばらきの歴史を探ろう！』古墳時代編　茨木市立文化財資料館
43	新泉社	貸出 掲載	写真カラー	津堂城山古墳	長持形石棺出土状況 1 計 1 点	シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊 04『古墳時代ガイドブック』
44	立命館大学文学部	掲載	写真モノクロ	貝吹山古墳 摩湯山古墳 久米田古墳群	全景 1、前方部に於ける礫床 1、後円の一隅に於ける埴輪円筒列 1（『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第 3 輯 1932 年大阪府所収） 摩湯山古墳 1 久米田古墳群 2(壇波羅密寺調査時 1973 年の航空写真より) 計 6 点	『久米田古墳群発掘調査報告Ⅰ－貝吹山古墳の調査』岸和田市埋蔵文化財調査報告書 11 講演「久米田古墳群と摩湯山古墳－和泉に「おける首長墳の動向－）近つ飛鳥博物館シンポジウム「百舌鳥古墳群出現前夜」）で使用
45	㈱雄山閣	貸出 掲載	写真カラー	芹生谷遺跡 金山古墳	周辺航空写真 1、竪穴住居 2、金山古墳 1 計 4 点	「最近の発掘から　河南台地の集落と古墳」『季刊考古学』第 123 号

資料閲覧

件数	申請者（所属）	遺跡	資料内容	保管場所	目的
1	奈良県立橿原考古学研究所・京都大学・大阪大学・立命館大学	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
2	柏原市立歴史資料館	鳥坂寺跡	塼仏・金属器製品・三彩火舎・三彩盤	文化財調査事務所	展示
3	千葉県教育委員会	府中遺跡	縄文土器	文化財調査事務所	学術研究
4	京都橘大学	余部遺跡	図面	文化財調査事務所	学術研究
5	大阪大学大学院	陶邑窯跡群 ON3号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
6	国立羅州文化財研究所	安威遺跡・蔀屋北遺跡	韓式系土器・須恵器	文化財調査事務所	学術研究
7	韓国国立民族学博物館・厦門大学・広西師範大学	蔀屋北遺跡	韓式系土器・須恵器	文化財調査事務所	学術研究
8	大阪府立弥生文化博物館	木の本遺跡・亀井遺跡・田井中遺跡	鋤・鍬・馬鋤	文化財調査事務所 泉北収蔵庫	展示
9	羽曳野市教育委員会	玉手山 10 号墳・鍋塚古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
10	大阪府立狭山池博物館	小寺遺跡 瓜破北遺跡	図面・船材	文化財調査事務所	展示
11	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
12	大阪大学大学院・滋賀県立大学・同志社大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
13	大阪府立近つ飛鳥博物館	寛弘寺 75 号墳	写真	文化財調査事務所	展示
14	藤井寺市教育委員会	津堂城山古墳	円筒埴輪・図面・写真	文化財調査事務所	学術研究
15	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
16	泉大津市教育委員会	瓜破北遺跡	木製品（船材）	文化財調査事務所	学術研究
17	富田林土木事務所	余部遺跡	炉壁片	文化財調査事務所 泉北収蔵庫	展示
18	大阪大学大学院・滋賀県立大学・同志社大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
19	奈良県立橿原考古学研究所・大阪大学・立命館大学・大阪府文化財センター・御所市教育委員会	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
20	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡・陶邑深田	馬具・馬頭蓋骨・製塩土器・須恵器	文化財調査事務所 泉大津収蔵庫	展示
21	大阪府立狭山池博物館	余部遺跡	写真	文化財調査事務所	展示
22	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
23	大阪大学大学院	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究

24	大阪大谷大学	陶邑窯跡群TK 230- Ⅰ号窯	焼台	文化財調査事務所 泉大津収蔵庫	学術研究
25	高槻市立今城塚古代歴史館	蔀屋北遺跡・讃良郡条里遺跡	木製鞍	文化財調査事務所	展示
26	奈良県立橿原考古学研究所・ 京都大学・大阪大学・ 大阪府文化財センター	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
27	堺市立みはら歴史博物館	平尾遺跡・丹比廃寺	須恵器・瓦	泉大津収蔵庫 東大阪収蔵庫	展示
28	大阪大谷大学	陶邑窯跡群TK 230- Ⅰ号窯	窯道具	文化財調査事務所	学術研究
29	和泉市教育委員会	大園遺跡	埴輪 土製棺	泉大津収蔵庫	展示
30	堺市立みはら歴史博物館	平尾遺跡・丹比廃寺	写真（遺構全景・井戸・掘立柱建物群・基壇）・ 斎串・瓦	文化財調査事務所	展示
31	大阪府立近つ飛鳥博物館	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
32	堺市文化財課	河内国分寺	軒平瓦	文化財調査事務所	学術研究
33	尼崎市立田能資料館	崇禅寺遺跡	素環頭大刀	弥生文化博物館 （長期貸出）	展示
34	大阪大学	柳原遺跡	弥生土器	文化財調査事務所	学術研究
35	堺市立みはら歴史博物館	平尾遺跡・丹比廃寺	須恵器 瓦	文化財調査事務所	展示
36	奈良県立橿原考古学研究所・ 御所市教育委員会・大阪大学・ 立命館大学	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
37	奈良県立橿原考古学研究所	鳥坂寺跡・新堂廃寺	塼仏・軒丸瓦・軒平瓦	文化財調査事務所 泉北収蔵庫	展示
38	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
39	成安造形大学・他	蔀屋北遺跡	陶質土器・須恵器	文化財調査事務所	学術研究
40	大阪府立狭山池博物館	津堂城山古墳	写真	文化財調査事務所	出版
41	兵庫陶芸美術館	「府立大阪博物場」旧蔵陶磁器	仁阿弥道八・一方堂	文化財調査事務所	展示
42	大阪府立狭山池博物館	亀井遺跡	写真	文化財調査事務所	展示
43	奈良県立橿原考古学研究所・ 御所市教育委員会・文化庁	萱振1号墳	埴輪	文化財調査事務所	学術研究
44	奈良県立橿原考古学研究所・ 大阪大学大学院	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
45	大阪府立弥生文化博物館	大坂城三ノ丸跡	鐔・笄	大阪府立大手前高等 学校（長期貸出）	展示
46	大阪府立近つ飛鳥博物館	北玉山古墳・板持３号墳・ 馬子塚古墳・大園遺跡	捩文鏡・重圏文鏡・斜縁二 神二獣鏡・管玉・埴輪	文化財調査事務所 泉大津収蔵庫	展示

47	大阪大学大学院・滋賀県立大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
48	奈良県立橿原考古学研究所・京都大学	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
49	北陸学院大学	木の本遺跡・田井中遺跡	弥生土器	泉北収蔵庫 文化財調査事務所	学術研究
50	大阪府立近つ飛鳥博物館	高木遺跡・府中遺跡	写真（縄文土器・自然流路）	文化財調査事務所	展示
51	茨木市史編さん委員会	新庄遺跡・初田古墳・上寺山古墳・西福井遺跡	青磁 白磁・緑釉陶器・瓦・石器・弥生土器・塼・銅釘・ガラス小玉・金環・須恵器・埴輪・縄文土器	文化財調査事務所 泉北収蔵庫 泉大津収蔵庫	出版
52	大阪府立近つ飛鳥博物館	池島・福万寺遺跡	陶質土器・布留式甕	泉佐野収蔵庫	展示
53	奈良県立橿原考古学研究所・大阪大学大学院・大阪府文化財センター・文化庁・他	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
54	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	蔀屋北遺跡	鞍（レプリカ）・輪鐙・鑣轡・U字形土製品・刀形木製品・他	文化財調査事務所	展示
55	奈良文化財研究所飛鳥資料館	新堂廃寺	棰先瓦	泉北収蔵庫	展示
56	奈良県立橿原考古学研究所・御所市教育員会・関西大学	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
57	茨木市市史編さん委員会	新庄遺跡	軒丸瓦・軒平瓦	文化財調査事務所	学術研究
58	北陸学院大学	余部遺跡・府中遺跡・土師の里遺跡	羽釜・三足鍋	文化財調査事務所	学術研究
59	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
60	奈良県立橿原考古学研究所・大阪府文化財センター・御所市教育委員会	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
61	奈良県立橿原考古学研究所・大阪市立大学・京都橘大学・大阪府立近つ飛鳥博物館	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
62	大阪府富田林土木事務所	東高野街道・西高野街道下高野街道・中高野街道	写真	泉北収蔵庫	出版
63	大阪府立近つ飛鳥博物館	池島・福万寺遺跡	陶質土器	泉佐野収蔵庫	展示
64	岡山市教育委員会	安松田遺跡	平瓦・軒平瓦・丸瓦	文化財調査事務所	学術研究
65	奈良県立橿原考古学研究所・関西大学	田辺廃寺・正法寺跡・河内寺跡・河内国分寺跡・百済寺跡・坂本寺跡（禅寂寺）	塼・軒丸瓦・軒丸瓦	泉大津収蔵庫	学術研究
66	石川県埋蔵文化財センター	池島・福万寺遺跡	縄文土器	泉佐野収蔵庫	学術研究
67	泉佐野市立歴史館いずみさの	安松田遺跡	平瓦・軒平瓦・丸瓦	文化財調査事務所	展示
68	奈良県立橿原考古学研究所・大阪大学大学院	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究

平成 24 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

課長
- 保存管理グループ
- 文化財企画グループ

【文化財保護課】
TEL 06（6941）0351（代表）

調査管理グループ	資料総括	主査	三宅正浩	遺物整理、写真・保存処理
分室長（参事）	主査　藤永正明			資料管理、資料貸出等
渡邊昌宏		主査	岡本敏行	センター指導・調整、事業量調査等
	活用総括	主査	亀島重則	資料管理等
	主査　阪田育功	副主査	藤田道子	遺物整理
		専門員	広瀬雅信	大阪博物場旧資料の整理
		専門員	北川　知	積算及び竣工検査等
調査第一グループ	調査第一総括	主査	松岡良憲	発掘調査・調整・指導（中・北河内）
調査第一補佐	主査　宮野淳一	主査	大楽康宏	発掘調査・調整・指導（豊能・三島）
山本　彰		主査	宮崎泰史	発掘調査
		主査	山田隆一	発掘調査
（北部地域の調査）		副主査	杉本清美	発掘調査
		副主査	三好　玄	発掘調査
		専門員	岩瀬　透	発掘調査
		専門員	阿部幸一	発掘調査
調査第二グループ	調査第二総括	主査	小林義孝	発掘調査・調整・指導（南河内）
調査第二補佐	主査　橋本高明	主査	辻本　武	発掘調査・調整・指導（泉州）
大野　薫		主査	竹原伸次	発掘調査・設計補助
		副主査	西川寿勝	発掘調査
（南部地域の調査）		副主査	林日佐子	発掘調査
		副主査	奥　和之	発掘調査
		専門員	藤澤眞依	遺物整理
		専門員	西口陽一	発掘調査

【文化財調査事務所】
TEL 072（291）7401

構造規模／鉄骨３階

敷地面積／ 4,504.76㎡

延床面積／ 4,739.22㎡

図 120　文化財調査事務所平面図

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 17
発行日　平成 25 年 10 月 31 日
発　行　大阪府教育委員会
〒 540-8571
大阪市中央区大手前 2 丁目
℡ 06-6941-0351（代表）
編　集　大阪府教育委員会文化財調査事務所
〒 590-0105
堺市南区竹城台 3 丁 21-4
℡ 072-291-7401
印　刷　（株）近畿印刷センター
〒 582-0001
柏原市本郷 5 丁目 6 番 25 号
℡ 072-972-5918